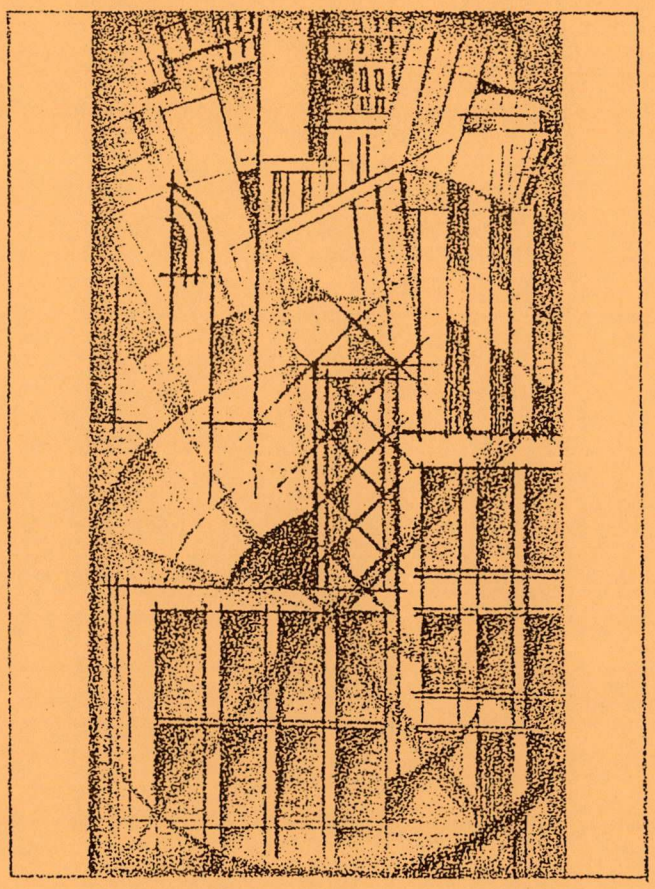
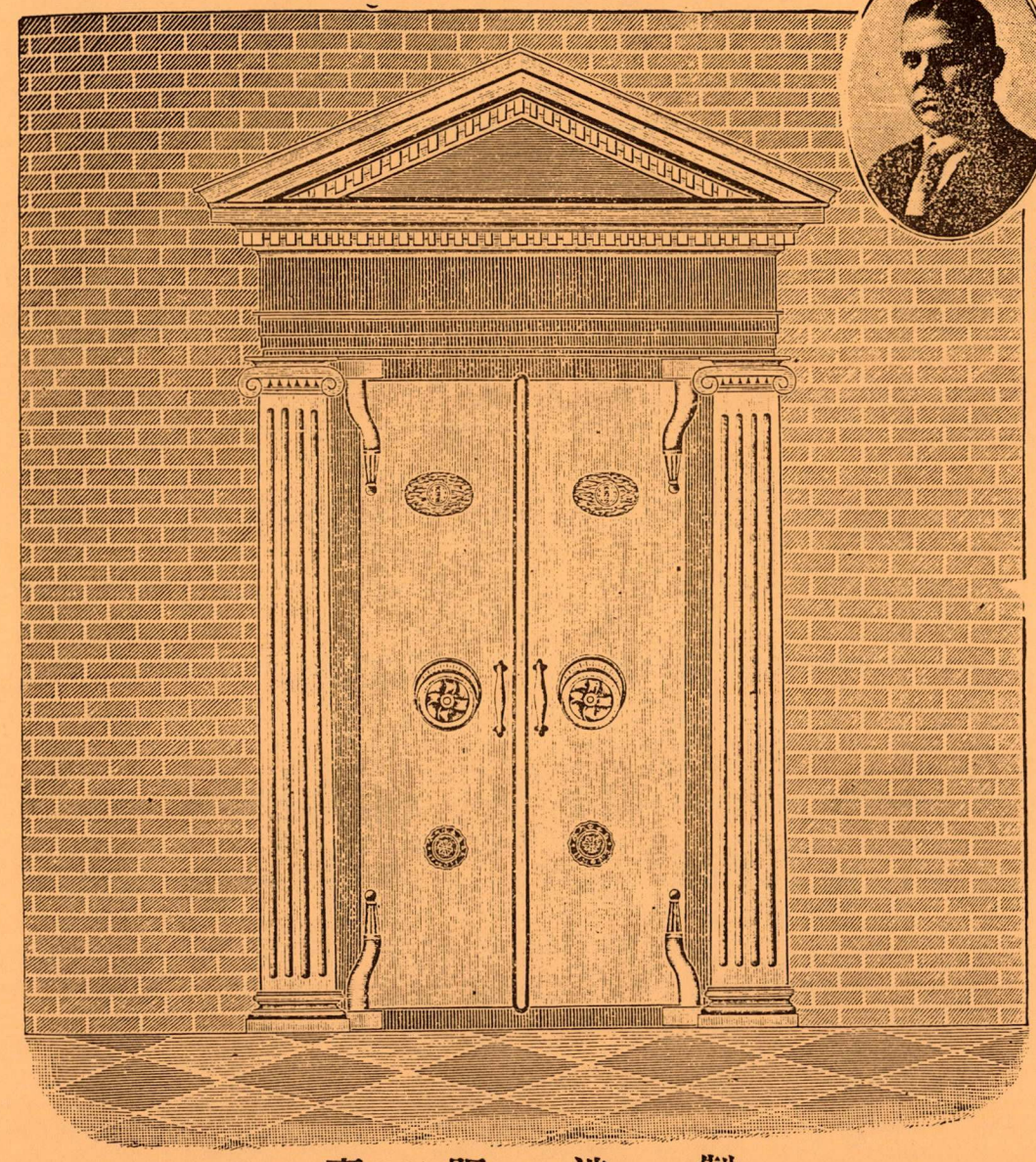
建築と社會

第八輯　第四號



大正十四年四月一日

大谷製金庫室鐵扉



大谷金庫技師　アルフレツト、シユハルト

製造販賣

東京

大谷金庫店

京橋區岡崎町二丁目廿五番地

電銀座三、一三四番

振替東京二九九九六番

京都

大谷金庫店

松原通東洞院東入

電下(長)五三二番

一九〇番

振替大阪八六三三番

大阪

大谷金庫店

東區淀屋橋筋(道修町)北入

電本局三九三四番

振替大阪八六三三番

神戸

大谷金庫出張所

楠町六丁目交叉點西

電本局四八〇七番

振替大阪六〇九一〇番

高級昇降機

エー・ビー・シー

▼現在ノ最大建築ニ使用サレ！

▼今後ノ高層建築ニ採用サレントス！

最近御採用御先方御報告

丸ノ内ビルデング	十一臺
日本郵船	八臺
日本興業銀行	四臺
中外商業新報社	一臺
特許局	一臺
阪急電鐵	一臺
泉尾土地會社	二臺
大學病院	二臺
松竹キネマ座	二臺
神戸商船ビルヂング	四臺
明治海運ビルヂング	四臺
淺野物産	一臺
村井銀行神戸支店	一臺
ブラナモンド社	二臺
内田ビルヂング	三臺
明治屋	二臺
其ノ他	十臺

A, B, See!

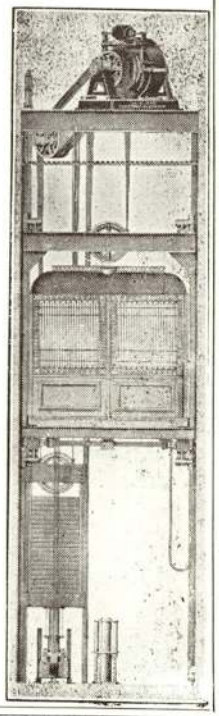
ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISED IN 1883



Esteemed enquiries solicited!



東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪



建築と社會第

繪口

○メックユイタ塔の外觀と玄關の遠望
○ユマルの塔とパレイ、アラブの中庭
○ナランジオの中庭
○アルハンブラ殿堂用水の取入口

■建築の社會性……（一）

▼借家賃昂騰原因としての粗造家屋……渡邊鐵藏（三）

▼愛なき都市計畫……大屋靈城（七）

▼家族を含む自畫像……本野精吾（四）

▼借家難……津田鑿（二）

研究三題

剛節架構の彎曲率解法……大野直平（一六）

木材利用……藤岡（三一）

セメントの製造並に變化……細木松之介（三三）

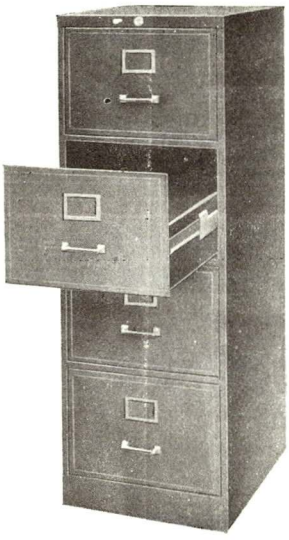


八輯第四號目次

▼阪堺電車田園住宅懸賞應募圖案評……武田五一…(三四)
▼希臘時代の彫刻概論(四)……古塚正治…(五九)
▼我家建築の後や先き……木水榮太郎…(四七)
▼冬の家……S・T…(四四)
▼黎明劇を見たまゝ……池田谷久吉…(五六)
▼都市惡の拒否……別所悌一…(五二)

創作
春の夜の話二題……春日野住人…(六五)
●俳壇……溪舟選…(六四)
●初心の人に……同人…(七四)
□時事……(七五)
□主要建築材料値段……(七七)

◎三菱のアートメタル製品
（鋼製家具）



特色
耐火堅牢
外観優美
價格低廉

尚塗色ハオリーブクリーン
ノ外、納チーク縞地、ウォ
ルナット、マホガニー杢目
等如何様ニモ製作可致、家
具類ノ外、開扉、窓枠等ノ
御注文ニモ可應候
型錄御申聞次第進呈





Nagasaki Works
MB Zosen Kaisha Ltd.

耐火建築の
家内家具には
是非三菱の
アートメタル
製品を
御使用願ます

製造所

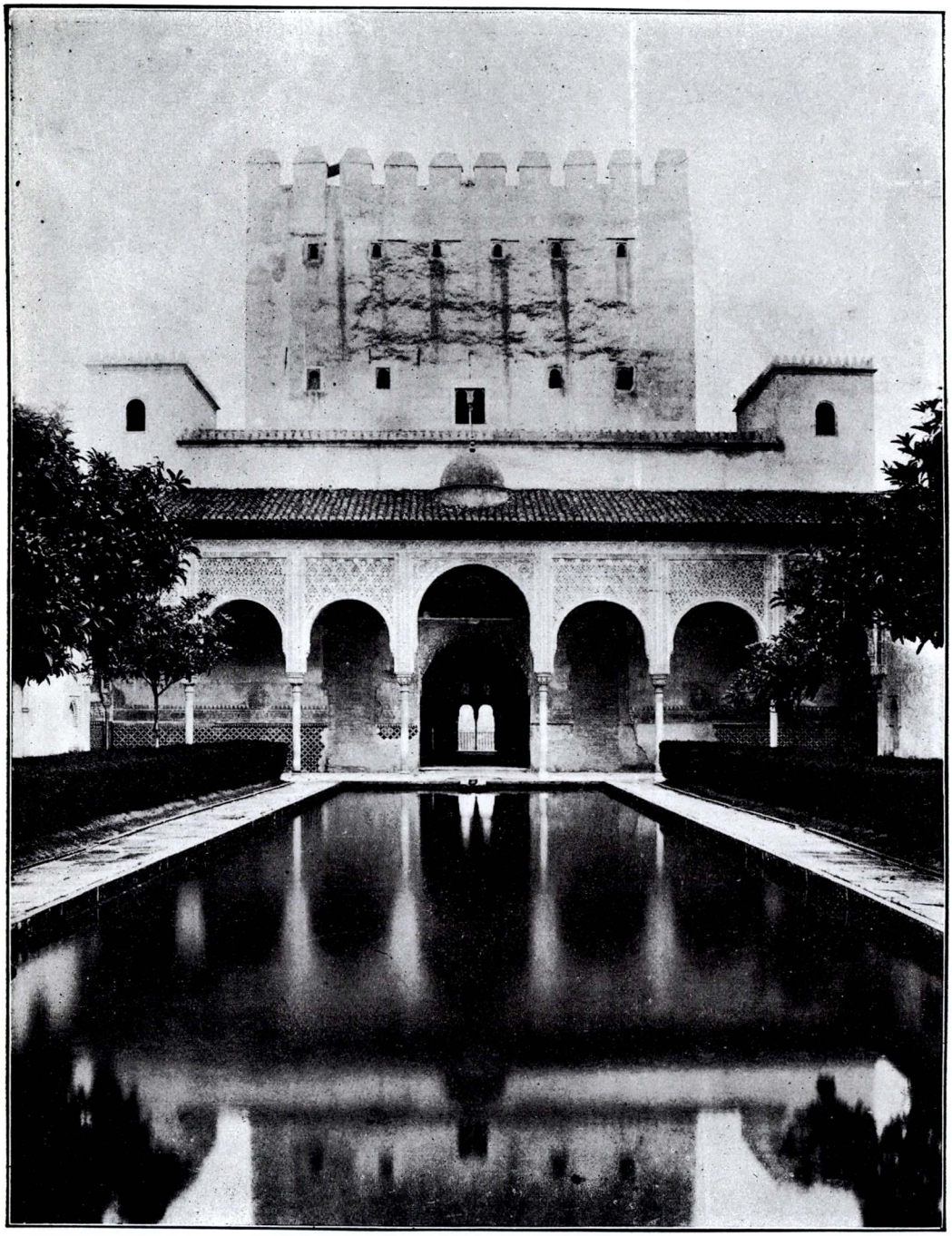
三菱造船株式會社長崎造船所
長崎市飽ノ浦町一丁目

取扱店

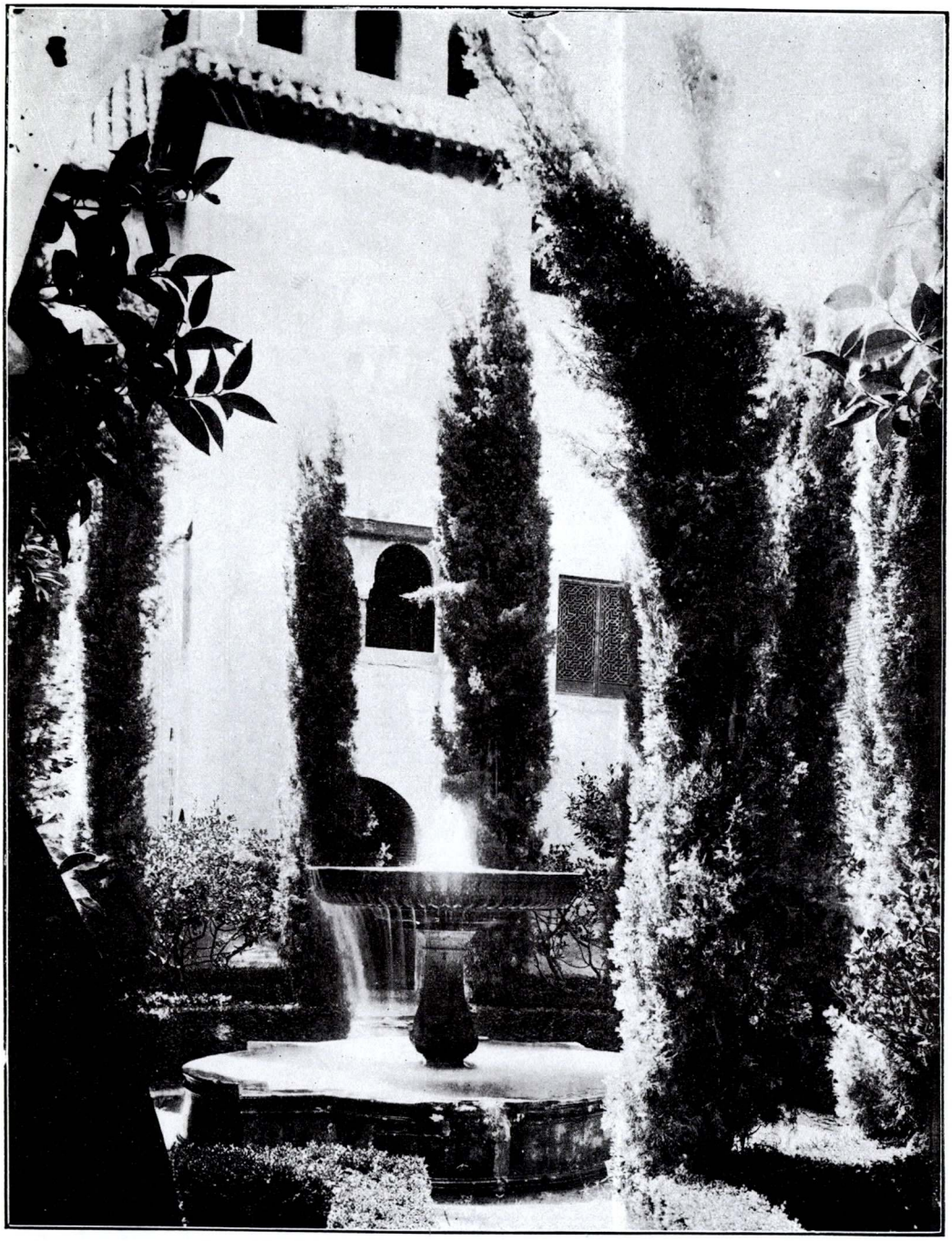
三菱商事株式會社機械部
及各支店出張所
近畿地方取扱店 同大阪支店機械係
大阪市南區安堂寺橋通三丁目十五 電船 3800—3803 3841 3844 2882 3885



メックュイタ塔の外觀と玄關の遠望



ユマルの塔とパレイ、アラブの中庭



ナランヂオの中庭



アルハンブラ殿堂用水の取入口

口絵説明

アルハンブラの殿堂は人類の建造した建物のうちでも世界の三大不思議なもの〳〵一つとして、また、其周圍の風光の奇勝と相俟つて驚異の的となつてゐる。

我國でも建築家としてアルハンブラの殿堂と云へば知らない者のない程著名なものではあるが、多くは獅子の庭其他の二三であつて、曾つてその周圍の風光と庭園の美を紹介したもの〻少いのは遺憾なことである。本誌は主として此方面を掲載することゝし、これに極く簡單な説明を附することゝした。

西班牙の西南隅、亞弗利加のマロックに近い南歐の氣分に最も豊な地方の小都市グラナダの東北隅にセルロー、デル、ゾルと云ふ一連の丘がある。アルハンブラの殿堂は此丘の頂上の平原に小塔の聳え立つ城壁を以て圍まれた城内にある。面白い事には其玄關は此丘の東に百五十米突も經てた別の丘に設けられてゐる。風光として最も奇勝に富んだところは北と東北の麓に流る〻ダルローの狹谷である。「蓋しアルハンブラの建築の美は此ダルローの狹谷あるが爲めにどんなにか其美が一層助長せられてゐるか知れない。

その名がアルハンブラと云ふのは亞剌比亞語のアル、ハンブラ(赤い色)と云ふのであつて、此殿堂の輝しい華麗なと云ふことを意味してゐるのだと云ふ事である。



□□建築の社會性□□

「ギュイヨオ」は、「藝術」の社會性を說いて、「藝術は自然界の全存在、"及び超自然に考案された存在、或は、人間想像力によつて創造された假構的存在に向つて、感情を通じての社會の擴張である。藝術的情緒は、此故に、その本質に於て社會的である。— 即ち藝術の最高目的は、社會的性質を持つ美的情緒を生成することにある。」と說いて、建築の本質を陳べてゐる。曰く「建築が生命を保護する樣に作られた以上、その中に藏さるゝ運動、及び、生命は、いはゞその材料を滲徹して、それを通じて外部にまで現はれなくてはならぬ。生命を目標として造られた以上、建築は、それ自らに於て、一種の生きてゐる個體でなくてはならね。外に向つて開く孔隙、窓はその眼であり、門はその口であるとも云へよう。その他總ては生ある一擧一動を現はすものと見られる。動物の最初の建築物はその貝殼であり、甲であつた。それ等のものは、殆んど彼等自らの體と一體となしてゐるものであつたが、それは、纏て、巢となり、その形式は、その種屬に應じて適當する樣に作られることになつた。今日に至つては、建築も家庭的或は社會的性質を具備するようになつのである。……(郊郵)

新聞の雜誌

名古屋新聞より

便所設備と糞尿量

〔問〕人間が一日に排泄する糞尿の量を問ふ(便所建築技師)

〔答〕危ふく雪隱詰に遇ふところでしたが辛うじてお答へします容器を作つて一日御自分で御實驗になれば直ぐ明かになりますが水洗便所なれば一日一人當り二立方として計算します

淨化裝置とは何か

〔問〕淨化裝置に就て簡單に御教示を乞ふ(令井生)

〔答〕汚水を人畜に無害なる狀態に淨化せしむるに要する設備にて普通に稱するは單獨淨化裝置にして自然淨化法なりとす、糞尿、汚水等を腐敗槽に導きアネロビックバクテリアの作用によつて有機物を分解液化し、碎石槽を設けて濾過し、更に酸化槽に導きエバビックバチルスの力をかり汚水中の窒素化合物に化學的變化を起さしむれば汚水中の病原菌は大部分死滅するも菌の生存せることあるを以て更に消毒槽を設け藥液を以て殺菌し然る後下水に放流す當市に於ては水槽便所は必ずこの裝置を施さゞる可からず、大正十三年二月八日愛知縣令水槽便所取締規則從ふ事ふ要す

寢室の狹きを救ふ

〔問〕私の宅は或る建築家に設計して頂いて建てたものですから食堂、居間、寢室と各獨立して使用出來て私共夫婦と女中との生活には非常に住居心地も勝手もよく滿足して居りますが、疊敷の間が夫婦の寢室と女中室よりなく時折の來客に泊まつて頂く室がなくなればとて折角椅子生活に半ば改めたのを居間を疊敷にするのも逆戻りする樣で困ります、思ひきつた方法がないでしやうか(櫻子)

〔答〕居間へ寢臺兼用椅子を備へ付けたらそれで宜しい、必要の時は結構な寢臺となり、常には濕じのよい長椅子として使へます價格は百五十圓位、橫濱根岸石川匠務所で製作して居ります

座敷と電燈の燭力

〔問〕六疊の書齋に五十燭のマツダ電球をつけてゐますが專門的に考へて不經濟でせうか(新柳川町古田君三)

〔答〕天井の高さ、室内の色彩等によつて異りますが、日本室なれば疊一枚につき四乃至六燭光が適當な明るさです

三疊 一〇燭——一六燭
四疊半 一六燭——二四燭
六疊 二四燭——三二燭
八疊 三二燭——五〇燭
十疊 五〇燭——八〇燭

書齋なれば右のマキシマムが程度でしやう

學校教室反響音

〔問〕鐵筋コンクリート造校舍の教室は反響が强く噪音になやまされると聞いて居ります、如何でしやうか(音樂を敎ふる者)

〔答〕御說の通りです、大阪の汎愛小學校の如きは設計者安井工學士も苦心の結果壁にリノリユームを張る計畫をたてゝ居られる樣に聞いてゐます。音響の爲めにも眼で見た感じからも經濟上からも亦工事の簡易の點からも一等良いのは絹壁塗りとする事ですがこの材料は一般建築家にも殆ど知られてゐない樣です

防腐劑と其耐火性

〔問〕木材に防腐劑を塗ると火を引き易い樣に思はれますが如何でしやうか(文化住宅生活者)

〔答〕防腐劑の多くは最も引火し易い油ですが防腐劑を塗布した木材は實驗の結果却つて耐火性となる事を證明されました

鋼製建具木製比較

〔問〕鐵の窓障子は木製と較べ幾何程の差有之候哉、又體裁〇しき標思ふが如何(岩井町家主)

〔答〕鋼製建具は總て枠及金附ですから普通木製の三倍位で貴下の御附近の鐵筋コンクリー造の店舖に使用してあるのは工場向のものですから仰せの通り恰好も良くありくせんが東京建鐵會社あたりで隨分優美な高級品の製作が出來ます

完全な倉庫防火壁

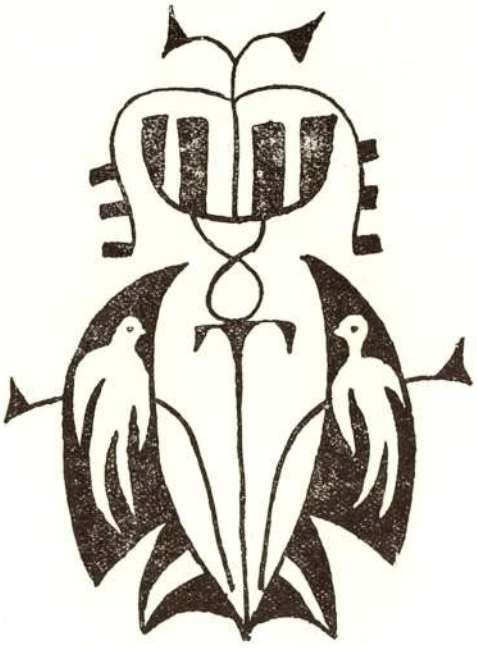
〔問〕煉瓦造の倉庫内を仕切る壁を設けんとするに防火の必要あり、簡易にして且完全なる工法ありや(一工場主)

〔答〕鋼製の間柱チヤンネルスタツトを建て、ハイリブラスを張り豆砂利コンクリートを塗りとす詳細電話又は來談あればスタツトの大きさ、ラスの番、コンクリートの厚さ等御知らせす

月賦建築可否

〔問〕近頃月賦建築の勸誘を受けまして、一つ住宅を建てたいと思ひますが、確實なものでしやうか(千早町田端生)

〔答〕債券の月賦でわかつと云つた商賣を建築の月賦にその對照物を代へたいけで貯金會社とか利殖會社とか稱したものが看板を塗り替へたものが多い樣です名は建築の會社でも技術者は居らず出來上つた建物を拜見と出かけても殆どなくその代り外交員を盛んに使つて居ります、月賦建築拂込方法通りに金をお拂ひになるのなれば相當經歷のある建築業に相談も致します、月賦建築を目的とする會社の內容に就ては項を改めて書きます



借家賃昇騰原因としての粗造家屋

渡邊鐵藏

西洋の家に比較すると、日本の住宅の家賃は非常に高くなつて居る、殊に東京の如きは家賃の高いことは驚く程で、其粗末な、危險な設備に比較して、到底計算出來ぬ割合である近來私の考へた所に依ると、東京などで、家賃の高い最大の原因は我々が粗末な木造家屋を個々に建てることになると思ふ、言葉を換へれば、大都會總ての人が粗末な木造の家屋に住んで居ることが、家賃の高くなる最大の原因である、もつと立派な家を建て永久的堅固な家屋を造れば家賃は遙に〳〵安くなると信ずる。

斯う云へば、如何にも奇矯の言のやうであるが、事實は其通りである、現在東京の燒跡に建築される家屋は勿論、郊外などに建築される家でも多くの場合に敷金、及び雜作として建築費の六七割乃至十町では十割も取る場合が多い、其上家賃を決定するに當ては大體三年間の家賃で、建築費を回收する計算であると云ふことである、私が簡單に計算して見ても目下東京市の家賃は通常疊一疊敷三圓五十錢見當である、然らば建坪一坪に付き三圓五十錢と云ひ得る、即ち一年間に一坪四十二圓の家賃を拂ふ計算になる、即ち一坪の建築費百二十圓の家ならば三年間の家賃で建ち、百八十圓の家でも四年間の家賃で建つ計算になる、少くも二三十年は使用し得る家屋の家賃建築費を三四年の家賃で回收する程度で定められては家賃の高くなることは當然である、之を西洋の例に比較して見ると、私が讀んだり、或は直接に西洋人から聽いた所に依ても、多くは建築費を三十年間以上で回收する計算で家賃が定められるとのことである、然れば此點だけから見れば、同一の建物に付ては日本の家賃は西洋の家賃より十倍になら

なければならぬ計算になる、勿論西洋の建物は永久建造であり、建築費が多く要かるから、假に一坪の建築費が日本の二倍要、ると見ても、西洋の家賃は日本の五分の一に過ぎない計算になる筈だ。

斯かる差異の生ずる所以は西洋では永久建造物を建てるからである、從て我國でも永久建造物を建てゝ、耐火耐震建築を普及させれば、家賃は必ず安くなるに相違ない、世間では耐火耐震建築をすれば、如何にも贅澤なやうに、又家賃も高くなるやうに考へるが、事業の組織と金融の途さへ講ずれば木造家屋よりは遙に安いものになる、耐火耐震建築をすれば生命財産の安全が保證されるのみならず、家賃の安くなり得ることは上述の通りであるが、然らば如何にして此建築を普及さすべきかゞ問題である。

元來我々は一日の食事は數時間の勞働で得られるし、被服類等も十數日の勞働で得られる、併し個人の勞働で自己の住む家屋を建築し得る者は少い、住居は數十年利用出來るが、一時に建築費を要するものだ、之に對して何等か特別の金融の方法を講ぜずして、立派なものが出來る筈はない、此途が我國に開けてないからこそ、燐寸箱のやうな、又用心籠の一種のやうな「バラック」建が充滿することになる、さうして度々其家屋のみならず、商品家財を燒棄てゝ居ることは歐米人から見れば、恐らく日本人の無神經、無計算、下等な言葉で云へば、其馬鹿さ加減が理解出來ないと思ふ、建築は右の如く一時に資金を要するものであるが、元來大資本家は之に資金を投ずることを好まない、口の利ける人間が其借家に住むことは苦情の種となるので、それを嫌ふからである、中資本家は算盤を彈いて、もつと收益の多い、早く金の廻る營業又は有價證券に投資しやうとする、そこで建築に投資する者は總に一部の地主若くは數戸の借家を有つて、其家賃で生活費又は子弟の敎養費に充てやうとする最小資本家があるに過ぎない、而も我國には住宅に資金を融通すべき不動產銀行も無く、保險會社も餘り此方面に貸付をせず、不自然ながら銀行が例外的に特別關係で貸付をするに過ぎない、到底大規模建築の起り得べき理由が無い、建築は大規模に行へば、建築費の安くなることは專門家の言ふ所であつて、木造建築でも機械力を利用して、大規模生產の方法を取れば、三割安になるとのことである、殊に耐火耐震建築を行はうとすれば、勿論大規模建築を行はねば、割安にならない、從て建築費を低下し、且安全堅固な永久建造物を實現せしむる爲には、建築會社、其他の事業組織を造り出すことが必要である、又是等に對する金融の途を備へることも必要である、此二者さへあれば、建築は割安に出來、建築改革が行はれると共に、家賃は遙に安くなる、私の計算に依ると、每年生れる人口に對して日本では一年約十二萬戸を建築せねばならぬし、在來の家屋を改築する爲に、一年少くとも二十八萬戸を建築しなければならぬ、一戸當り非常に安く見て、千五百圓とすれば、建築費總額六億になる、之に事務所、商店、公共建物、工場、娛樂場、其他の建築物を加へれば、每年十數億の建築費が要る譯である、此巨額の金が直ぐに燃えたり、壞れたり、風で飛ぶやうな形で投資されることゝ、百年も二百年も保つ、安全堅固な形で投資されることは國家經濟上から見ても、其利害は莫大なことになる、安からう、惡からう、一文吝みの百知

らずと云ふことは我國民の建築に對する無理解に關して最も適當な譬諭のやうに思はれる、度々住宅を建てたり、燒いたり、腐らしたりして居つては、我國民は他の生産文明等に對して向上し、又世界の文化に貢献すると云ふ所まで伸びる餘裕が無くなる譯だ、是等の大きな眼界から見ても、現在のやうに危險な粗末な家屋に住んで居ることは莫大な損害であると思ふ。

今回の大震災後の帝都の復興に當ては右の理由から是非とも大規模の建築會社並に金融の途が必要であるが、幸にして今回復興建築會社が二千萬圓の資本金を以て設立され、政府が之に對して六千萬圓の貸付をするやうになつて、間もなく是が實現せんとして居る、當然進むべき所に進んだのであらうが、是は單に東京の燒跡の復興ばかりに考慮すべき問題ではない、總ての大都市に於ける郊外地其他の新住宅地の發展に當ても是非とも出來得る限り適用すべきものと思ふ、東京大阪の郊外を見ても、無計畫に個々に粗末な家屋が建て居るが、斯かる狀態では市街の發展することは曾に危險不便であるばかりでなく、生活費を高くする處があるから、計畫的に或程度までは一團の住宅地を開發して、之に堅固な安全な建築をすることが必要である。

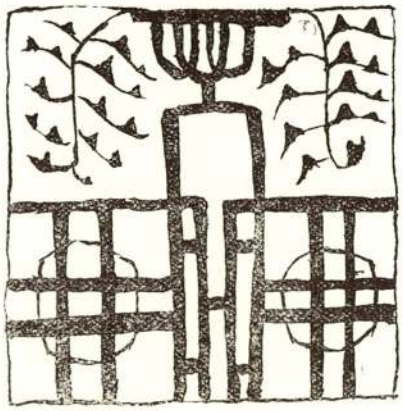
住宅地に付ては郊外であれば、中流以上の住居に付ては餘地もあらうし、木造も認められやうが、市内の營業所に至つては絶對耐火的に耐震建築になすべきものである、或者は鐵筋コンクリート造では日本人の營業住居に適當しないやうに考へるやうであるが　左樣な處は毛頭無い、現在東京では營業法として、盛に鐵筋コンクリート造が用ひられた、汁粉屋でも、蕎麥屋でも、車屋でも、一向差支なく仕事が出來る、況や住居としては最も安全なものになる譯である、先般右の復興建築會社の設立に先て、復興局で假に調査した實例に依ると、鐵筋コンクリート造の營業所も十五年間の年賦販賣の方法に依て建築會社が之を賣渡すとして、一坪に付き矢張り四十五圓見當になる、然れば之と私が初に言つた粗末な木造バラック一坪一年四十二圓の家賃と比較すれば、如何なる差異がそこにあるか、現在東京人は是だけの高い家賃を拂ひならが、永久に建物は自分のものにならず、又危險極まる生活をして居る、然るに鐵筋コンクリート造でも長年月の年賦販賣法に依れば、殆ど同じ金額で結局自分の所有になる又日常安全な生活營業が出來る譯である、斯の如き重大な差異のあることを考へれば、是非とも此際鐵筋コンクリート造を普及せしめねばならぬ、此永久建造物が普及すれば初に私の言つた通りに、建築費を急いで回收する必要は無いから、家賃は必ず安いものになり、又一坪當りの建築費も五割乃至七割も鐵筋コンクリートの方が高いやうであるが、大規模建築になれば其差は益々少くなる、殊に斯かる安全建築物であれば、金融の途も付くことであるから、益々割安なものになる、此故に政府、公共團體としては出來得る限り建築會社、建築金融の爲に援助し、民間のものは出來得る限り此安全建築又、本當の意味に於ける安い家賃の建物を利用する心掛に進むべきであると思ふ。

算盤から云つても、耐火構造の方が利益なことは右の通りであるが、火災に對する危險の保證から云つて、是非とも耐火建造を奬勵せなければならぬことは、這回の大地震否大火

災を經驗した者は決して忘れてはならぬ等のことである、然るに一般の國民が此點に付て割合に無神經であることを私は驚いて居るが、最近東京市内には屢々火災がある、一日數箇所づゝは必ず起る、先日淺草田原町に火事があつて、三百戸が七十五分間に燒けたと云ふ話である、一戸十五秒で燒けた計算になる、大地震の時の火災であれば、無論一秒間に數十戸も燒けた計算になるのであらうと思ふが、斯かる恐るべき火足の速さは無論木造建築である爲である、財産に關する損害の恐るべきことは勿論、生命の危險さへあるのであるから此大震火災を眼のあたり見ながら、耐火建築の重要なことを覺らぬやうでは、恰度ガソリンの置場に炊火をして平氣で居るやうなのと、同じ精神狀態と見て可からう。

三池の囚人が發明した
コンクリートの碇子張り
世界的大發明として推賞

司法省が囚人に發明を奬勵してから既に一年今日迄に發明協會に集まつた新發明が百五十餘件に達した事は既報の通りであるが中にも廣島刑務所囚人堀野市太郎の輕機砲、堀川鐵次の安全德利蓋三池の植村益宣の毛筆用白色紙石盤製法、岡山の濱本新七が發明せる自動循環精米機渡邊久雄の萬歳立等は既に專賣又は新案特許を得て特許局を感服せしめて居る現に協會では發明調査員たる高松、鴨居、加茂、松浦、園口の諸博士が熱心に審査の任に當り特許出願等の手續も概して本人の希望を容れて代理行爲を採つて居る、殊に最近世界的大發明として發明界に大衝動を與へたのは三池刑務所服役中の囚人で前記紙石盤の發明者である植村益宣がコンクリートの碇子鍍金法を發明した事である之れはコンクリートを碇子張りにする方法で建築界に一大革新を齎すものと想像されて居る同人は右の外四十餘件の發明品あり當局も共の天才振りに舌を捲いて感心してゐる若し讓り渡し希望者が出た場合は協會の勝手で世話をする事になつて居る尙近く囚人の發明を取纏めて第一回發表の準備中である



愛なき都市計畫

大屋靈城

一、都市計畫の二方面

都市計畫は法文の上から觀ると『都市の交通、衛生、保安經濟等に關し永久に公共の安寧を維持し又は福利を增進する爲め重要施設の計畫』を指すと云ふ如く誠に有難い計畫であるが、さてその內容を深く研究すると往々にして殘忍な無慈悲な寧ろ破壞的な矛盾した場面を見出すことが難くない。

これは法そのものゝ缺陷より起ることもあり、又法によつて仕事を司る當事者の不心得にも因り、市民の無自覺からも起ることゝ思ふが我國現行の都市計畫に特にそれの甚だしいものあるは實に遺憾である、古い諺に『角を矯めて牛を殺す』と云ふがあるが現行都市計畫の中には或これに類するものがないとも限らぬ。

凡そ都市計畫には二つの方面がある。一つは即ち公共的施設の計畫で他は即ち個人的施設の計畫である。公共的の施設と云ふのは道路とか公園とか公館、上下水道、運河、港灣（時には私設電車の如き半公共的のものもある）等の如く公共の用に供せらるゝ都市の施設で個人的施設と云ふのは市民の各自が自己の爲に邸宅を作り又は工場、店舖等を營むものを指すのである。今日では家一軒建つるにしても監督官廳の許可なくしては建てられない。家の屋根一つ修繕するにも願書が要る。家の修繕に大工半人を要し金貳圓五拾錢を仕拂つたと云ふ如き小さな工事に願書作成費として金拾貳圓と數多の日子とを費すの止むなきに至つたと云ふ如き矛盾した事が度々起つて居るがこれは全く都市計畫の個人的施設を完備させる目的で作られた市街地建築物法の適用に依つて生ずる一つの結果である。最近各都市に於て實施しつゝある地域制の如きも全くこの個人的都市施設に對して完璧を期せんが爲に設けられたる制限である。

都市計畫の中でもこの個人施設に關する計畫及び事業の中には隨分と個人の權利を束縛するものが多い。市民は時にこれが爲に非常な迷惑を忍ばねばならぬ。例へば自分の所有地

であり乍ら若しそこが住居地域として指定されて居るとすれば工場も作られない料亭、芝居小屋、活動寫眞館等も作り得ない。又建物を建つるにも高さ六十尺以上のものは罷りならぬ。これは分り易きホンの一例を擧げたに過ぎないが市街地建築物の工作物に對する取締令を見ると隨分と嚴重な規定がある。斯の如く個人の權利を束縛する事によつて若し市民の福利を增進することが出來或は公共の安寧を保つことが出來るとすれば、市民はこれを堪忍し、遵奉すべきであるが若し斯の如くせずともその目的を達し得らるゝ方法があるとすればこれは誠に愛に缺けた都市計畫であると謂はなくてはならぬ。換言すれば市民を徒らに苦しめる法であると云はねばならぬ。斯の如く都市計畫の中には動もすれば市民の迷惑となり而もこれが爲に都市の將來には餘りに影響を及ぼさぬ如き結果を來し易き部分が澤山に含まれてあるから立法者は勿論爲政者もこの邊に大なる注意を拂はなければ時に大變な損害を招致することがある。

この點は單に個人的施設の方面に停らず公共的施設の計畫に於ても同樣である。例へば茲に市內道路の擴張計畫を企つるとせよ。若し夫れ一本の大道を開設するとするも多大の民家を他に立ち退け、多大の建物を破壞し多大の市民に迷惑をかけ多大の費用を拂はねばならぬ。そしてこの道路が果してこの犧牲を補ふに足るべき効用を將來市民に與へ得るとすればこれは止むを得ぬ事として諦めねばならぬが第一にもこの道路が左程の効果を都市に齎らさないとか又はこの道路の擴張はなくとも都市の機能を阻害せないと云ふ如き場合にはこの都市計畫は實に無意味な馬鹿化た無謀なものと云はねばならぬ、今日各都市が行なつて居る又今や行なはんとして居る道路計畫の內に果してこの無謀な計畫に該當するものが一つもないと云ひ得るであろうか。

愛のない都市計畫は徒らに市民を苦しめることが多い。そして都市計畫の中には隨分と愛のない計畫が行はれ易い面も我國の都市計畫はこの弊に陷り易い方面の仕事のみを急いでやり又好んでやる傾向があるように思はれてならぬ。

何故に都市計畫家はもつと愛情の籠つた都市計畫の方面に手を染めぬであろうか。

(二) 矛盾した改正

私は日本の都市計畫法を批判するものではないが、この法律が完全なものとは信じて居ない。又これの姉妹法である市街地建築物法に就ては猶更のことである。不完全な法律が國民を害することは勿論のことであれば氣づいた都度改正と稱して行なはれた訂正の中には改正に非ずして改惡と思はるゝものも往々あるようである。例へば關東の震災後改正された市街地建築物法施行令中には、確かにそれあるを認める。今左にこれを摘錄しよう。

第十四條　建築物ノ建築面積ハ建築物ノ敷地ノ面積ニ對シ住居地域內ニ於テハ十分ノ六、商業地域內ニ於テハ、十分ノ八、住居地域及商業地域外ニ於テハ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得ス、但シ商業地域內ニ於テ行政官廳特ニ指定シタル角地其ノ他ノ地區ニ於ケル建築物ノ第一階及地階ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

主トシテ住居ノ用ニ供スル建築物ハ住居地域外ニ在ルモノト雖前項ノ規定ノ適用ニ關シ住居地域内ニ在ルモノト看做ス

とあつたものを此度の改正では第二項の『主トシテ住居ノ用ニ云々』以下全文を削除した。これが震災に鑑みた大改正であると云ふから驚き入る。關東の震災に際して幾萬の市民が建物の下敷となつて無慘の最期を遂げたのは果して何の爲であるか全く建物の周圍に空地か少なく家が建て込んで道路が狹まかつた爲ではないか。第十四條はこの空地の制限に關する規定である。而も舊市内は殆んど大部分が商業地域として指定されてある。さすればこの改正によつて市内の住宅では空地が敷地の十分ノ二だけ震災前より減ることになる。これは何たる矛盾であろう。災害の大ならぬように、これを未然に防ぎたいと云ふ目的で改正されたと謂はれて居る改正案がこんなでは市民は益々將來困ることであろう。愛のない都市計畫とはこんなことを謂うのではなかろうか。又一歩を讓つてこれを日常生活の上から考へても矛盾がある。空地を建物地周圍に殘すべく規定した法の精神は住宅の衛生を重んじてである。卽ち室内の採光、通風を十分ならしめる爲に外ならぬ、譬え商業地域にもせよ工業地域にもせよ凡そ住居の用に供せらる建物に就て何等變りはない。却つて商業地域工業地域等に建つ住宅には下層民の家が多いから規定を嚴にせねば好結果は望まれぬ位である。

然らばこの改正によつて下層民の住宅は益々非衛生的に成るように導びくものと考へざるを得ない。而も一部の人は將來商業地域や工業地域に住居を營むものは少ないから此改正は、さしたる影響を及ぼさぬであろうと樂觀して居るが私は決してそう考へない。何となれば今日の市民は決して理の分かつた者ばかりとは限らぬ、中流以下の市民の中には保健とか衛生とかそんな事に無頓着なものが多い。打算的にのみ走り易い市民は住宅に對し最小限度である十分ノ四の空地すら殘すことを敢て好まない。若し玆に一方は十分ノ六までしか建物を建て得ないのに他方はそれより二割多く十分ノ八迄建物を建て得る場所があるとすれば大抵の人は後者の地點を選ぶに違ゐない、何となればそれだけ敷地の節約が出來て人費を省くことが出來るからである、然るに退いて考ゆるならば僅かに二割でも敷地を儉約し爲にその家は常に風通しも惡く光線も滿足に這入らぬ非衛生住宅となり、そんな家には死人が絶えないと云ふ如き不始末の結果を招く。名こそ都市計畫と云つてもこんな結果を持ち來すような都市計畫がどうして眞の都市計畫であり得ようか。これ實に市民の福利を慮はない、人間愛の乏しい矛盾した都市計畫でなくて何であろう。

現在の都市がそれ〳〵地域制を敷いて住居地域、商業地域工業地域と都市を區分して、その土地の用途を定め將來工場と住宅と住宅と商店とを成るべく區別して混沌たる都市の弊を除去しようと試みて居るが何ぞ計らん二十年後の都市は今日以上工場と住宅が又住宅と商店が入れ混じつたものに成るであろう。

商業地域や工業應域さては未指定の地域に行けば住居地域に家を建つるより廉く家が建つ緩い制限で家を建てらる。こんな事を市民が知るならば金に困らぬブルジョアの階級はいざも知らず下層の人々は競つて工業地域に行くだろう。さす

れば折角住居地域を定めて成るべく市民の安寧を保持し都市の衛生狀態を改良したいと云ふ立派な目的によつて作られた地域制の制限が、その結果に於てこれに添はない、とんでもない不都合なものとなる。これでは折角各自が嚴重な法律に縛られ多大の犧牲を拂つた効果が何處にあるであろうか、私は將來の都市がこんなことに成らぬと云ふことを今茲に斷定することはどうしても出來ない。

果して然らば十年二十年間市民の苦心が幾何の利益を齎らすかと云ふ事を疑はざるを得なくなる。換言すれば、斯くまで苦しんで得るところ少なしとせばこれ市民を慮はざるの計畫ではなかろうか。愛なき都市計畫とはこんなものを言ふのではあるまいか。

(三) 手温るい地域制

單に空地の制限のみの爲に斯の如き結果を持ち來すとは云へないが現行の地域制の如き手温るき制度はこれを敷いても餘り効果がないと思はれる特に商業地域にも工業地域にも住居を設け得る。又住居地域商業地域にも或程度の工場は建て得る又現存の工場等には十年間はこの法の適用を或程度までながら延期する等と云ふ緩やかな法律では果して幾十年後にいゝ結果を見ることが出來るだろう。到底理想的の改善が見込みなしとせば一層行なはぬにしかぬではあるまいか、この點は我々の十分研究を要することゝ思ふ。

建築物に對して色々と手組んだ法律を作つてさへ置けば建築監督官と云ふ如き專門的智識を持つた官吏が世間に澤山必要になる、さすれば世間に建築家の需要が殖える。建築家萬能の時代が來る。こんなことを思つてこの法律が出來たのでもなかろうけれど今日世間ではかくの如く解釋して居る人もあるようである。私は決してそう信じないが結果に於て餘りに好い成蹟が擧げられぬと云ふ事になると建築家もその責任の一半を逃れることは出來ぬと云ふ事になるから、うか〳〵として放置すべき問題でもあるまい。

都市計畫に愛が缺けて居ると云ふ事はまだ〳〵色々の方面に實例を擧げ得るが餘り詳細に述れば法を責め當事者を批難すると云ふ如き面白からざることゝなるの虞もあるから茲には成るべく左樣のことを避け單に研究的態度に於て批判を試みるにとゞめる。

(四) 愛の都市計畫

然らば都市計畫は全々市民を慮はざる破壞的の事業ばかりから成り立つて居るかと云ふに決してそうではない。元來都市計畫全體が愛情のこもつた事業のみであるべき筈のものでこれが愛なき計畫と看做するのは本來の精神を失ふ爲に起つた虛僞の都市計畫である。

市民を本位として樹てられ市民に對し同情の滿ちた計畫こそは眞の都市計畫である。この意味を失はぬようにやれば道路計畫にもせよ地域制にもせよ悉く愛の都市計畫である。今日最も愛なき都市計畫はこれ等の外にも不良地區の整理、住宅地の合理的開發事業、公園の計畫事業等澤山ある。

世間では都市計畫とは道路を擴ぐる事位に早合點して居る人もあるが眞の都市計畫は住宅問題に手を染めなくては成し遂げられぬと思ふ。英國は三十餘年來不撓不屈の精神を以て

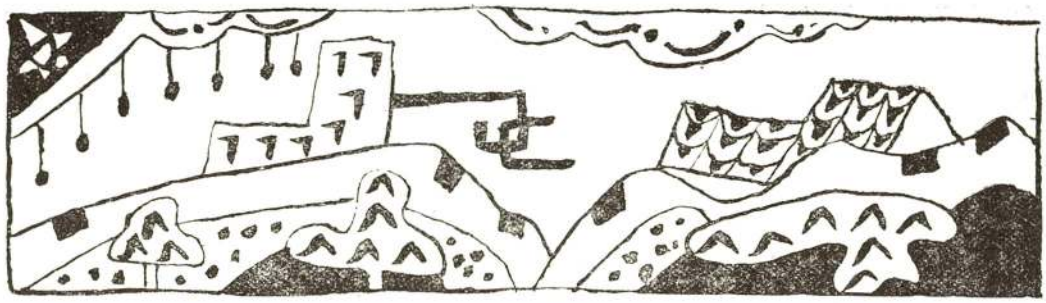
下層社會の住宅問題を解決しつゝある。これ實に世界に誇るべき都市計畫の一つの模範であると云へよう。交通の行き詰り運輸の不便車馬の輻輳と云ふ如き問題は僅かに一本か二本の道路の開發によつて解決さるゝ事で何も大げさに都市計畫等と騒ぐ必要ないが都市に蝟集する事百萬の人々の住居に對し安全に衛生的に永久的施設を講じてやると云ふ如き事は決して一朝一夕に解決するべき簡易の問題でない。

これが解決されずしてどうして都市を磐石の安きに置き永遠の生命あるものとして益々繁榮せしむることが出來ようか強がち住宅問題と稱せずとも、その一部である貧民窟の改良と云ふ小さい一事業でも都市計畫上の一大重要問題である。都市のバチルスと目せらるゝ貧民窟は都市が大となればなるだけ甚だしく擴がつて行くものでこれを都市から一掃すると云ふ事は到底出來ぬ問題である。而も都市のあらゆる衛生的問題や、社會問題、道德問題の根源は多くこの下層民の集團の中に見出さるゝ場合が多い、惡疫の流行に際しても、思想の惡化に際しても、失業の爲に起る色々の面白からぬ社會問題に際しても貧民窟を度外視して考ゆることは出來ない。

我々は市民の不安を除き都市の能率を增大する爲に先づ下層市民の住宅問題を解決してやらねばならぬ。而も下層市民は何れも自力を以て自己の住居並に環境を改善するだけの能力を有せぬものであるから當然市自身又は當局が資財を投じ手を加へて、これが改善に盡さねばならぬ。これは單に彼等下層民の爲のみでなく都市全體の爲である。かくてこそ眞の愛情に充ちた都市計畫は出來上るであろう。都市計畫とは道を擴げて立派な建築群を建て並ぶることではない町の隅々までが都市の裏の裏までが愉快な住宅群によつて充たされ都市全體が一つの樂土に化した時が初めて都市計畫の出來た時である。かくてこそ愛のこもつた都市計畫と云ひ得るであろう愛なき都市計畫、それはブルジョアの都市計畫である。それは虚僞の都市計畫である。

住宅問題に就ても同樣である。今日都市に住む市民の八九割までが他人の家に住んで居る。中產以上の人が僅に一戸の住居すらも持ち得ないではないか。橫暴なる地主と家主との苛責の下に苦められ乍らその收入の四分ノ一乃至五分ノ一をこれ等の人々の手に渡して居る。

低利資金とか住宅組合とか、こういつたようなものが試みられて居るが到底これを以てこの住宅難を救ひ得べくもない地價の無法なる暴騰土地に對するスペキユレーション土地に對する人々の執着此れ等を防ぐべく少なくすべく色々の手段が講ぜられなくてはならぬ。市民に安住を望むならば先づ地價の引卸しを强制的にでも實行しなくてはならぬ、時に法律の力をかるもこの方面の問題を解決する必要がある。この方面の解決に努力することは建築物の取締法を制定すとか都市を燃えないものにするとか云ふ如き企てよりもずつと緊急な問題ではあるまいか、土地が安く手に入り各自が十分の施設をするの餘裕をさへ得るならば別に法令により建築を取締らなくても自ら都市は合理的の建物の群によつて充さるゝに違ゐない彼の北米合衆國を見よ。歐洲の大戰以來世界の富を一國に集め國民の富力幾倍を加へ而もその割合に土地の騰貴すると云ふ如き事なきが爲に彼等の營める都市特に住宅は別に制限を加へざるに先だつて各自理想的の住宅群を作るに汲々として居る今日では各都市競つて都市住宅の完備を期し見る間に、その効果を收めて居るではないか。住宅地開發の問題これは都市計畫の忘れてならぬ重要な方面である、而も斯の如く愛情深き都市計畫は他にあるまい。人々は愛なき計畫を捨てゝ愛の都市計畫に進まねばならぬ。（畢り）



借家難

津田鑿

春寒し貸家さがしの悲哀かな

之は正月早々身にしみた發句である自分は十七文字をならべる程の餘裕はない者が自然と胸に浮かんで出たと云ふより寧ろ絞り出したと云ふ方が適當である一年の計は元旦にありとか云ふ吾々に大切の三が日を過ぎ無事に七草の終つた翌日の早朝家主の妻君は我家の臺所口から丁寧に朝の挨拶があつた。

モヂ〳〵して居るのは何にか要件がありそうで又餘程言ひ出し兼ねて居る樣子であるさもあつたろう十五年の永い間別に家賃の滯りもなく殆んど他人とは思はれぬ程の交際をして來た自分の家族に言ひ出しにくいのは後で考へると尤も千萬と推想される。

青天の霹靂『なるべく近い内に家の明け渡しを御願したいので』と云ふ要件であつた附加へて其の理由は御勝手過ぎる程で一應は御尤も千萬である併し其れは餘りに世間に通用せぬ理屈だ近く嫁にやる娘を今借りて居る私の家に住わせ裏傳いに里の手不足を補ひ婿は未だ薄給の身分意氣地なしとかで幾何か家賃の補助をすると云ふ譯である家主よく考へて物をいえ勿論私は家は借りて居る併し無代ではない尤もロハで貸家營業は出來まいが前にも述べた通り月の終りには必ず家賃を渡して居る又相當の値上げには何日も別に不服なく命之に隨つて居る尙永い間には甚だ心外の事もあつた洗濯物のきたないものはなるべく家主の庭先き（私の家の隣りは家主の庭である）の目に附かぬようにとの御小言があつた之れは高く乾かすからで低くては太陽の御利益がうすいからだ植木を無斷で刈込み過ぎ一向木が大きくならないと云ふ苦情が來た其のくせ電話は殆んど家主が使い通し呼出しのうるさいのは閉口したが其んなことは別に氣にする程のこともなく或時は家賃の値上げに左記の如き失禮な書き方をして來た

記

一大正年月日より家賃一ヶ月金　圓也に相改め候に付き此段御通知申上候　凸凹屋

貧士　樣

自分は或る會社の地所部で貸家營業の方面には永年勤めて可なり經驗を持つて居る家賃の値上げには先づ人間が足を運ぶものだ此樣な命令的の文句は頗る穩でないが虫を殺して何時も其の通り唯々諾々で濟まして來た之には理由がある一つは永く住み馴れると豚小屋の樣な處でもなんとなく動ごきにくいのと場所が相當に便利であつたのと屋根が石油罐の底を葺いてある程家が古いので他よりは家賃が安い此の三つの理由に他ならない春夏は過ぎ秋を迎ふること年々歲々附近の人は相當に馴染顏が變つて行くが相變らぬのは私の家、難有いことには牛込區で郵便が來るやうになる難有からぬことには家はだん〳〵傾いて行くが家主はどうせ其の內取毀す家だからとて更に修繕をしない其れでも辛棒した其れは馴れて居心地がよいのと門內四戶建の內一戶で家主が殆んど門番の役をして呉れる樣なもので頗る要心がよいからである安いには安い丈けの理屈がある第一柱は二寸六分天井の高さは此頃建築する警視廳令には當嵌まらない程低い四疊半は六尺二寸よりない其他推して知るべしでいくら紺屋の白袴で濟ます無關心でも時々情けない氣はするも以上の譯でとう〳〵光陰は矢の如く遂に十五年を過した

己れも男だ志成つた曉巢の一つ位は是非共造つて置き度いとは思ふが差し當り今の處では殘念ながら未だ出來ない相談で諦らめて居る其の譯は言はぬが花だ。

扨ていよ〳〵移轉をすることなれば新たに家を見附けねばならぬ尤も法律上では六ケ月は立退く必要はないとか書かれて居る樣であるがどうせけちの附いた家だみすぼらしいながらも洋服を着て髭を生した貧士だ凸凹家主に馬鹿にされるのも心外と計り一つ男氣を出してあり次第移ることにした。

人は樂しそうに屠蘇の香の失せない正月に貸家探しは決して難有いものでない周旋屋に賴む魚屋の小僧さん八百屋に肉屋に豆腐屋近所の人手當り次第に貸家札を見附けて貰ふて出掛けるが中々思ふ樣なものがない日當りが良ければ家賃が高い一軒建で一寸よさそうな家には前に二階家の窓から見卸される心配がある近所がよければ肝心の家がまづい其の內日は用捨なく過ぎて行く

今迄知人B氏は立退きを賴まれて四年半其儘になつて居るS氏は未だ二年だM氏之は卯で漸く二ケ月だ君心配するなよゆる〳〵引越せよと空景氣を附けては呉れるがどうもそうしても居られぬあとで考へると急いで引越す輩は未だ修業が足らぬ馬鹿者だと感じた。

自分が氣に入りそうな住居は家族に反對されるどうも始末が附かない其の內、外資を募集して郊外に小屋を建てようかと云ふ相談が持ち上つたので暇さへあれば中野、吉祥寺、目黑、池袋、足の向く處に借地を見附けるが水道、瓦斯、電燈、通路風紀と總てが揃ふた處がある筈がない未だ地面が借りられぬに御手のものゝ設計圖は譯もなく造つて見たが決局之は懷の都合と敷地の有無で出來ない相談所謂小田原評定の尤も確實なもので御流れになつて仕舞ふた。

四苦、八苦之は自分が餘り住に對する觀念が缺乏して居つたからこんなことになつて來たのである利巧な人は今時分貸家の二三軒も持つて悠然と暮して居る時分だ馬鹿に面倒臭い癪に障る立退きを要求する權利の履行は家主には勝手はよかろうが引越す當人は餘り感心しない、ゴタ〳〵して居る內に漸く一軒適當のものが見附かつたので差當り移轉する事に決心

した其の間僅かに二十五日なんと鮮かなものだろう。

不景氣風の吹き廻し今幸に貸家は到る處に見出される其れ程家主には酷い時節、中には家賃の値下げを內々やつて居る人もある併しどう云ふ者か引越の實行に氣が進まないなんとかかんとか理屈を附けて其の日〳〵を延ばして居つた。

其れは新らしい場所には顏馴染も勿論ない萬事に勝手が違ふ不便勝ちである其れに日本家は改造が極めて容易である爲め疊を板の間に替たり建具や棚或は各所に自分の取附た造作と云ふものがある之が又一苦勞の種で新貸家法では相當の時價で家主が買取るべく規定され以前の樣にどうしてもよいと云ふ譯には行かないが其れは表向で、どうせ當方の思ふ樣に買取るきづかいはない其の相談が又一と騷ぎでどうせ氣まづく別れるより自分のものは全部取り去ることに取極めたので引越し先きに持ち行き嵌込み取附けられる樣に考へなければならぬ昔の樣な二束三文でなくとも元々家主の造つたものでない自分に都合の良い樣に借家に當て嵌めて造らせた造作は別の家に無難で取附くことは先づないが當然其んなことに又頭を惱ました。

電話の移轉は十日程かゝり五六日不自由をした之は御役所の御都合に任せるよりしかたがない移轉費用をしこたま取られる之が泣きづらに蜂と云ふものだ。

引越しをすると參百の損があるなんぞは大昔のことで今日では五十か百では出來ない別に移轉料でも取ればだが痩ても枯れても貧士には其れも出來ず移轉の通知狀や運送賃細く永くの蕎麥代造作の取付けやモー一つ馬鹿げて居るのは以前は東電を使ふたのに今度は市電の家だとボールトが違つて元の電球では切れて仕舞ふイヤハヤである文明はなんと不便だ。

其他數へ來たれば引越貧乏とは諺の通り不經濟で不愉快の極だ自身が新築した住宅に移轉するのなら別として家主の勝手都合假令證文に何月前の豫告なぞ書いてあつても向ふ許りの意志で立退かされる慘めは始めて身に染みた家主を恨むは酷かも知れぬが終生恨むどころか七生迄祟る積りだ家賃を出して之を受取つて相當の利廻りになつて居る

勿論建物の元價償却、家屋稅地代等に多少は費して居るだろうが私の家なぞは世間より安いと云ふ條件で修繕は自分持ちになつて居る始め借りた時參百圓なら賣つてよいと云ふ程度の家に十五ヶ年間に幾千圓つぎ込んだことになり又若し建て直したら四五邊は建て替つて居る勘定になる大屋商賣も又惡いものではない樣な氣がする。

それが拂ふた家賃で米も買つたろうでこ坊が學校行きの月謝にも出したろう其內の幾何かは親父の晩酌の料にもなつたろうに何にしても其れを零すのでないが震災の時は夜警に迄も引張り出された之は三分は各自の自衛の意味もあるが七分は地主家主の爲めだ其の證據には費用の割り當てに地主、家主には借家住居のものより二、又は三位を加へる相談をした事がある。

扨ていよ〳〵黃道吉日を選んで引越しが濟んだ以前の襤褸家でも懷しい程習慣は恐ろしいもので便利でないようでも便利であつた落ち附く迄は骨が折れるとも片附き過ぎて調子が違ふので不愉快である手が廻り兼ねる押し掛け商人が來る新聞牛乳屋、役所の届、保險の書き替へ近所の挨拶虎の子を預けてある銀行へ通知何にから何迄うるさい計りつく〳〵アバートメントがあつて二室位安く借りたいと

痛切に感じたが其んな洒落た物は未だ江戸の町には見當らないどうすることも出來ない。

引越す迄の相談や貸家探しの無駄の時間を計算したら大變なものだ其れ程左樣に到底金錢では濟むことでない、人生永住の地と定めた處に借家住居はするものでない出來ることなら豚小屋でも堀立でも竹の柱に茅の屋根でも自分の地面に自分の家を建てゝ見たらと思ひながら其の後遇ふ人々からは新築に移轉かと尋ねられ冷汗をかき通しつく〳〵借家難を嘆じて居る時に知人から喜こびの手紙に移轉の通知は定めし理想の新築であろう別包は粗末ながら御祝に迄とて呆れて口が塞がらぬ家主喜べ御蔭で移轉が御役に立つたは此の事か。

一日を過ぎ、二日となりそろ〳〵調子がよくなりそうである此の工合で行くと又十五年辛抱する樣になるかな待てよ今度はしたくないものだ勿論家主にも自分は同情する故に人生家主となる勿れ又借家に住もう勿れだ何れをどのみち又立退きを喰わぬとも限らぬ其の先きに債券を四五本當てたら曲りなりにも所謂理想の新築に移轉したいと思ふ終りに望んで新舊の大屋に敬意を表する。

大正十四年二月

森久井町の寓にて

鋪道材料は何に落つく乎

‖日本の鋪木道の不評判な理由‖

◆牧博士が鋪木道は贅澤であるから、他に材料を求めればならぬといはれたとて、忽ちコンクリート道は破損し易く、輓馬が滑べつて不適當だといふものが出て來た。

◆コンクリート即ち人造軟石の平滑な面は摩擦が少く高下駄で歩るくのも危險であり蹄鐵で、蹴れば破損するのは當然で、結局牛馬車の跡を絶ち靴のみを用ふる時代の鋪道材料である。

◆アスファルトも滑べる點においては、コンクリートと大差ないが、破損率は少い。併し材料な吟味しないと、炎暑の節はゆるみ嚴寒の候にはもろくなる。

◆マカダム道は簡便であるが、一雨ごとに泥濘となり、凸凹を生じて補修がうるさい。

◆即ち牛馬車の往來する間は、煉瓦道が最も經濟てある。

◆鋪木道は前述の諸道路と全くおもむきを異にしてなる牛馬車にも、自動車にも、歩行にも最もいゝが、その布設費が高い。

◆日本の鋪木道の特に評判の悪い原因は、布設法の不充分なると資材の選擇を誤つたためである

◆木塊の悪いといふのは日本產の木材が悪いと速諒されては甚だ遺憾である。

◆わが林木の性質は決して歐米のそれに劣らぬ日本は多濕國で、菌類の繁殖が速かであり、特に木塊の資材たるブナとマツ類は菌類に犯され易い種類である。

◆これを防ぐために伐採の煮沸法が選ばれてゐるが、殆ど無効といつて差支へない。



剛節架構の彎曲力率解法考案と其の研究（其の三）

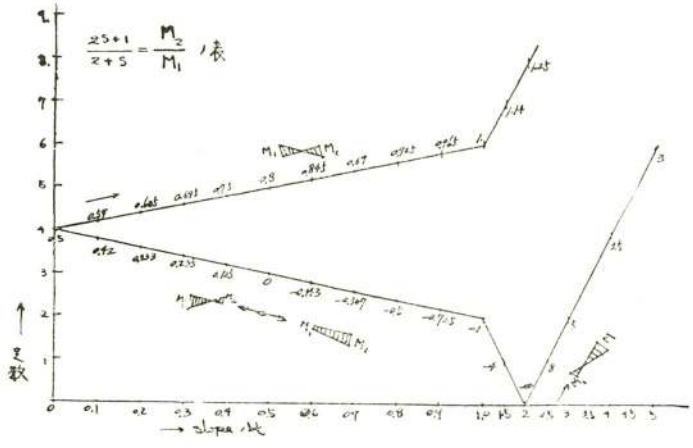
大野直平

1 緒言（の3）

解方の趣意（の三）

第二圖表に於て注意さるゝ事は構材兩端の slope の方向を同じくする場合兩端の moment は構材上下に表はれ slope の比が1の場合は momentは構材兩端共に同一大さを示し1より大となれば益々 moment の比は大きくなり 1: ∞ 迄は斷滅し slope の比∞なる場合moment の比は0:5として表はる乃ち固定端の場合に一致する兩端の slope が廻轉の方向を異にする場合には moment はmemberの上下反對の側に表る時と同一側に表はる場合とが出來て slope の比が ∞～0.5又は2～∞の場合は前者に相當し0.5 ～2の場合は後者に相當するpin joint の如き slope 比が0.5の場合にはmoment比は ∞ となる slope 比が 1, の場合はmomentの比も亦1となる之は廻轉の方向を同じくする場合も同樣であるがmoment の表はれ方が同一方向に表はるゝ點が異る

6.Three span の member を考へたる場合 slope 比の公式と其



應用

（イ）『フレーム』中任意の一部分を取り第廿八圖の如く構材相當の K を假定し load term も亦 $A.B.$ 點を中心とし wQV 及び Q R P を有するものとす

Slope deflection 公式より

$$\left.\begin{aligned} M_{AB}&=2EK_1^2(\theta_A+\theta_B)\\ &-Q\\ M_{AB}&=AEK_3\theta_A+V\\ M_{AC}&=BEK_3\theta_A-W \end{aligned}\right\}=$$

$$M_{AB}+M_{AD}+M_{AC}=0\cdots\cdots(a)$$

$$M_{BA}=2EK_1(2\theta_B+\theta_A)+Q'$$
$$M_{BE}=CEK_5\theta_B+P$$
$$M_{BF}=DEK_4\theta_B-R$$
$$\Big\}\ M_{BA}+M_{BE}+M_{BF}=0\cdots(\beta)$$

$(\alpha)(\beta)$を解きて$\theta_A\theta_B$を求む

$$\theta_A=\frac{(4EK_1+CEK_5+DEK_4)(Q-V+W)+2EK_1(Q'+P-R)}{(4EK_1+AEK_3+BEK_2)(4EK_1+CEK_5+DEK_4)-(2EK_1)^2}$$

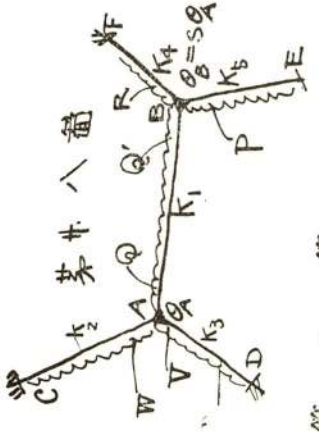
$$\theta_B=\frac{-(4EK_1+AEK_3+BEK_2)(Q'+P-R)-2EK(Q-V+W)}{(4EK_1+AEK_3+BEK_2)(4EK_1+CEK_5+DEK_4)-(2EK_1)^2}$$

$$\frac{\theta_B}{\theta_A}=S\quad E\text{を約す尚load termの符號を變へて見るさ}$$

$$S=\frac{-(4K_1+AK_3+BK_2)(Q'+P-R)+2K_1(-Q+V-W)}{-(4K+CK_5+DK_4)(-Q+V-W)+2K_1(Q'+P-R)}$$

$$\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(20)$$

(ロ)(20)公式をフレームの種々の基本的形式に宛てはむるさ次の如くなる第廿九圖に於てはS



$$S=\frac{-(4K_1+AK_3+BK_2+FK_6)(Q'-R)+2K_1(-Q+V)}{-(4K_1+CK_5+DK_4+GK_7)(-Q+V)+2K_1(Q'-R)}$$

$$\cdots\cdots(21)$$

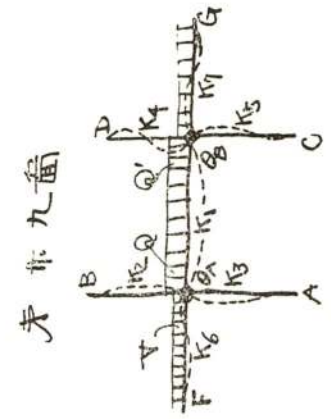
第三十圖に於ては

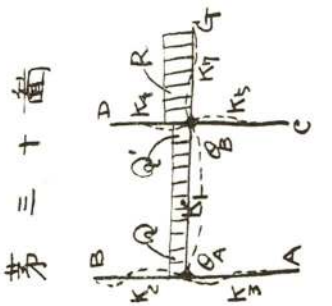
$$S=\frac{-(4K_1+AK_3+BK_2)(Q'-R)+2K_1(-Q)}{-(4K_1+CK_5+DK_4+GK_7)(-Q)+2K_1(Q'-R)}$$

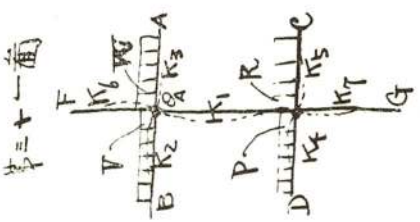
第三十一圖に於ては

$$S=\frac{-(4K_1+AK_3+BK_2+FK_6)(P-R+2K_1(V-W)}{-(4K_1+CK_5+DK_4+GK_7)(V-W)+2K_1(P-R)}\cdots(23)$$

第三十二圖に於ては







$$S=\frac{-(4K_1+AK_3+FK_6(-R)+2K_1(-W)}{-(4K_1+CK_5+GK_7(-W)+2K_1(-R)}$$

$$\cdots\cdots(24)$$

(ハ)上記20)以下Sの公式應用の例としてone span高層建最上階の側柱のslnpeの比を求めmomentの變化を調べて見る普通slopeの比を1.α假定して定數を6に取るがこれをcheckする(第三十三圖)に於て(24)公式よりKの符號及びload termの符號を公式と同じくする但し

$$K_1=K_7=K_8\quad K_3=K_5=K_9$$
$$W=R=T=V$$

(simmetory loads)

第一圖表よりslopeの比を想像して定數を得れば(24)公式中$A=2$ $C=2$ $G=6$さすれば$K_6=0$

$$S=\frac{-(4K_1-2K_3)+2K_1}{-(4K_1+K_5+K_7)+K_1}$$

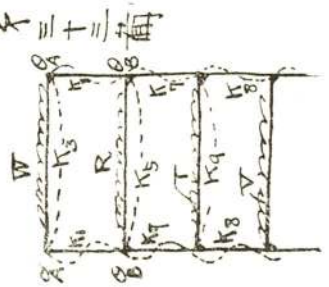
$$=\frac{(K_1+K_8)}{(K_1+K'+K_7)}\cdots(25)$$

(25)公式に柱のKと梁の

第三十二圖



第三十三圖



K_1柱の上方の定數 5.

〃　下方の定數 8

〃　上方の moment ≒ 0.555 W

〃　下方の moment ≒ 0,445 R

〃　上下方の定數を各々6と假定せる場合

〃　上方の moment ≒ 0.6 W

〃　下方の moment ≒ 0.375 R

梁のKを柱のKの三倍とせる場合

K_1柱の上方の定數5.15

〃　下方の定數7.5

〃　上方の moment ≒ 0.455 W

〃　下方の moment ≒ 0.385 R

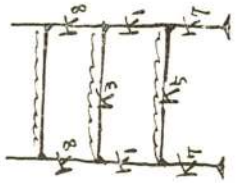
〃　上下方の 定數を各々6と假定せる場合

〃　上方の moment ≒ 0.5 W

〃　下方の moment ≒ 0.333 R

以上の結果によれば剛比の變化に伴ひ柱の上部に於ては正確に取扱へるものと6の定數を假定せる場合と柱の上部に於ては後者は$\frac{6}{100}$～$\frac{10}{100}$の差を生じ安全側にあり柱の下部に於ては後方は$\frac{81}{100}$～$\frac{86.5}{100}$に相當し危險の側にあり（但しG＝6とせるは近似的の意味なしさ雖比較的正確なり）而して剛比を小さくする丈假定數6に遠かる剛比を大きくするに從ひ6に接近す

第三十四圖



る10に取りたる場合定數は柱のなる上部に於て5.57下端にて6.55さ

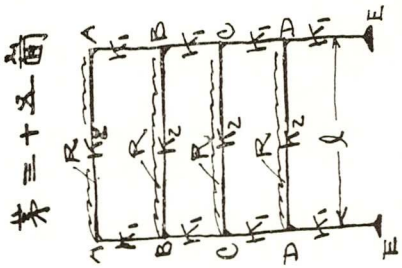
第三十四圖の如き高層建築の下層に階柱の上端下端の定數も亦之れをcheckすれば6にはならない

剛比1の場合K柱上方6.5の定數を得下端は5.6

剛比2の場合上方6.4下方5.67剛比3の場合上方6.33下方5.72さなる而して此定數を用ひたるものと6を假定（上下共）せるものとmomentを比較する（勿論基礎は固定と考へ）に階上柱下端に於て$\frac{4}{100}$～$\frac{6}{100}$の差ありて安全側なり又階下柱の上端に於ては$\frac{96}{100}$～$\frac{97}{100}$にして危險側なるも其差極めて小さい

從つて中間階の柱に於ては益々其差を小さくする從つてもを假定して餘り變化がない此場合剛比 load term 定數等の條件は前記最上階の場合によるものとす次に上記の moment 及び中間の際柱の moment 第三十五圖の符號によりて

第三十五圖



剛比 1 とせる場合

load term を凡て R にて表はす

$M_{AB}=0.71R$　$M_{CB}=0.73R$

$M_{CD}=0.43R$　$M_{BA}=0.53W$

$M_{BC}=0.36R$　$M_{DC}=0.5W$

$M_{DE}=0.35R$　$M_{ED}=0.18W$

$M_{AA}=-0.71R$　$M_{BB}=-0.89R$

$M_{CC}=-0.86R$　$M_{DD}=-0.85R$

load term を $\frac{wl_2}{12}=$ にて表せば

$M_{AB}=0.059wl^2=\frac{wl_2}{17}$　$M_{BA}=0.0441wl^2=\frac{wl^2}{22.5}$

$M_{CB}=0.0358wl^2=\frac{wl^2}{27.8}$　$M_{BC}=0.03\ wl^2=\frac{wl^2}{33}$

$M_{CD}=0.0358wl^2=\frac{wl^2}{27.8}$　$M_{DC}=0.0416wl^2=\frac{wl^2}{24}$

$M_{DE}=0.0292wl^2=\frac{wl^2}{34.2}$　$M_{ED}=0.015\ wl^2=\frac{wl^2}{68.}$

$M_{AA}=0.059\ wl^2=\frac{-wl^2}{17}$　$M_{BB}=-0.074wl^2=\frac{-wl^2}{13.4}$

$M_{CC}=-0.0715wl^2=\frac{-wl^2}{13.8}$　$M_{DD}=-0.0714wl^2=\frac{-wl^2}{14}$

剛比を2とせる場合

$H_{AB}=0.555R$　$M_{BA}=0.445R$　$M_{BC}=0.333R$

$M_{CB}=0.38\ R$　$M_{CD}=0.38\ R$　$M_{DC}=0.41\ R$

$M_{DE}=0.3\ R$　$M_{ED}=0.15\ R$　$M_{AA}=-0.55R$

$M_{BB}=-0.778R$　$M_{CC}=0.76\ R$　$M_{DD}=0.71\ R$

load term を $\frac{wl^2}{12}$ にて表せば

$M_{AB}=0.047wl^2=\frac{-wl^2}{21.2}$　$M_{BA}=0.037wl^2=\frac{-wl^2}{27}$

$M_{CB}=0.0316\ wl^2=\frac{-wl^2}{31.6}$　$M_{BC}=0.277wl^2=\frac{-wl^2}{36}$

$M_{CD}=0.0318\ wl^2=\frac{-wl^2}{31.4}$　$M_{DC}=0.0341wl^2=\frac{-wl^2}{29.3}$

$M_{DE}=0.025\ wl^2=\frac{-wl^2}{40}$　$M_{EA}=0.0125wl^2=\frac{-wl^2}{80}$

$M_{AA}=-0.047wl^2=\frac{-wl^2}{21.2}$　$M_{BB}=-0.0647wl^2=\frac{-wl^2}{15.5}$

$M_{CC}=-0.0634wl^2=\frac{-wl^2}{15.7}$　$M_{DD}=-0.0591wl^2=\frac{-wl^2}{16.8}$

剛比を3とせる場合

$M_{AB}=0.455R$　$M_{BA}=0.385R$　$M_{BC}=0.31\ R$

$M_{CB}=0.34\ R$　$M_{CD}=0.34\ R$　$M_{DC}=0.38\ R$

$M_{DE}=0.26\ R$　$M_{ED}=0.13\ R$　$M_{AA}=-0.455R$

$M_{BB}=0.696R$　$M_{CC}=0.68\ R$　$M_{DD}=0.64\ R$

load term を $\frac{wl^2}{12}$ にて表せば

$M_{AB}=-0.038wl^2=\frac{wl^2}{26.3}$　$M_{BA}=-0.032wl^2=\frac{wl^2}{31.2}$

$M_{CB}=-0.0284\ wl^2=\frac{wl^2}{34.}$　$M_{AB}=-0.0258wl^2=\frac{wl^2}{38.5}$

$M_{CD}=-0.0283\ wl^2=\frac{wl^2}{35}$　$M_{DC}=-0.0318wl^2=\frac{-wl}{31.3}$

$M_{DE}=-0.0217\ wl^2=\frac{-wl^2}{46}$　$M_{ED}=-0.0109wl^2=\frac{-wl^2}{93}$

$M_{AA}=-0.038\ wl^2\ =\frac{-wl^2}{26.2}$　$M_{BB}\ =\ 0.058\ wl^2=\frac{wl^2}{17.3}$

$M_{CC}=\ \ 0.0566\ wl^2=\frac{-wl^2}{17.6}$　$M_{DD}\ =\ 0.0531wl^2=\frac{wl^2}{18.7}$

剛比を0.5なせる場合

$M_{CC}=0.83\ R$　　$M_{BA}=0.5\ \ R$　　$M_{CB}=0.43\ R$

$M_{CB}=0.463R$　　$M_{CD}=0.463R$　　$M_{DC}=0.525R$

$M_{DE}=0.38\ R$　　$M_{ED}=0.19\ R$　　$M_{AA}=-0.83R$

$M_{EE}=-0.93R$　　$M_{CC}=0.926R$　　$M_{DD}=-0.905R$

load term を$\frac{wl^2}{12}$にて表せば

$M_{BA}=-0.069\ wl^2=\frac{wl^2}{14.5}$　　$M_{BA}\ =\ 0.0415wl^2=\frac{wl^2}{24}$

$M_{CB}=-0.0386wl^2=\frac{wl^2}{25.8}$　　$M_{DC}=-0.0358wl^2=\frac{wl^2}{27.8}$

$M_{CD}=-0.0386wl^2=\frac{wl^2}{25.8}$　　$M_{DC}=\ \ 0.0436wl^2=\frac{wl^2}{22.8}$

$M_{DE}=\ \ 0.0316wl^2=\frac{wl^2}{31.6}$　　$M_{ED}=\ \ 0.0158wl^2=\frac{-wl^2}{63}$

$M_{AA}=-0.069\ wl^2=\frac{wl^2}{14.5}$　　$M_{BB}=-0.0774wl^2=\frac{-wl^2}{13}$

$M_{CC}=-0.0772wl^2=\frac{-wl^2}{13}$　　$M_{DD}=-0.0752wl^2=\frac{-wl^2}{13.3}$

剛比0.5の場合に於ては最上階の柱に於て上方の定数4.663より下方の定数は10を得又二階柱に於ける定数は上方6.564となり、下方5.55となる之れを何れも定数6と假定せるものと比較すればMABは後者が前者の$\frac{3}{100}$を超過しMBAは前者の$\frac{92.5}{100}$に相當し最上階の次階の上部のMBCに於ては後者は前者の$\frac{8}{100}$を超過す危險側なり二階柱に於ては二階柱上下6と假定の結果と比較するにMBCに於て後者に於て前者の$\frac{4}{100}$を超過しMDEに於ては後者は前者の$\frac{96}{100}$に相當しMCDに於ては同樣に$\frac{96}{100}$となる其他中間階に於ては6と定數を假定するも殆んど差違なし以上のmomentは四階建の場合を擧げたれどども之れ以上の高層に於ても之れを用ひ得ざく實際復雜なる正式の解法によれるものと比して其差極めて小さい

第三十六圖

(ニ)尙 slope 比公式應用の道筋を明確にせる爲簡單なる一例を擧げて見よう

第三十六圖に示す如き連續梁に於て中間の span に loadを有せざる場合M_A,M_Bを求む

但しspan 10′ 20′ 40′ の three span, moment of inertiaは1を以て表はし何れも同樣とすload は等布荷重何れも100 ₩ per ft. run支點は支くられたるものと考ふ從つてCD點は free とす

本章(21)公式よりAB兩點の載荷後のslopeの比を見るに$K_2=o$ $K_3=o$ $K_5=o$ $K_4=o$ $Q=o$ $Q'=o$ とせば (21) 公式は變形して

$$S=\frac{-(4K_1+FK_6)(-R)+2K_1(V)}{-(4K_1+GK_7)(V)+2K_1(-R)} \quad \cdots\cdots(21)$$

(21)公式に於てFGは共に∞の定數を得るべくこれは pin joint と等しく何等の拘束を endに於て受けざる爲なり$-R.V.$は load term にして等布荷重の場合は$\frac{wl^2}{8}$(load termの表にあり)之等の文字に實數を宛て嵌め比の公式を計算すれば次の通り

$$S=\frac{-\left(\frac{4}{20}+\frac{3}{10}\right)\left(\frac{-100\times1600}{8}\right)+\frac{2}{20}\times\frac{100\times100}{8}}{-\left(\frac{4}{20}+\frac{3}{40}\right)\left(\frac{+100\times100}{8}\right)+\frac{2}{20}\times\left(\frac{-100\times1600}{8}\right)}$$

$$=\frac{+10.125}{-2.343}=4.32$$

4.32 は$\frac{\theta_B}{\theta_A}$を示す中央spanの左右の定數を得る爲に第一圖表を引く$A=(4-2S)$なるにより

$A=4-8.64=4.64$ 又$\frac{1}{S}=0.232$ $A'=4-0.464=3.54$ 而して elactic curbeを檢するにθ_Aは(−)で表はれ$\theta_B S$は(十)で表はれる之はSの4.32を得る分數形式により明かである何となれば比の公式は共通なる分母を約して居るから此分數の分子は$\theta_A\times$constant 及び$\theta_B\times$ constant の意味であるから分母分子共に∞ある之れは上方に彎曲する事になる常識的にも直ちに考へられる如何にさるかの點につき一寸見當付き兼ねる場合が『フレーム』等の場合に多いから之れは重量なる事である

次に第三章架構單位力事の公式を以て解く乃ち(9)式に於て此場合に宛て嵌め比の公式を計算すれば次の通り

公式は $K_2=o$ $Q=o$

$$M=\frac{HK_3P}{AK_1+HK_3} \quad \cdots\cdots(9)$$

何 $H=-4.64$ $A=3.$ $P=\frac{wl^2}{8}$ $K_3=\frac{1}{20}$ $K_1=\frac{1}{10}$

$$\therefore\quad M_A=\frac{\frac{-4.64}{20}\times\frac{(100\times10)^2}{8}}{\frac{3}{10}-\frac{4.64}{20}}=+3.4\times1250=-4260\text{呎}$$

同樣に $H=3.54$ $A=3$ $K_3=\frac{1}{20}$ $K_1=\frac{1}{40}$

$$M_B=\frac{\frac{3.54}{20}\times\frac{100\times(10)^2}{8}}{\frac{3}{40}+\frac{3.54}{20}}=0.7\times20.000=14.000\text{呎}$$

之れをthree momentの公式によりcheckするに同一の結果を得べし

span $10=l_a$ span $20=l_b$ span $40=l_c$ load 100呎 per ft. run $=w$ とせば

$$2M_1(l_a+l^b)+M_2l_b=\frac{-wl_a^3-wl_b^3}{4} \quad \cdots\cdots(A)$$

$$M_1l_b+2(l_b+l_c)M_2=\frac{-wl_b^3-wl_c^3}{4} \quad \cdots\cdots(\beta)$$

$(\alpha)(\beta)$を解きて

$$M_1=\frac{wl_c^3l_b-2wl_a^3l_b-2wl_a^3l_c}{16l_al_b+12l_b^2+16l_al_c+16l_bl_c} \quad \cdots\cdots(イ)$$

$$M_2=\frac{wl_a^3l_b-2wl_c^3l_b-2wl_c^3l_a}{16l_cl_b+12l_b^2+16l_cl_a+16l_bl_a} \quad \cdots\cdots(ロ)$$

之れに前記の實數を夫々宛て嵌むれば

$$M_1=\frac{100\times(40)^3\times20-2\times100(10)^3\times20-2\times100\times(10)^3\times40}{16\times10\times20+12\times(20)^2+16\times10\times40+16\times20\times40}$$

$$=\frac{116.000.000}{27.200}=4260\text{呎}$$

$$M_2=\frac{100\times(10)^3\times20-2\times100\times(40)^3\times20-2\times100(40)^3\times10}{16\times40\times20+12\times(20)^2+16\times40\times10+16\times20\times10}$$

$$= \frac{382{,}000{,}000}{27{,}200} = 14{,}000\text{粁}$$

5章に於て述べたるmemberの moment 兩端の分布の割合に付きて此例を check とするに moment 比の公式は $\frac{M_2}{M_1} = \frac{2S+1}{2+S}$ (19)式なり之れにSは此場合4.32なるにより

$$\frac{M_B}{M_A} = \frac{-4.32\times 2+1}{2-4.32} = \frac{-7.64}{-2.32} = 3.3$$

$M_A = 4260$粁 なるを以て

$M_B = 4260\times 3.3 = 14000$ 粁 を得

此場合は θ の廻轉の方向が相反する場合乃ち符號を異にする場合であるが同方向に廻轉する場合例へば前記高層建側柱の moment の如き（柱の上下端に於ける）ものゝ如きも同樣(19)式により一方の大さを求むれば他端の moment は比を乘じて求め得らる

例へが前記第三十五圖の側柱のmomentに於て剛比を1ゝせる時 $\frac{M_{BA}}{M_{AB}} = \frac{0.53R}{0.71R} = 0.75$ となる

之れを(25)公式より slope の比を求むるゝ

$$S = \frac{K_1+K_3}{K_1+K_2+K_4} = \frac{2}{5} = 0.4 \quad \text{従つて} \quad \frac{1}{S} = 2.5$$

之れを(19)式中に挿入し

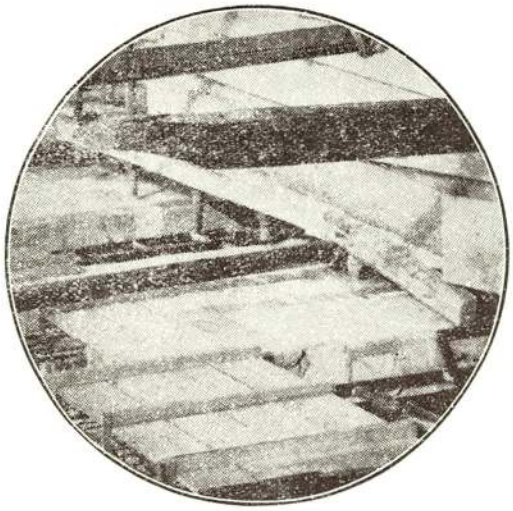
$$\frac{M_{BA}}{M_{BA}} = \frac{2S+1}{2+S} = \frac{1.8}{2.4} = 0.75$$

又S=2.5を用ひて

$$\frac{M_{AB}}{M_{BA}} = \frac{2S+1}{2+S} = \frac{2\times 2.5+1}{2+2.5} = \frac{6}{4.5} = 1.33\text{倍} = \frac{1}{0.75}$$

故にかゝる moment の比を容易に求め得らるゝ時 又は其memberに transverse load を有せざる場合は一端の moment を求むれば他の端の moment は(19)式によりて求むるが便利なり

王とは爲し能ふ所の人を言ふなり



セメントの製造並に使用の際に起る變化に就いて（一）

細木松之介

セメント特にポルトランドセメントは其主要成分としては酸性の物と鹽基性の物との化合によりて出來たる者であつて酸性の物とはアルミノ珪酸即ち通常の原料としては粘土若くはプヅラノの如き者でありまして鹽基性の物とは石灰石又は白亞の如き者なれ共亦是等の自然に混合したる者もあるのです即ちマールヤ含粘土石灰石又は天然セメント岩の如き者であります　而して此等の原料を適當なる割合に調合して之を適度に燃きて始めて酸性物質と鹽基性物質とが互に化合してセメントを化成するのであつて此燒成即ち熱する間に於て製造の際の最も肝要なる變化が起るのであります。

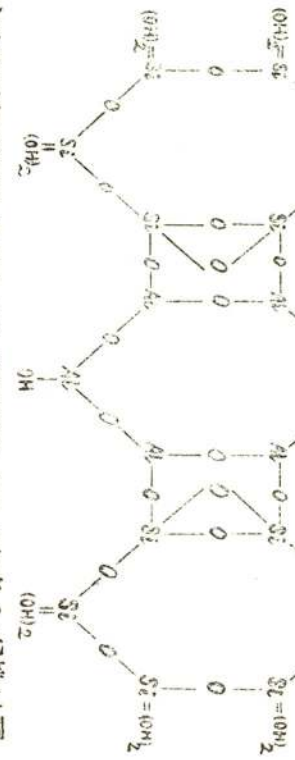
然るに絶對に純粹なる粘土は天然に産出する者でないから上に記した製造の際の化學變化をして一層複雜ならしむる者であつて普通セメントの製造に使用せらるゝ粘土を主として粘土質物　即ちアルミノ珪酸に遊離珪酸や其他不粘質礦物の少量が混入したる者でありまして其成分は一定せぬのでありますが兎も角も此粘土が成品たるセメント中の酸性の物質を供給する原因であります。

今此セメント製造の際の化學變化を第一に考究しまして次に之を使用する際に起る變化を考究せんとするのでありますが製造の際に於ける變化を考究するには先づ原料の各自が高熱の爲に受くる變化を述べて次に此等の物が共に親密に混和せられて高熱せられたる時に起るべき化學變化を考究するのでありますが、然れ共實際の製造に於ては此等の變化は原料の各部に於て同時に起るのでありますから、右の如くに別々に考究するのは了解に易からしめんが爲の一便法たるに外ならぬのであります。

粘土質に於ける高溫の起こす化學變化

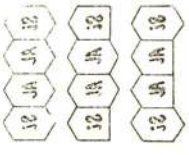
粘土を熱し　先づ第一に起る變化は其内より水分を驅出する事でありまして此水分は或は單に濕氣として機械的に存在したる者もあり又粘土中に含有せらるゝ膠質體の爲に吸收せられて居つた者もありまして、粘土の種類によりては三十ペルセントも水分を含有して居ながら更に濕潤の模樣を現はさぬ

者があります、而して温度が百度を多く超過せざる限り此乾燥即ち水分を驅出する事は全く物理的であつて化學變化は之に伴はぬのであります、然れ共溫度が百度以上に昇るに從ひて化學的分解を起こし五百乃至八百度に於ては急速に水分を驅出するのであるが、之は分解其の結果に外ならぬのであるが分解者の性質を未だ詳細に知られて居らぬのでありますレブフハヤ、メロアヤホールド、クロフトの諸氏は粘土の分子が完全に分解せられて遊離酸化物即ち珪酸礬土及び水となると主張すれ共他の化學者は珪酸や礬土の無水化合物が出來ると主張して居るのである即ち其一例を擧ぐればW. and D. Aschの說に從へば粘土はアルミノの珪酸であつて其分子内に於ける原子の配列は恰も有機化合物に於けるベンジン輪の如く六角形を爲せる事左式の如くであるのです。



之は理想的の純粹粘土の分子構造式でありますが、此等に關するアッシ氏の所說を此處に詳述するには餘り化學的であるから省略する事にしますが此分子式は粘土の分解等を考究するに於て大ひな助けとなる者であります即ち粘土は普通の場合に於て不純なるアルミノ珪酸であるから之を石灰と共に熱して起る變化は主としてアルミノ珪酸中の水素を石灰又はマグネシアを以て置換するのであるが此反應の詳細に亘りて研究する事は粘土も石灰も共に純粹の者でない爲に複雜となりて中々困難なる問題であります即ち其原料たる粘土の種類や熱の高低及び熱する時間の長短等によりて成績が異なるのであるが大抵左記三種の一が出來るのであります。

(1) $6Al_2O_3\ 12SiO_2$ ＝



(2) $6Al_2O_3\ 10SiO_2$ ＝

(3) $5Al_2O_3\ 12SiO_2$ ＝

斯くて粘土を強熱する時は單に結晶水を驅出するに止らず其分子が破壞せらるゝ事は疑ふの餘地ない事であつて五六百度の溫度に逢つて大多數の粘土が變じて一種の水硬性を有する所謂ブッヅラノ狀の者となる通性を有するのであります。尙是以上の強熱が粘土に及ぼす影響を研究する事は頗る難事であつて粘土を極めて強く熱したる後之を冷却せしめて生ずる只一の結晶狀の判然たる化合物はシリマニット（$SiAl_2O_5$）であつて此物は千二百度に於て生ずる者であるが果して頗る複雜なるアルミノ珪酸鹽の分解によりて生ずるか將又八九百度に於て遊離狀態になれる珪酸及び礬土が再び化して生ずる者なるか未だ充分に決定せられて居らぬのあでるが恐らくは後者の方が事實なるべしと思はれるのである。

遊離珪酸に於ける熱の化學作用

遊離珪酸に對する熱の作用は攝氏八百度以下に於ては殆んど感じないのであるが之より溫度の昇る時には珪酸の容積が著しく增す即ち膨脹するのであつて珪酸の重合(Polymerize)の

生成物たるトリヂミッド（Tridymite）が出來るのである併しながら適當に出來たるポルトランドセメント內に在る遊離珪酸の量は極めて僅少な者であつて凡ての他に不溶解性の物質と共に三ペルセントを超すべからざる者であります、而して此珪酸は不活性の者であつて斯る少量に含有せられて居る者であるから其使用上に於ても差したる影響はないのである。セメント製造に使用せらるゝ原料中には可なり多量の膠狀性珪酸を含有する事あれ共製造に際して熱せらるゝ爲に普通の無定形の珪酸に變化するのであります。

遊離礬土に對する熱の作用

遊離礬土に對する熱の作用を酸辨にアルカリに對する抵抗を增進する者であるから強く熱せられたる礬土は不活性になるのである、然れ共セメント製品中に遊離礬土が存在するや否は疑問であります。

石灰石に對する熱の作用

石灰石が熱の爲に受くる化學作用は比較的理解し易いのである即ち石灰石又は白堊は其主成分は炭酸石灰であるから之を七白度若くは其以上に熱する時は分解して石灰と炭酸とになり炭酸は瓦斯であるから飛散して跡には石灰のみを止むるのである然れ共此分解は下式に示す如くに不可逆反應であるから炭酸瓦斯の壓力次第にて或は完全に分解する事もあり又一部分は分解せずして依然と存する事もあるのである。

$$CaCO_3 \rightleftarrows CaO + CO_2$$

石灰を一千度以上に熱する時は之に水を加ふるも水と化合する力が頗る弱くなるのである併し之を石灰の分子の內部に於ける轉位もあらずして強熱の爲に起りたる收縮による表面の減少に歸因するので表面の減少は水と接觸すべき面積を少なくするから水と化合し即ち消化する力が弱くなるのであります。

適當に製造せられたるポルトランドセメント內には遊離石灰は存在せぬのであるが之が存在する如く云ふのは一の誤認であつてポルトランドセメントは之に水を加ふる時は加水分解を起しセメント內にては化合して居つた石灰を遊離せしむるのである然れ共實際にセメント內に遊離石灰が存在する時は頗る有害であつて斯るセメントに水を加ふる時は石灰は水と化合して膨脹し爲めに危險なる龜裂を生ずるのである即ち斯る危險を豫防せんが爲にセメント中に含有せらる、遊離石灰の量に嚴重なる制限を置いたのであつて之を驗する最良法は膨脹試驗を行ふのである。

石灰と粘土との化學反應

セメント製造の際に起る最も肝要なる化學變化は原料の各自に對する熱の作用にあらずして原料各自が相互に起す反應であります即ち純粹なる粘土若くは石灰は各別に之を熱する時は普通工業上に使用する熱度に於ては孰れも不熔融であるが若し此等の原料を適當なる割合に混合して熱する時は一千四百度內外にて熔融し其成生物は全然初めの原料混合物とは異なる者である然れ共天然に產出する粘土や石灰石等が含有する物質は一定ならずして其種類雜多なるを以て其相互間に於ける化學作用も複雜であつて其研究極めて困難であるが今左に其大要を述べて見ましよう。

原料の混合したる者を窯に入れて其温度が約千度に達したる者は元の原料調合物なる石灰石や粘土ではなくして灼燒せる粘土と遊離石灰珪酸及び他の灼燒礦物である、而して上記の溫度にては幾分の熔融を起こしたる者ありて石灰と灼燒粘土との間に於ける化合を助くる爲に此等物質の分子を親密に接觸せしむる者である即ち原料を可及的微細に粉碎する事と此等を出來る丈充分に混和するのはと同一の目的を以てするのである。

窯内にて炊燒せられたる粘土を珪酸と礬土との混和物であると假定して之に石灰が加はりて互に作用して生ずる者は左記三化合物を生ずるのである。

(一)珪酸石灰($xC_aO\ YSiO_2$)

(二)礬土酸石灰($xC_aO\ YAl_2O_3$)

(三)アルミノ珪酸石灰($xC_aO\ YAl_2O_3ZSiO_2$)

此等の三物は多くは混合して出來るが其各自の割合は原料調合に於ける石灰と粘土との割合如何及び加熱の高低や其時間の長短等によりて變化する者である、併し說明の簡單なる所より多くの研究家をして二成分の化合物より構成せらるゝ者なりとの說を採らしめ礬土酸石灰が珪酸石灰に溶解せる固溶體であると唱へしめたのであるが此說は其根據が薄弱なのでありまます。

之に反して灼燒せる粘土をアルミノ珪酸體若くは其無水物であると考ふる時は其生成物は二成分の化合物にあらずして主として二成分の化合物即ちアルミノ珪酸石灰であつて珪酸石灰や礬土酸石灰は僅少に過ぎぬのである何れの說に從ふも此納の三化合物の混在する事は否定せぬのであるが要は其分量の多少に關する事であるのです。

セメントの構造を研究する爲に三種の全然異なれる方法が採用せられて居るので其第一は分折法であつて之はセメントを分折して其成分を測定すると同時にセメントが各種の試藥に對する反應によりて其性質を試索するのである又其第二は合成的であつて此法に於てはセメントの成分たるべき者を合成的に造りて之を市販のセメントの性質と比較研究するのであります、而して其第三の法はセメントの原料を熱し及びクリンカーを冷却して起る反應を觀察するのであるが此際特に注意せざる可からざる事はクリンカーを熱し過ぎて熔解に至らしめない事であつて熔融して生ずる者は普通のクリンカー中に在る者と全く異なりたる者なればなり又セメント内に存在する各種化合物はクリンカーの冷却する際に出來る者にあらずして熱せらるゝ時に出來る者であるのです故にクリンカーを冷却して生ずる變化を判斷するには深き注意を要するのである。

セメントの原料を熱して起る變化を研究するに當りて其混合物の電導性の變化は頗る肝要なる事項である如何となれば或物體が電氣を導く度は其物が分解してイオンとなれる度の尺度である故に若し粘土とセメントとを熱して七百度以上に至れば其電導性は急に增進して九百度に至るまで其急進度を續くるのであるが九百度以上に熱する時は其電導性の增進を前の如く大ならずして千四百乃至千六百度に於ては其電導性は同鹽の水溶液の夫に等しき者である之より推定するに廻轉窯の更高溫度に於てはセメントクリンカーを完全に分解してイオンとなつて居るのである故に今假りにアッシ氏の說が正確

なりとすれば此等イオンは C_a と $6AL_2O_3$ $12SiO_2$ であるべきである。

前に記したる三種のセメント研究法は孰れも皆肝要であるが他の補助なくして一個單獨にては有効でないのである然れ共セメントの研究は極めて困難にして何人も異議を唱へざる明說を建つる事容易に出來ないのである。

クリンカーの薄片を弱酸若くは水を以て作用せしめたる者を顯微鏡を以て檢査するに一種の結晶狀の物質より成り其結晶體の間に少量の外物を含むのであるが廻轉窯より得たるクリンカーは外物を含む事少量である是れ廻轉窯は靜置窯よりも燒け方が完全であるからである。

ルシャテリエー氏とトエーネボーム氏は顯微鏡を以てセメントクリンカーを研究する最初の人の内であつて兩氏は四種の結晶體を檢出しトエーネボーム氏は之に命名してアリットベリットセリット及びフエリットと稱したりしが其内アリットが最も肝要なる成分であつてセリットはアリットの結晶の間を充たせる者であるがアリットに次での肝要なる者であります。

ベリットはアリットに似たる點ありと雖ども其色は汚き綠色の者である然れ共分析に値する程の純粹な者を得る能はずして其成分未だ判明ならざるに拘らず一般にはオーソ珪酸石灰であると信ぜらる然るに酸と石灰とを千百五十度に熱して合成したるオーソ珪酸石灰は水硬性なくして且之を空氣に暴露すれば自然に崩壞して微粉となる者である。

セリットは帶褐橙色の者でアリットよりは熔融し易くリチャードソン氏は礬土酸二石灰（$2C_aO.AL_2O_3$）の珪酸二石灰（$2C_aO.SiO_2$）に溶解せる者であると主張すれ共之を純粹に分離して其成分を極めたる者はないのである。

フエリットは高爐の熔滓の半分解したる者の中にて無色の菱形結晶を造れ共其成分は未だ充分決定して居らぬのである。

アリットを菱形屬の結晶を造れ共六角形になる傾向を有する者なり然るにリチャードソン氏は礬土酸三石灰（$3C_aO.AL_2O_3$）が珪酸三石灰（$3C_aO.SiO_2$）に溶解せる者であると主張すれ共斯る固溶體はアリットの結晶體として知らるゝ如き正確なる結晶體として存立し得ざる者である又ルシャテリエー氏は殆んど全部アリットより成ると云はるゝグラッピエーを分析して左の左を如き成分を得たのである、

石灰	六六、〇〇
珪酸	二六、〇〇
礬土	三、五〇
一酸化鐵	一、〇〇
水分其他	三、五〇

此成分にしても尙ポルトランドセメントと比較して餘程礬土分が不足して居るのである。

ルシャテリエー氏はセメント中にある礬土、水分等は夾雜物であつて主成分は珪酸と石灰とであると主張し $C_aO:SiO_2$ ＝2:1 の比に於てセメントを合成せんとし且グラッピエー及び最良なるポルトランドセメントの或る者に於て珪酸に對する石灰の率が低くして2.75なるは其中に含まるゝ夾雜物のある爲であるから前述の通り石灰と珪酸との分子比を三と一と爲し斯くして得たる（$3C_aO.SiO_2$）は固結するに際して容積を變ずる事なしと雖ども其硬化する事極めて遲緩である然れ共

($2(3C_2OSiO_2)$) なる式に相當すべき成分の市販セメントは其強度劣等であつて且崩壞し易く、且アリット分に不足する者である。

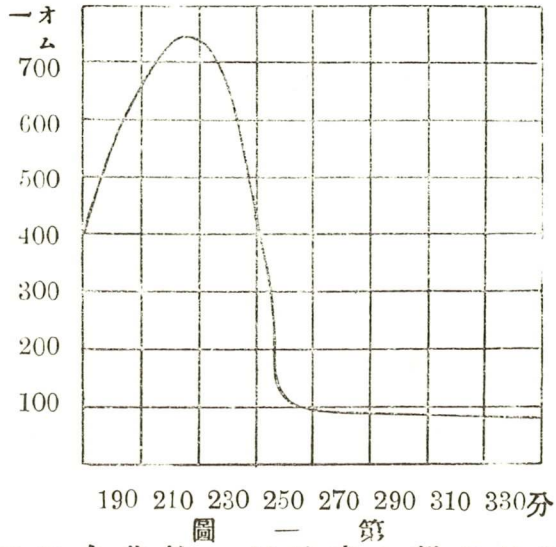
ルシャテリエー其他一流のセメント學者にして尙且純粹礬土と珪酸を以て滿足すべきセメントを造る事能はざるより見れば必ず此等二要原料以外に必要なる成分がある事を示す者である又鹽基性鑛滓と石灰石とを以て造りたるセメントと粘土と石灰石とを以て造れるセメント間に於ける差異ある事が一般學界並に技術家の承認する所となれる者はセメント中に存在せる珪酸及び礬土の特殊の結合若くは遊離存在がセメント構造上に特異の關係を有する者である事を示す者である而して石灰と珪酸との比が三である事即ち$C_2:SiO_2=3:1$は偶然の出來事であつて此率が決してセメントの成分の總てを示して居る者ではないのである如何となれば$3xC_2OYAl_2O_3xSiO_2$なる化合物と$3xC_2OxSiO_2$との性質は全然異なるべき者であつて一は礬土を含有すれ共他は之を含まぬからであるが而かも此等二者に於ける石灰と珪酸の比率は共に三であるのである市販の優良なるセメント內には皆礬土の存在するのであるから其作用を研究せんが爲に$2C_2OAl_2O_3$なる式に適合すべき礬土酸石灰を造りたるも此者は頗る急硬性なれ共硬化して其容積を變化する事なく又能く硬化する者である處より此等研究者は直ちに此者がポルトランドセメント中にてアリットと單純なる混合物となりて居る者であると速斷したのである、然れ共斯る礬土酸石灰を市販のセメント中より分離し得たる者は未だ嘗てないのである且又礬土酸石灰はフェノールフタレインのアルコール溶液を赤色に變ずる者であるから若し此者がポルトランドセメント中に存在するならば此試藥を以て容易に檢出する事が出來る者である然るに優良なる又新鮮なるポルトランドセメントは此試藥を加ふるも其色を現はさざるを以てセメント中に遊離の礬土酸石灰が存在する事は恐くはないのであるべし故に理論としてセメントを$3C_2OSiO_2$及び$2C_2OAl_2O_3$の混合物であると云ふのは簡單であつて說明としては便利ではあるが事實とは符合せぬ點があるのである最大なるアリットの結晶を造りたるをシュミット及びウンガー氏であつてポルトランドセメントを電氣弧にて熱し之をよく熔融せしめたる後之を冷却したるに全部結晶狀となり其內の最大にして完全なる結晶は其諸性質を檢査して之がアリットである事を慥かめ得たのであつて之を分折して左の成績を得たり。

石灰	六七、四三
珪酸	二三、四三
礬土	三、七八
一酸化鐵	二、三二
苦土	二、四四
水分其他	〇、六〇

此成分はルシャテリエー氏の得たるグラッピエーの成分とよく似ては居るが優良なるポルトランドセメントに於けるよりは礬土の量が少ないのである。

アッシ氏の說によればポルトランドセメントは恐くアリットの如き單一の化合物ではなくして其以外に頗る複雜なる成分を有するアルミノ珪酸の石灰鹽をも含む者であつて主としてアルミノ珪酸の鹽基性鹽類であると云ふのである。

石灰石と粘土とを混合したる者を千四百三十度に熱して三時



第一圖

間此溫度に保持して此間に起る電導性の變化を測定したる成績を圖式(第一圖)に示すのであるが圖に現はるゝ如くに電導性が急激に變化する所は混合物の熔融點に一致する者で又此混合物より一定の化合物なる結晶體の出來る點に一致するのである此成績は從來一般に信ぜられて居つた說即ちセメントは珪酸三石灰と礬土酸二石灰との混合物より成ると云ふ說と全く正反對であつてセメントクリンカーは確然一定したる化合物であつて二三の物體の固溶體ではない事を示すのである而して此關係よりして此新說はアッシ氏の所說を裏書する者であるのです若しァリットがアッシ氏の所說の如くセメント中の主要成分なりとて指摘せられて一定不變の組成を有する者ならば最良なるセメントは其組成が此特定のアルミノ珪酸鹽(アリット)に最も近き物が最も多量に含有せらるゝ者でなければならぬのである。

セメント中に在る石灰の極少量の增減が其強度其他の諸性質に著しき差異を生ずる者である事は疾より周知せられたる事であつて又原料混合物の成分の範圍は頗る狹き者である事も亦疾より知られて居る事である、故にセメントの成分の範圍を簡單に指導すべき者を得んと勉めたる結果ルシャテリエー氏の假定である所のポルトランドセメントは($3C_aOSiO_2$)及び($2C_aOAL_2O_3$)より成立つ者なりとする事とニウベリー氏の假定である所の($3C_aOSiO_2$)と($2C_aOAL_2O_3$)とより成る者であるとの兩者に從ふ事となつて居つたのである故に此等假定に從つてセメントは($3C_aOSiO_2$)のa分子と($3C_aOAL_2O_3$)又は($2C_aOAl_2O_3$)のb分子とより成る者とせられて居つたのである故に之によれば石灰に對する珪酸と礬土の和の比率は恒數でなければならぬと云ふので即ち此等酸化物の理想的比率を

(1)シャテリエー氏に從へば

$$\frac{\text{石灰の分子數}}{\text{珪酸の分子數}+\text{アルミナの分子數}}=3$$

(2)ニウベリー氏に從へば

$$\frac{3a+2b\times\text{石灰の分子數}}{La\times\text{酸數の分子數}+b\times\text{アルミナの分子數}}=3$$

($3C_aOAL_2O_3$)がセメント中に存在するや否やの證明せられざるに拘らず又なる恒數は稍過大なるに拘らずニウベリー氏の式は採用せられずルシャテリエーの式が多方面に於てセメント內に存在し得る石灰の最高量を示す者であるとせられて居るのである又英國の規定に於ては之より少し低くせられて居る即ち左の如し

$$\frac{\text{石灰の分子數}}{\text{珪酸の分子數}+\text{アルミナの分子數}}=2.85$$

若し分子對量を使用するのを不便に感ずるならば左式を以て

代用する事が出來るのである。

$\%C_aO = 2.8 \times \%SiO_2 - \%AL_2O_3$

然れ共實際に製造に使用せらるべき石灰の分量を其製造に於ける注意と熟練如何に依る者である故に原料が極めて微細に粉末とせられ充分に混和せられ且又完全に燒かるゝ時には石灰の量は不熟練の製造に於けるよりは多く使用する事を得べく又アルミノ珪酸鹽として化合せる石灰の量が多ければ多い程其セメントの強度は大なるのである然れ共アルミノ珪酸以外の化合物となれる石灰はセメント中の要素なりと認められず又遊離石灰の存在は危險であるのです。

セメント中に在て許容せらるべき石灰の最小限度は水硬率の式に依て算出せらるゝのであるが此水硬率なる者は獨逸のセメント學者ミハエリス氏が始めて提唱したる所に係り獨逸の標準規格に採用せられた者である左の如し

$$\frac{\text{石灰の}\%}{\text{珪酸の}\%+(\text{アルミナの}\%+\text{酸化鐵の}\%)} = \text{水硬率}$$

獨逸國に於ける經驗によれば此水硬率は決して一、七以下なるを許さぬのである然れ共ポルトランドセメントを製造するに際して採るべき原料の各の分量を決定するには此水硬率のみによりては充分なる事能はざるものである。

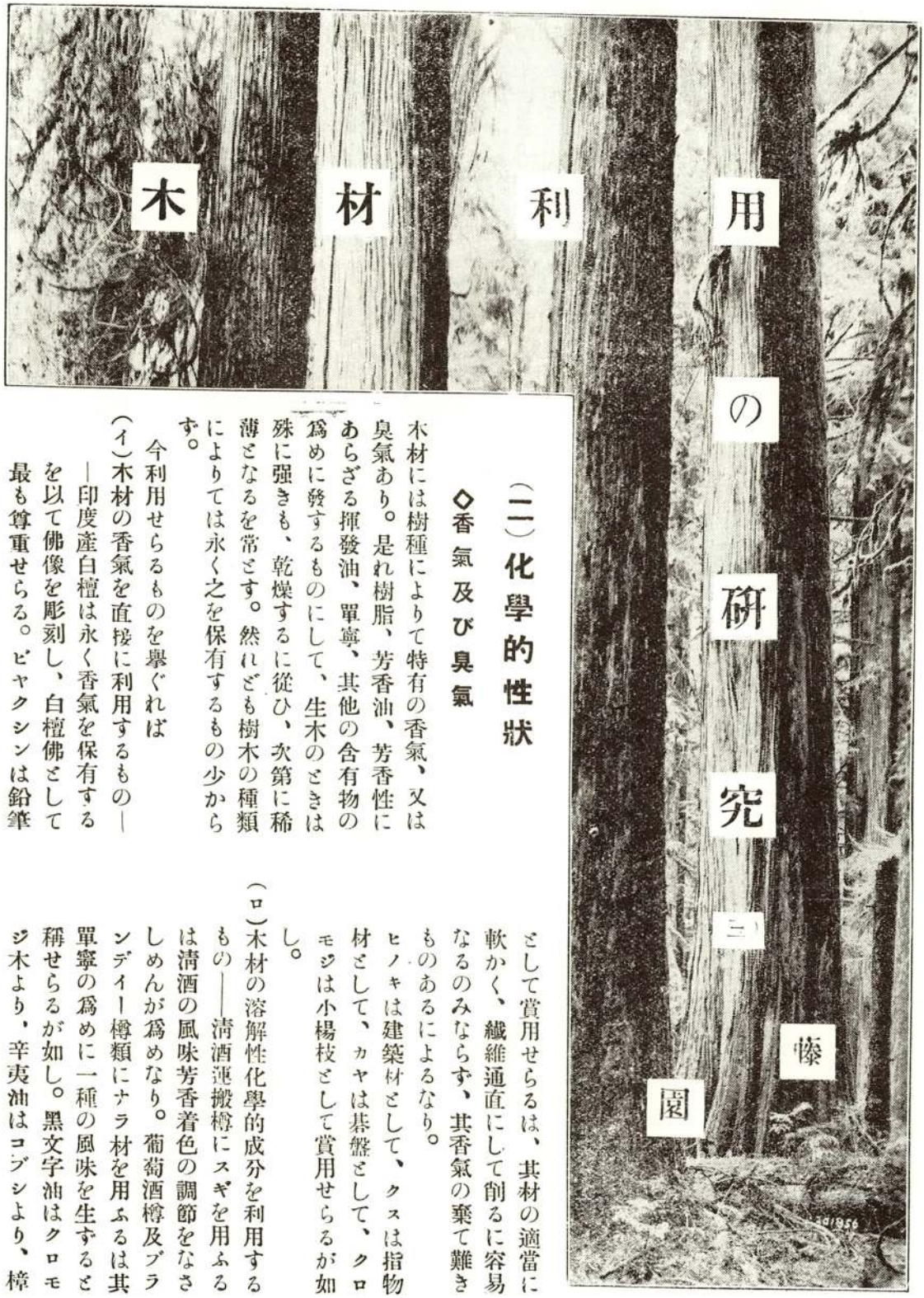
ルシャテリエー氏の式又は水硬率の式其他に於てもセメント原料中に於ける珪酸と礬土との割合を正確に限定して居らぬのであるが此等兩者の比率は頗る肝要なる者である如何となれば珪酸を多く含んだセメントは之を含むこと少量なる者よりも優良なからである又ドルマン氏の所說によれば最良なるセメントは其中にある二三酸化物と珪酸との比を左の如くして得らるゝと云へり卽ち

$R_2O_3 : SiO_2 = 1:2.5-3.0$

又は礬土の一分子に對して珪酸の四、二五乃至五、一分子とするにありと而して獨逸米國及び英國に於ける多數のセメントの分析表は之を證明するのであつて珪酸と礬土との分子比が三六六以下の者に優良なる者頗る稀なのである。（續く）

薔薇は棘なしには花を開かず

爾り唯願はくば花よりも棘の長く存せざらんことを



木材利用の研究（二）

蓬園

（二）化學的性狀

◇香氣及び臭氣

木材には樹種によりて特有の香氣、又は臭氣あり。是れ樹脂、芳香油、芳香性にあらざる揮發油、單寧、其他の含有物の爲めに發するものにして、生木のときは殊に强きも、乾燥するに從ひ、次第に稀薄となるを常とす。然れども樹木の種類によりては永く之を保有するもの少からず。

今利用せらるものを擧ぐれば

(イ)木材の香氣を直接に利用するもの——印度產白檀は永く香氣を保有するを以て佛像を彫刻し、白檀佛として最も尊重せらる。ピヤクシンは鉛筆として賞用せらるは、其材の適當に軟かく、纖維通直にして削るに容易なるのみならず、其香氣の棄て難きものあるによるなり。

ヒノキは建築材として、クスは指物材として、カヤは碁盤として、クロモジは小楊枝として賞用せらるが如し。

(ロ)木材の溶解性化學的成分を利用するもの——清酒運搬樽にスギを用ふるは清酒の風味芳香着色の調節をなさしめんが爲めなり。葡萄酒樽及ブランデイー樽類にナラ材を用ふるは其單寧の爲めに一種の風味を生ずると稱せらるが如し。黑文字油はクロモジ木より、辛夷油はコブシより、樟

脚及樟腦油はクスノキより製造せらるが如し。

(ハ)臭氣少きか、又は無きか爲めに利用せらるもの——包裝用茶箱は香氣又は臭氣強きものを嫌忌す。モミ、スギを用ひ就中モミを最も可とせり。飯櫃には東京にてサハラ、關西にてスギ白太及カウヤマキを用ふ。笹折包經木はタウヒ、モミ、ツガ、サハクルミ等を用ひ、蒲鉾板はサハラ、モミ、スギ等を使用するが如し。

(ニ)臭氣を嫌忌せらるゝもの——ヒバには一種の臭氣あるを以て宮殿建築又は神佛具に用ひず、又經木眞用として婦人帽子に用ふるときは臭氣ありて嫌忌せらる。アカマツ、クロマツ、ヒノキは包裝用茶箱に用ひられず、ヒノキは飯櫃となさゞるが如し。

◇樹脂、單寧及其他の含有物

今利用せらるものを擧ぐれば

(イ)肥松となりたる爲利用せらるもの——アカマツ及クロマツ材に肥松は生ず、アカマツ材の方を優品とせらる非常に硬度を增し、建築及指物材としては用ひられざるも鏇作又は彫刻として盆となし、又は茶托として磨拭して丁寧に取扱ふときは、古色を帶ぶるに從ひ一種の光澤を發し頗る雅致あり、關西地方にては松盆と稱して賞用し、宮崎細工の中にも名産とせらるが如し。

(ロ)材中に芳香性にあらざる揮發油、芳香油、腦分、樹脂を含有するが爲めに利用せらるもの——クスには腦分を含有するが爲めに、クロモジ、コブシには芳香油を含有するが爲に蒸溜して前者より樟腦及樟腦油、後者より黑文字油、辛夷油を採收す。アカマツ、クロマツには所謂柘脂を含有し、之より松精油を採收し得べし殊に根材には最多量に存在するを以て、之を藥溜して柘精油を取り、又は乾溜して松精油、松根タールを分溜するが如し。

(ハ)單寧分を含有するが爲に利用せらるゝもの——ケブラッチョ(南米產)よりは鞣皮材料を取り、佛國、北米のアイヘ(ナラの一種)よりは單寧を取るが如し。

(ニ)樹脂其他含有物の有無により好惡せらるゝもの——造船材としては部分によりて釘を錆飾せしむるものを嫌忌す、クスの如きは是れなり、之に反しチークは其憂なきを以て賞用せらる漆器木地としては樹脂の滲出するときは鬃漆面に斑點を生ずるを以て最も之を怖る故にヒメコマツの如きは上等の漆器には用ひず、ヒノキホホノキの尙はるゝ所以なり。ヒノキと雖も樹脂の滲出甚だしきものは用ひず、建築裝飾材は樹脂の滲出を忌むを以て上等建築にありてはアカマツ、クロマツを好まず、ヒノキ、ヒハ、ツガ、スギ、サハラ、モミ等多く用ひらる。クロマツは脂氣甚だしきを以て器物を製作するに適せず然しアカマツの老木にありては樹脂の滲出殆どなきを以て之を室內裝飾材に用ふることあり。カラマツは脂ありと雖もクロマツ、アカマツの如く甚しからず故に建具指物にも供せらる。ヒノキは樹脂あるが爲に箪笥或は箱に用ひず、抽出しの出入を妨ぐるのみならず脂を揮發する爲に印肉が溶解せる事實ありと稱せらる又貨物包裝箱としてマツ類は樹脂滲出の爲めに茶箱、煙草箱、罐詰箱等

には用ひられず、ドロ、モミ、スギ、ツガ、タウヒ等の用ひらるゝ所以なり。時計の枠には樹脂を有する木材又は樹液の強き木材を用ふるときは機械の運轉を止むることあり、ホゝノキ此の點に於て木材中の冠たり、刀鞘を始め凡て及物の鞘器械箱の内部及物の柄等に最も賞用せらる。キリは樹液多き故木取りたる後雨に充分曝して、乾燥したるものを用ふべし、天井板、戸板、腰板等にキリ材を用ひても、處理宜しきを得ざれば多くは黑變す。又キリの經木紙を作るに當りては裏張りをなす前に、樹液を抜かざれば黑變するを免れず。要するに凡て新材には樹液強きも、古材となれば樹液を失ふに至る、故に指物材としては建築の古材を最も賞用せらる、又奈良人形の如きはヒノキの古材を用ふといふ。樹液既に去りたるを以て彩色後變色することなし。

◇木材の味

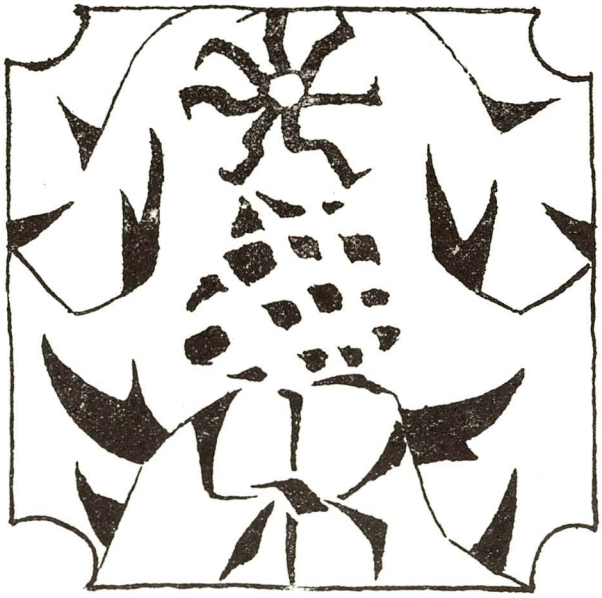
木材の味は應用上何等の効なしと雖も木材鑑識上用ひ得らるゝ場合あり。ニガキの如きは其名の如く苦味あるを以て著しく他の木材と異り、又ミヅメとミネバリは外觀始ど同一にして唯其硬度に幾分の差あるのみなるも、ミネバリは苦味を有するにより識せらる。

鴨綠江の森林と採伐事業

白頭山上雲は凝り、雪は溶けて千古涸れざるの火口湖を形式するもの之を天池又は龍王潭と稱し周圍三里其の水深を知らず、其の水三方に分れて鴨綠江及松花江の水源を形成するのである、鴨綠江は實に之れ朝鮮と支那との境界を劃する一大河川にして延長二百里と稱せられ、其の流域地には兩岸相逼りて耕地に乏しく、一般に山岳丘陵が多い、就中主要なる森林は江口より遡ること大約百里の地點に起り各支流の上部に位するもので其面積は兩岸を合せて約二百四十萬町歩、立木材積無慮十億萬尺以上を計算せられて居る即ち之を日本に於て農商務省の主管して居る要保存國有林の全體と比較すると勿論調敷の精粗はあるが其面積に於ては約六割に當り材積に於ては略同數なのである而して此の大森林の一半、即ち朝鮮側は朝鮮總督府營林廠の主管に屬するもので、其支那側は即ち鴨綠江採木公司の勢力範圍に屬するものである

鴨綠江森林に於ける主要なる樹種はテウセンマツ、タウヒ、タラシラベ、テウセンモミ、テウセンカラマツ、イチヰ等の針葉樹及びマンシウグルミ、シナノキ、モシグリナラ、シナジ、キハダ、ニレシラカンバ、ハリギリ、イタヤカヘデ、ドロノキ、ハシドヒ等の濶葉樹にして就中主として產出せらるゝものはテウセンマツタウヒ、タウシラベ、テウセンモミ、テウセンカラマツ、其の他一三の濶葉樹材である。

此の地方の採伐事業は冬期積雪前に伐木造材を終り雪上を滑送して之を各溪流の畔に運び此處から管流と筏流とに依つて遠く安東縣及新義州に搬出するのである、蓋し交通機關の不備なる此僻遠の森林から年々二百萬尺締に近き多額の木材が伐出されて東洋の木材市場に大をなす所以のものは實に此の積雪と鴨綠江の水利との二大天惠の賜である、而も事業に從事する勞働者の數は實に三萬餘人で運材事業に使役する牛馬頭數貳萬餘頭とは亦以て驚へべき數ではあるまいか。



阪堺電鐵田園住宅懸賞應募圖案概評

武田五一

應募者の熱心なる努力に由り圖案は何れも優秀なるものゝみなりしは審査員として大に興味を感じらる所なり圖面の如きも正確に且つ實施し得る範圍のものゝみなりし日本募集の目的を充分に達しらるものと云ふべし勝て圖案考案の條件として日本風住宅とありしを以て外觀に奇拔なるものを出し能はざりしは應募者としては定めし不滿足なる點ありしものと推察す今其當選圖案の一々に就き重要なる注意點を左に記載すべし

審査員　武田五一
　　大原靈城

甲種一等
暗號「社」
大原芳雄氏案

大體として各室の按配都合よく特に二階便所を設け眺望の點等にも注意せるは多とすべし建築の外觀に何等の奇なき極めて穩やなる形態を案出せり二階に上下する階段勾配の急なるは微疵なりと云ふべし

乙種一等
暗號「乙」
錫谷榮次郎氏案

外觀田舍家らしく室の配置に何等の無理なきも應接室の床の間に一層の考慮を拂はれんことを希望す

甲種二等一席
暗號「申」
桑村種吉氏案

外觀穩健室の配置に於て玄關と應接室の關係餘りに開放的なるは惜しむべし便所浴室の廣きは住居としては都合よからんも勾配急なるは面白からず

甲種二等二席
暗號「◎」
早良俊夫氏案

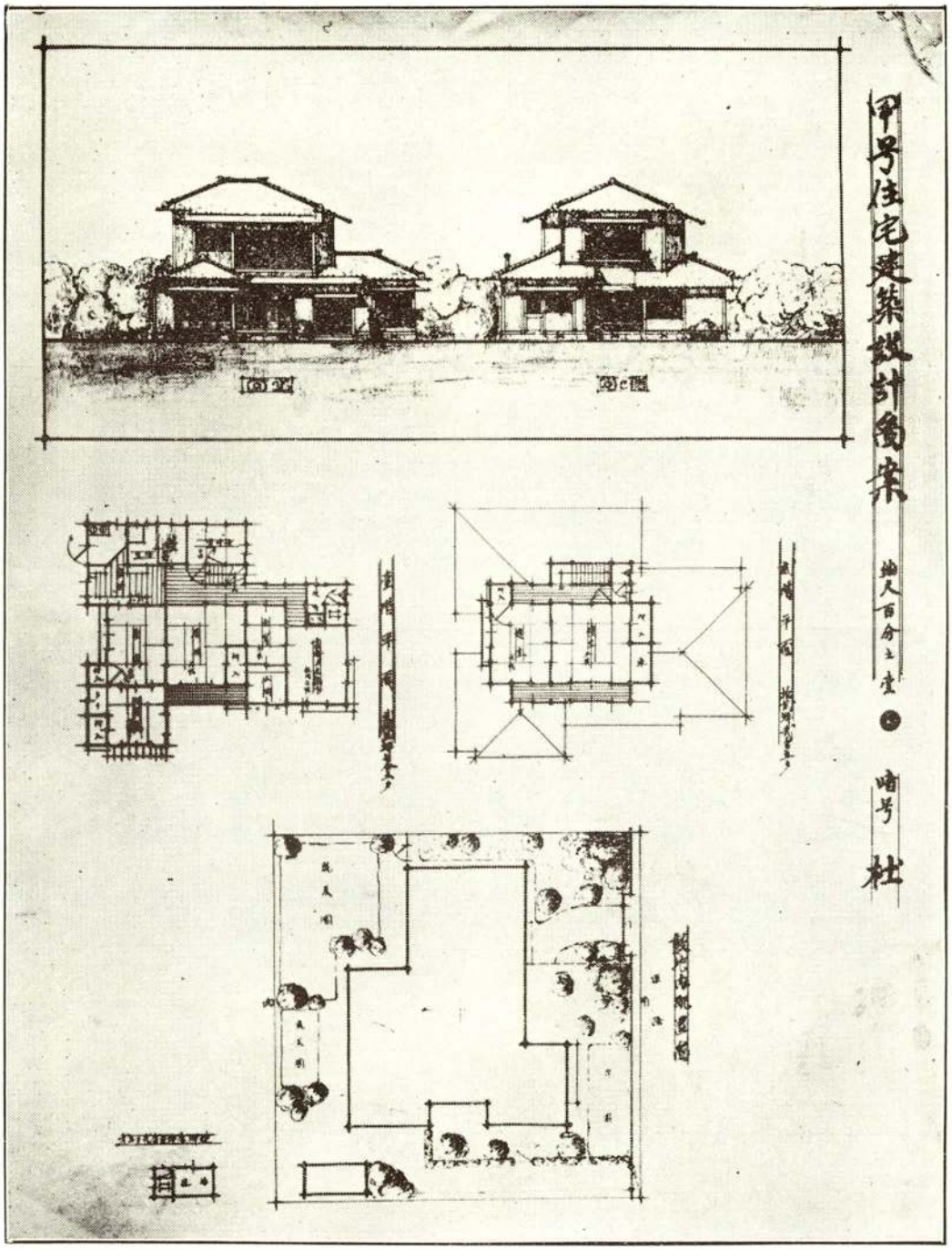
此案の如き玄關廣きは住宅としては都合よきことなり但し應接室と玄關との距離遠くして客をして常に家人の目前を通過せしむるは面白くなきことゝ云ふべし外觀に厭や味なし

乙種二等一席
暗號「乙」
早良俊夫氏案

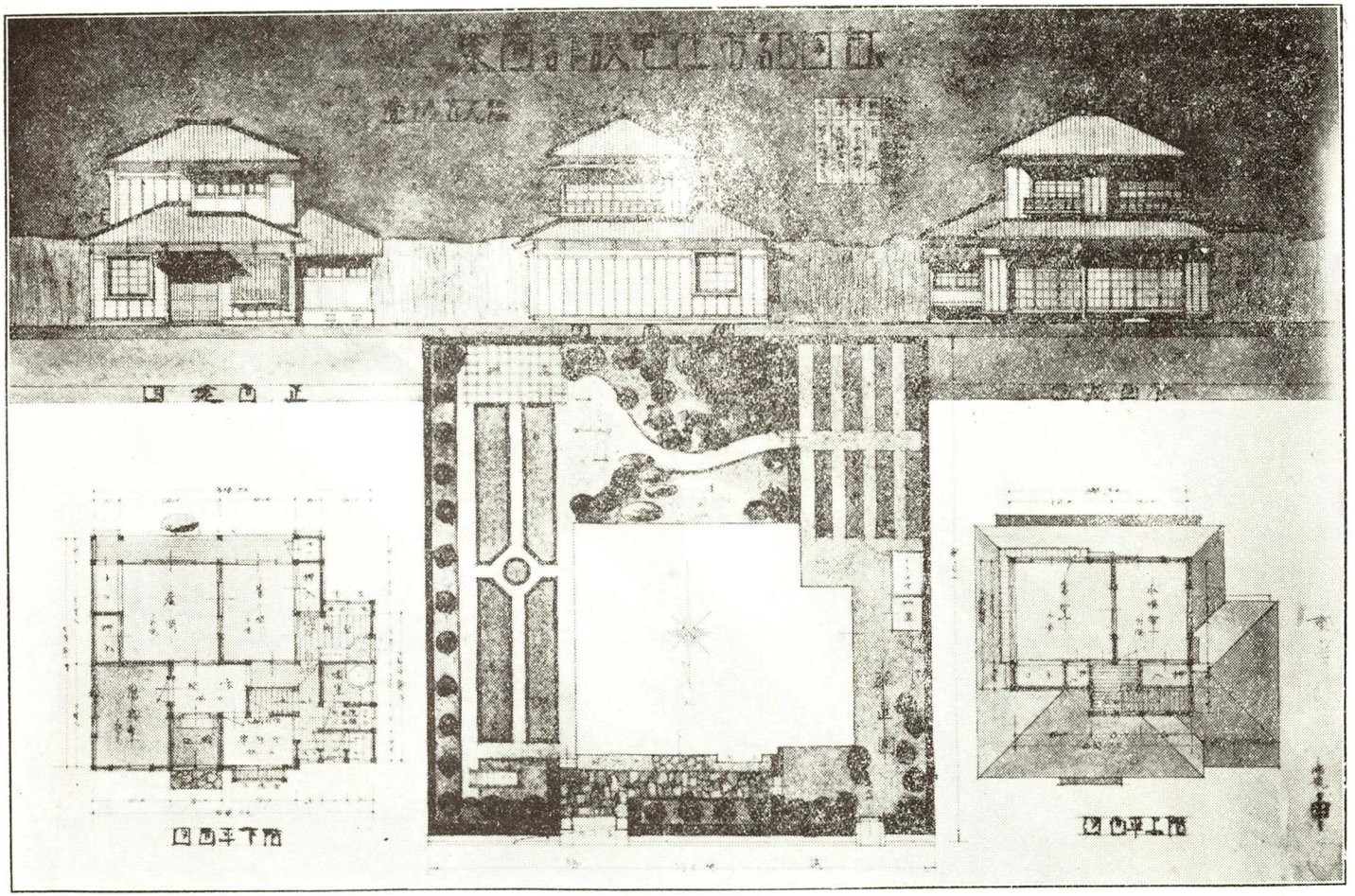
室の配置に大なる缺點なきも應接間の光線少しく不足なるやの感あり其外觀の田園らしくなきことは惜しむべし

乙種二等二席
暗號「彦一」
大原芳雄氏案

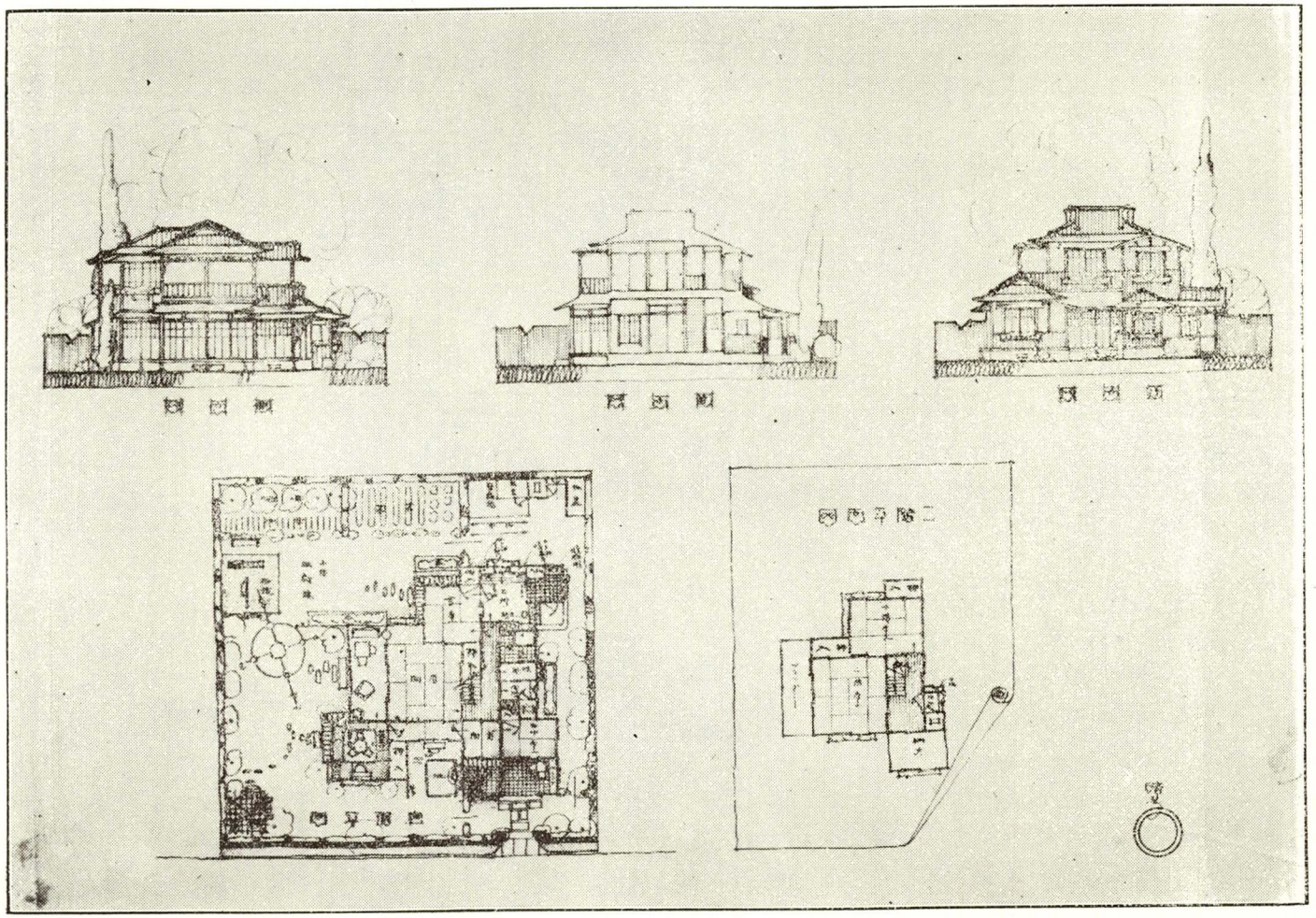
大なる缺點なきも階段の取り方に無理あり勾配急なるは面白からず



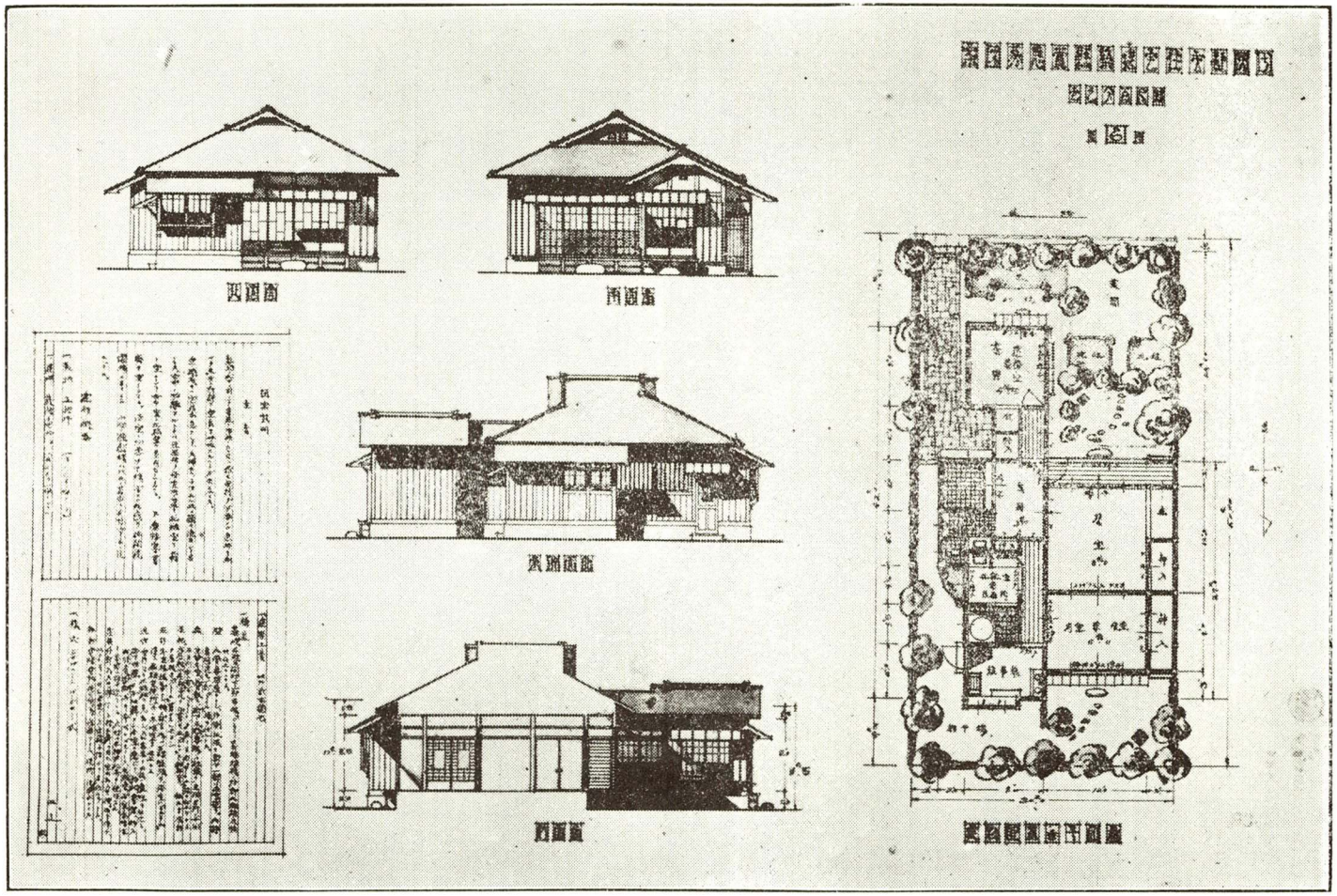
選　當　等　一　の　甲



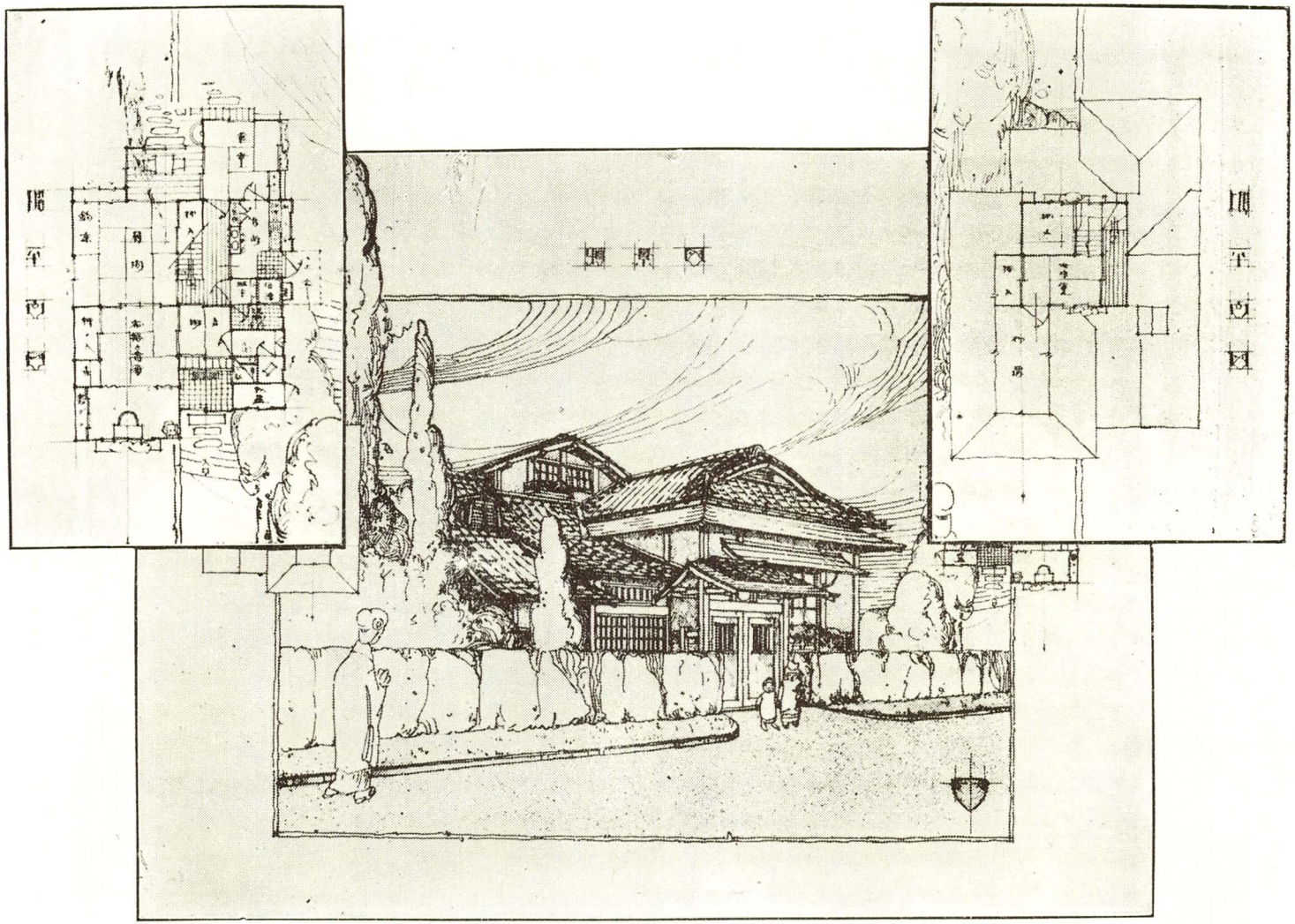
甲の二等一席當選



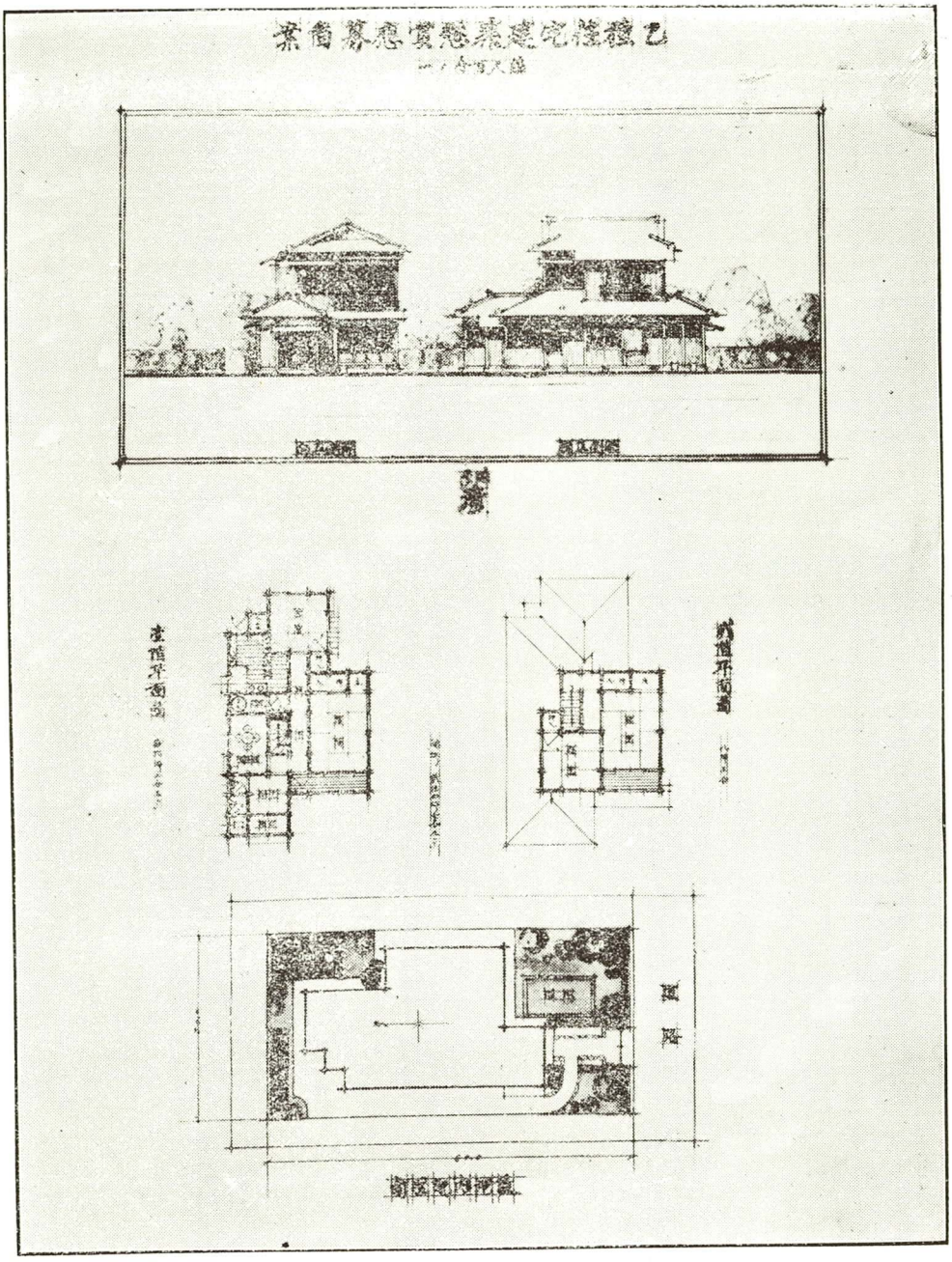
甲の二等二席當選



乙の一等當選



乙の二等の一席當選

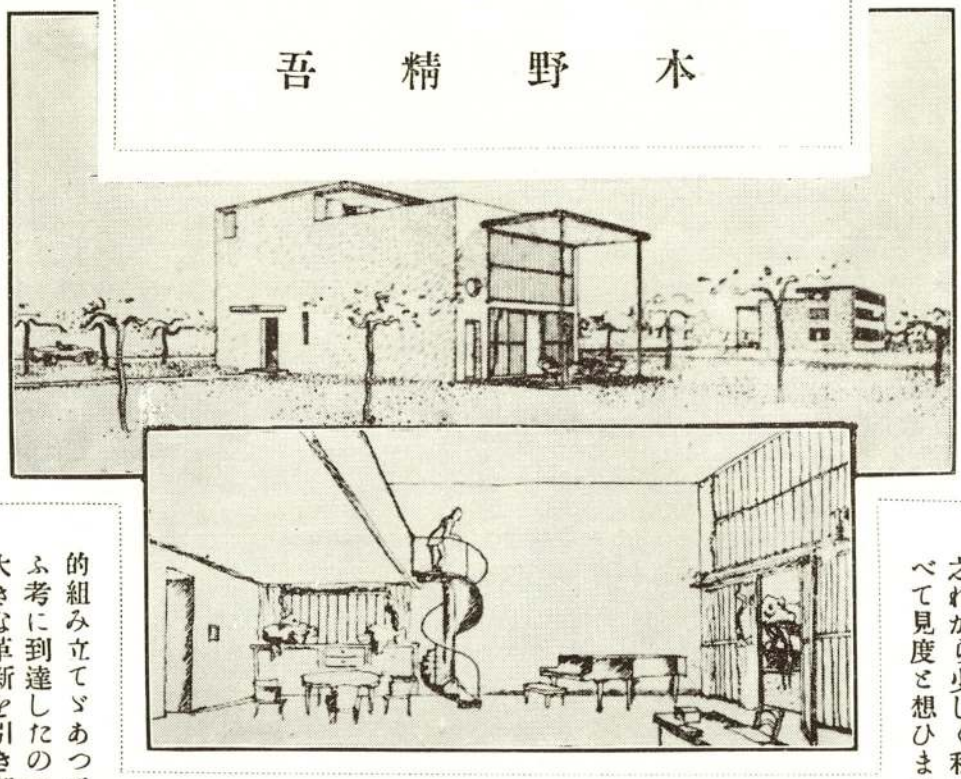


乙の二等の二席當選

家族を含む自畫像

（三）

吾妻精野本



今迄述べました事柄は私の計畫の基本の大體であります。之れから少しく私の計畫に這入つて來る色々の要素に就而述べて見度と想ひます。

空氣の間仕切り――妙な言葉でありますが、私は間仕切りと云ふ言葉の意味を形の上の仕切りのなり部屋から部屋へ一と續きにつながつて居る場合に迄を――擴めて居ます。私は計畫の根本として間仕切りと云ふものを出來得る限り撤廢し度いのであります。何故なれば壁體を以て部屋から部屋を仕切る事は一つ一つの部屋を孤立した感覺の中に導き入れる事が多くて、和かい有機的な構成に向つて大きな障害になります。曾て十九世紀の初め頃を中心とする歐州の住宅では部屋は一つ一つに仕切られて全體を一貫して流れる感覺の連絡と云ふものには甚だ乏しかつたのでありますが、ソウ云ふ構成に滿足しなくなつたのは世紀末の歐州に於ける一つの新らしい傾向でありました。コウ云う考へに導かれて私の到達した歸着點は建築のプランニングは空間の有機的組み立てゞあつて壁體は其の境界を充たす物質であると云ふ考に到達したのであります。此の事柄は建築考案の基礎に大きな革新を引き起したのであります。私が此の頃の始めに述べました建築に於ける動線の構成も此の考に出發して居る

のであります。空氣の間仕切りと云ふ考も此の事に胚胎して居ます空氣の間仕切りと云ふ事はドウ云ふ事を意味するかと申しますと部屋から部屋へ一とつながりにつながつて居る場合に其の境界の處に壁體を置かない分で感覺の界を造る事であります。云ひかへれば部屋はつながつて居乍ら其の間に感覺の分界が構成される樣に考案する事であります。現代の巨匠ロイド、ライト氏の建築に此の事柄の極めて巧妙なる取扱を發見します。私がライト氏の建築に對して驚異の眼を睜つたのは主に此の非凡なる空間の構成にあります。尙コウ云ふ空間の構成に就而驚くべき才能を發揮しつゝある人にフランスに生れた少壯建築家コールブッシエ、ソーニエ氏がありますが茲には一つの例を揭げて參考に資さうと想ひます。氏は驚くべき創造力を以而個々の家に立脚して現代都市の根本的改造を思ひ立つて居るのであります。氏の考案になる都市の計畫は世界の何處の隅にも未だ曾て存在した事のない獨創的なものでありまして、而もソレは極めて適切に現代を基礎として組み立てたものでありますから其の儘に實行の可能性を充分に具へたものと想へます氏の事に就而記す事は岐路に亘りますから之れ丈にして先へ進まうと想ひます。

餘地の活動――ネセサリー、エンド、サフイシエント（Necessary and sufficient）此云ひ古された言葉の擴張と考へる事が適當と考へます。人間の生命は鐵製の機械の樣に固定した運轉を續けるものではなく有機的活動の限りなき連續であります建築がソウ云ふ人間の容器である以上機械を納める箱の樣なものであつていけない事は申す迄もありません。活動し得る素質を持つ餘地を造る事は一つの必要條件であります活動し得ざる素質を持つ餘地は即ち必要以外にはみ出した無用のものであります。具體的に申しますと一つの場所を用ひて居る場合に其の餘分の場所は何等かの意味を持つてかゝわり合つて來る樣に計畫を立てる事であります。前に揭げました空氣の間仕切りに依而互に繼がり合つた二つの部分は御互に活動する餘地として作らきかける素質を持つ事が出來るのであります。私の家の計畫に於ては此の考を家の全體にをしはめたのであります。從つて家の何れの部分と總ての場合に御互に何かの意味を持つて作らきかける樣に計畫したのであります從つて一つの場所を用ひて居る場合に全體の家が常に精神的にソコを用ゆる人に作らくのであります。コウすれば一つの點を使用して居る人は常に精神的には全體の家を用ゆる感覺を受ける事が出來るのであります。過去に發育した個々に仕切られた部屋の組み立てに於ては此の種の感覺は絶體に求められないのであります。唯茲に於て一つの大きな困難に遭遇するのは互に作らきかける餘分の空間が使用の本質を妨害し易い事であります。例へて申せば食堂を用ゆる場合に臺所と客間とが密接に作らきかけ乍ら食堂の感じを妨害しない樣に計畫すると云ふ事に困難の點があるのでありますコレ以上を言葉で表はす事は不可能でありますが之れの解決は唯計畫者の頭腦の作らきに待つより他はないのであります。私は此の考を基礎として空間の構成に考慮を費やしたのであります。此の考が適當に遂行された場合に家は狹小の感覺から免がれる事が出來るのであります。宏大な家に這入つた時狹小の感じに迫られる家は此の點に欠けた處のある事を示すのであり

ます。

之れ以上細部に就て縷々記述する事は意味がない樣に想ひますから細部の圖と寫眞とを掲げて說明にかへる事に致します。ソレから終りに家の各部分の面積と全體との比較表を掲げて各部の專領して居る面積のパーセンテージを明らかにして置きます。

換氣に就而の考案を一括して申しますと家の內部は至る所下から上へ壁の空間を利用して一と續きにつなげてありまして、最後は二階の天井際の軒下に出してあります。家の中は常に氣流が流れて最後の口から吐き出されて居るのです。下の室に烟を作つて實驗して見ましたら其の事實が證明せられました。便所は大正便所を使用して居ます。

庭園と建物との關係に就而——之れは費用の點で私の考を其の儘に實現する事が出來ませんでした。私の考へて居る庭園と家とは家の內部の各部が御互に親密の關係を保つ樣に家を庭園とも玆からが庭玆からが家と云ふ樣に離れ離れの感じにならない樣に計畫して、初めに揭げました感覺のギャップを感じない樣に考案する事を理想とするのであります。けれども此の爲めに可なりの費用を要しますから此の點を放捨して稍〻それに近いものにして置くに止めました。

欅の葉ほのかにゆれて窓青み

チヤルメラの笛とほく聞ゆる



T . S

寒風肌を劈く朝或は雪降る夕痛切に感ずるは吾人の住宅である炎熱燒くが如き憂の日も同じことであるが氣候變化の都度寒暑の差を相當に有する國に住居する吾々は北米ローサンゼルスの如き四時春の如き地帶に居す人々を羨やまずには居られぬ尤も概して温帶に位する我國の如きは其の差こそあれども尚ほ寒帶に屬するロシヤと反對に常夏の國を誇る印度に比較したなれば其の程度は差程苦にするには及ばないかも知れぬ併し以上の場所には其の氣候に相當する寒暑を凌ぐ設備が充分完全に施されてある不幸我國は温帶に位する爲め其れ等の設備は怠り勝ちであるのと同時に住宅の構造が餘りに之れ迄無關心で押し通し尚武の風習と自然弊屋を誇りとする結果其の設備に何等見るべきものなくロシヤのペチカ朝鮮の溫突に對し漸く炬燵位が採温の設備である。

不衛生なる炭酸瓦斯を發生する木炭を一般に使用して採温に供して居るが其れ程人体に害を及ぼして居らぬのは幸か不幸か家屋の構造が空隙だらけ天井板の羽重ね建具と柱の建て附け疊の空隙より床下の風は吹き上げ次第實に呑氣千萬の構造である。

病者の爲め醫師の注意により室内を六十度に昇温させるには普通極めて困難である衛生上より或は燃料の經濟より笑ふべき事ではあるまいか。

洋館必ずしも完全ではないが大に優つた點が認められる、一般に建具は溝に入り込んで片開き戸は引違ひ戸より遙かに防寒的で天井床壁等に至る迄進歩して居る。尤も立式の部屋に採温設備を忘れると和服で生活するには無理な注文である其の設備例令へば石油ストーブ瓦斯電熱又はアルコラ費用を厭はねば温水煖氣媛房の設備が出來其の燃料を消費する割合に採温の能力は日本住宅に比し非常に好結果である。

硝子戸は採光と保温二つながら理想通りのものであり又清潔である欠點は破損し易い點にあるが此の發明は偉大なる効果を齎したと云へる紙張障子は保温には相當効力あつても採光には役立たず汚れ易く又破損し易く不愉快なものである尤も時を定めて張り替の手數と費用を厭はざれば新らしみを味ふ點が取るに足るとするが。

襖に至りては尚更採光には不便である但し落ち附きは室の用途により相當讃美される。

現時の住宅に硝子障子の使用日に增加するのは論ずる迄もない其の長所を利用し必要に迫まりた結果であろう尤も掃除の行き屆かぬ處は透明より艶消しが有利である。

引違ひ建具は二枚として左右を柱に突き當て溝を造つて女木を出すか四分一の木を打つか中央は差し込み金物で締め附ければ風の侵入は先づ防ぐことが出來る、四枚の引違ひは中央の框に定木樣を付け左右は差込金物で前同樣締め付けることにすれば目的は達せられる但し換氣の必要から椽側に面した方又は室の外側天井下に小窓を附し廻轉又は引違ひにして建具を嵌込み調節の出來るようにして置きたい。

在來の天井は前記の通り羽重ねの空隙を態々造り置くものである天井裏に堆積した塵芥の落下甚だしい時は鼠の不汚物が火鉢の中に飛び込むなどは應々あることで防寒でなくとも是非共板張りの方法を手輕く改良し目板押へにするか又は大和張りに改めたい之で天井と建具の問題は解決する。

次に壁である土を塗つた壁は乾燥するに隨い柱の取付き内法造作の個所に空隙が生ずる朝日の差し込む位は誰も氣にせぬ程普通になり過ぎて居る之は工費の都合で散漫喰を廻せば相當に防げる張り壁にして四分一を廻すのも一方法である土壁の代りに費用は多少多額になるがタイガボートの如き他に數種の新らしき壁材料がある。

壁に關聯して下見板が大抵餘りに貧弱過ぎる四分板と稱するものは僅かに一分五りん乃至二分を出てない其れを削り一層薄くして尚ほ施工の際抜け節、割れを其儘にすれば風は遠慮なく吹き込むに都合が良い隙き間漏る風は昔も今も寒いものと相場は極まつたもので更に改良をせぬには驚く

下見板はなるべく厚いものを使用することにしたいのは當然であると同時に板と壁の間に防濕用のアスファルトフェルト又は建築用紙の如き安價なもの一枚を入れて下見を張れば寒暑共に非常な効果がある。

在來の椽側の下は大抵植木鉢や物入れに使用される爲め吹き抜きである此處から吹き込む風は旋風を卷いて椽側の板の空隙から遠慮なく舞ひ上る體裁を云々すれば框より五寸位奥に入り込たる處に壁を造りて外部と遮斷すべきである尤も床下通風の爲めには無双窓を取つて時に應じて開閉すればよいことになる床板の隙間から疊の敷合せ目を通し來る風を防ぐ爲めと且つ疊は不潔であるのと大掃除の取扱ひに面倒である關係から近來コルクを敷込む事が流行して居る只習慣ではあるが室の調和を欠く恐れは多少あるも衛生保溫には誂らへ向きの材料である。

在來便所の構造は論ずる迄もなく尚更寒く臭く造られてあるが時代は最早進んで居る改良便所に數種の考案があり極めて僅少ながら實行せられて居るも未だ前途遼遠である汚物の見へない臭氣を室内に導かない衛生的で手輕なものとして歡迎されてゐる妻木式SO大正便所其他に種々ある。

工費を厭はねば水洗式は尤も望ましいが之は地勢と多少複雜の構造にはなるが文化住宅などには是非とも其の設備を希望する。

室の大小に依つて自然保溫の關係が異なる。狹きより廣きは至難であり一重の室

より二重は容易である狹くとも用途に充分であれば見得に不用の室を造らぬが肝要である方位は尤も大切である。日光に浴する家の面積の多い程愉快である特に朝日を受けるは尤も必要で終日殆んど光を必要とするには家の方向を眞南に向けず東に少しく片寄せ室の配置をすれば大抵の室に光線を導くことが出來る尤も普通南を重視するも夏の關係から南の大切さに程度がある大阪の東南新潟の北は設計の際良く考慮する必要がある夏涼しき家は冬暖いとは昔から極まつて居る之れに當嵌るように四圍の事情を斟酌して熟考すべきである。

暖衣食飽、安逸することは考へものである併し能率を上げるには相當の採温設備は必要である長縮して働き苦しいより愉快に活動出來る事は誰も異議がなかろう兒童の體育上他より餘り掛け放れ過ぎた溫室的の設備は勿論考へもので有價の燃料を考慮もなく無暗に使用し室は夏にも近い昇温を氣にも止めず室外の雪を横目に眺め薄衣半身は裸體に近く其れでも汗を流して踊り狂ふ一部泰平の人士等は別問題で到底同日に論ずることは不必要である併し年老いたる親病者の爲普通贅澤に過ぎない設備は議論の餘地がなかろう要は假りに保温の爲め燃料を用いるとなれば其の生じたる熱の逃れ出ぬ相當の設備を心掛けることである最も人工の採温は當然自然の其れには及ばず多少の利害も伴ふ事は致し方がないが其れは設備に於て注意すれば補ふことが出來よう先づ寒暖計を見るやうにし換氣用小窓を設け就寢前と其の後に於ては異なる注意を必要とする即ち室の窓閉は空氣の不潔にならぬ程度に心掛けを忘れぬようにそうして高價の燃料を無駄に消費せず是非其れを極めて有効に利用するべく考慮することが肝要である。

床柱になる木は
その位種類があるか

近頃の貸家と云ふもの、一寸した家でも何百圓と云ふ敷金に小千圓の造作費をとられ、しかも到底住む人の心もちにぴつたり出來ない粗雜なものばかりである、そのため、それより、どうせ纏まつた金がいるなら此際少し位無理をしても自分で粗末なら粗末なりに氣に入つた設計の家を建た方がいゝといふので此の頃郊外に踏出すと不愉快なトタン屋根の長屋や不調和なペンキ塗りの安文化住宅などの借家地を距て、處々にその人その人の好みを見せた小住宅が續々建られてゐるが、ヘタな歐風住宅よりもどれ丈心からか平均して日本建の家が多く、又和洋折衷にしても何處までも日本趣味でいつてゐるもの丶方が多い、これから考へると何と云つても日本人の生活には床の間を見せた濕い疊の上の落着いた氣持は棄てられぬらしいがさて家を建てるとなると一番考へさせられるのは柱と壁の色である、殊に一番雅味を添へてゐる床の柱の選擇である、何の柱がいゝか落し掛に又洗ひ柱に何がいゝかといふ事は一寸素人では思ひまどふ處であるが、それはやはりその室の種類又床の様式によつて選び度い自下東京池ノ端に開催中の斎産博には一般人の趣好と便宜にそなへる爲めこれら床の間用の各種の柱が陳列されてゐるが、新に住宅を建やうとする者には丶參考資料である木材の種類は約三十種即度から支那南洋産のものが大部分を占めてゐるがその主な物は黑檀、縞黑檀、紫檀、花林、鐵刀木、ラワン(南洋の桑)紅花林南洋花慶、棕梠、檜榔樹、ジヤ木等であるが、此の內鐵刀木、檜榔樹、などには纖細な縞の美を見せたものが少くなく又紅花林などにも非常に面白い木肌を見せたものがある、又北海道及び番地から産する、アラヽギ、つゝじ、槐、楓、桑、人造黑柿、杉柾、桐柾、欅、ツゲ、栃、榊、欅、波紋竹などいろ〳〵の雅趣を見せたものがあるが、波紋竹やアラヽギつゝじなどは天然自然のまゝの木を見せてゐて使ひ途によつては非常に面白いと思ふこれらの値段は一間と二間及び角の方寸によつてそれ〴〵異るが最低八圓前後からいゝものになると百二三十圓まであるが、中流住宅用としては大抵十二三圓から高くて三十圓前後といふ處であらう。

我が家建築の後や先



（御影）木水榮太郎

借家住の家わけを申渡された時の家探しの悲哀、借主として貸主に對して起る日常のいやな心持を避け度ひ爲め我家を建てゝ住む事にした。

自分の資産の全部を投ずる事に對し此の節約宣傳の折柄大に考へさせられたが又一方では借金（低利資金）までして家を建てる世の中の事を思へば大に安心して兎に角我が家を建てる事にきめた、夫れも尚美堂の江藤君が自分の住の近所に見はらしが良くて庭を造る必要のない所と云ふ私の希望に添ふた借地をしかも僅利の安い譲り物を堀り出してくれたので大に氣のりがして實行する事にした。

五十六や十にもなつて立派な家を作るより安物でも早く日々の愉快な安息所を得度いと、かねがね我心を惱まして居つた關係からと日常の勞費を省く目的から又日本式建築に比較して安く上るだろふとの考へから更に趣味は兎に角として出勤には和服より洋服を着用する現代的から洋風建築が適當と思つたので此の形式を採用する事にして自分の要求する部屋の數と種類を取極た元來自分は住宅と云ふものは左程迄に長い將來を考へて設計すべきのではないと思ふので凡そ七八年位後の事迄を考慮して置けば充分と云ふ意見を持て居る即ち家族や趣味や色々の狀態に於て必ず變化が生ずるものであるから其の時には賣却又は譲り渡した方が好都合である或る人の考への如く子供に家を譲つてやろふとの考は毛頭無い、夫で現在の私の家族は夫婦と六才と四才の男兒二人の數に適した部屋を定めたのである、夫れは居間一室を設け（これは客間や應接室も兼用であるのは勿論で更に其の一隅に

ベークインドー』を設けて書机と椅子を備へ付け書齋の代用にする事にした。郊外の住宅などではあまり堅苦しい訪問客のある事は少ないので應接室を省略し又學者でもない自分としては書齋に引籠ると云ふより寧ろ書物から讀書を要求せらるゝ形にした方が好都合との考へから獨立の書齋を造らなかつたそれのみならず廣さの能率を上げる爲め居間と食堂を隣接せしめる事となし又其の隣に二人の子供の勉强机を置けるだけの小さな小供室一つを設けそれも可成外で遊ぶに便利な樣に一階に置く事を望んだ又床の間付の日本間の一室を二階に取る事にして清元の稽古場にあてる積であるが又遠來の客の宿泊場所とする考へから此の間を取つたのである客の宿泊にも洋式のベットが良いとは思はれたがこれは人數に融通がつかない缺點があるので斷念する事にした、私のこの部屋の取きめ方を考慮にする事に際して屢々周圍より注意を促がされた點は下便所を取らなかつた事であつた、夫れは申すまでもなく下便所は不潔になり易い缺點があるし又一人や二人の召使の爲に特に專用の場所を設ける不經濟も考へられ殊に當今流行の『デモクラシー』の觀念にも反するので便所共用說を採用した譯である。

最初上記の樣な大體の注文だけで友人なる住友の小川君に依賴して同君の自由な設計に一任した然し具體的になるまで三四度の意見を交換して『スケッチ』のやり直しを願ふた

右のやうにして出來上つた設計圖が『ブリユープリント』になつてからは只の一度も變更や要求をしなかつた蓋し豫算の關係は充分考慮してもらふことにした、充來建築に素人である自分には間取位より以外に有效に干渉する餘地がないもので出來上りが氣に入らなかつたら設計者の選擇を誤まつたものと斷念す可きものと考へたからである然し臺所の設計に就て參考に成ると思ふた本の持合せがあつたので是れを提供して意見を述べた事はあるがすべて小川君の任意の採否にまかした今日の結果から見ても自分の此方針は甚だ良好であつたと思ふて居るし又小川君も此點は滿足してくれて居る樣である。

斯くして八ケ月間程かゝつて建築は出來上り昨年十　月中旬にしかも强制的に新宅へ引き移つたのである。間取は次の樣になつてゐる（大さ設配置は前々號參照）

一階　居間、食堂、裁縫兼女中部屋、子供室、化粧及浴室、大小便所

二階　日本間、子供寢室、主人寢室、女中別室、洋風便所、

三階（屋根裏）物入

別棟　物入　犬鷄小屋

そして大體としての自分の注文の『クズヤブキ』式洋館竹中工務店の山脇君の評の如く所謂御召でなくて紬風の家が出來上つた。

引越して住んでから三ケ月漸く落付いたので色々と長短を顧る餘裕が出來たので先づ洋風建築に對する感想を述べて見よふ、大體豫想通り實用的で勞費を省く事が出來女中なども從來二人であつたものが一人で尙餘裕を認める狀態である『サーバントレスハウス』（女中無しの住宅）と言ふ英書があるが私はその書名に大變引つけられた事がある、女中を半減し得たのも大きな効果と思ふ

手數が省ける諸點としては

一、疊を用ゐる事が少ない爲か埃が少なく假令埃が出來ても日本間の樣に直かに坐り込まない關係から苦にならず結局掃除の手數が少ない、更に電

氣掃除器を用ゐて日本流の塵埃移動式掃除法で單に埃のある部分を除くに過ぎないやり方を改正すれば効果が多い樣に豫想される

一、居間食堂寢室と部屋の分業が出來それぞれ適當な設備が出來る、例へば自分の寢室には取付の洋服箪笥があり從來一々女の手を煩はして居つたものが、そう面倒で無しに自分勝手に整理をする樣になつた、又寢臺によつて毎日の寢具出し入れの手數が全く省かれた。

一、家内を下女の外は三人共殆ど洋服專用で衣服が單純化される又食器なども現在は過渡期の爲め併用して居るが漸次洋食器に統一して飯茶碗の外は日本食にもこれを應用し度ひと思ふ。

一、戸締が簡單に出來るし殊に夜遲くなる時など玄關の鍵さへ持て出れば總ての戸締を終へて家族が皆な寢に就ても何時でも不便が無い。

一、特に毎日感謝して居るのは風呂の設備で浴槽は西洋式のものであるが日本流に湯を替へ出せる樣になつて居る臺所の一隅に内藤式の釜で湯『タンク』があるそれから臺所流し洗濯場の流し洗面場の外風呂場に湯が供給される西洋浴槽については色々と意見があるが清潔であり各自が自由に湯加減が出來湯量が少なくて濟むから一人だけの入浴の場合でも不經濟でない等の長所を認める殊に湯『タンク』を『コルク』板で包むで保溫をしてからは夕方沸した湯て朝の洗面が出來又朝風呂にも這入れる序ながら友人岸田君の『アドバイス』で家の周圍の壁及び屋根裏を『コルク』板で包んだ事は此家の特種な點で防寒避暑の作用をすることになつて居る冬は煖房の加減で其の効力が適確に判明せないが夏には其の効力が大きからうと今から樂しんでゐる。

其の外に洋館の特長として前記の各部屋は二階の日本室の外全部毎日使ふて居るもので効用が大である又泥棒の用心に付ても洋館の方が良いと思ふ蓋し日本家屋と違ふて部屋毎に戸締が出來殊に寢屋の戸締が出來るから家の一部へ這入つたら全體に通じて交通出來る和風建築より安全である尙自分の家では夜分皆が就寢する時分二疋の犬の一つを臺所に入れる事にして内部からの番にも當らしてゐる警察力の薄い郊外住宅ではこれ等の點にも相當の注意が拂はれなければならん

尙庭に付ては現在のところ周圍の眺めが良く天然の風光に惠まれて居るので庭造りとも言ふやうなものは殆どせず單に鬼芝を敷詰めたのみで庭と言ふより子供の運動場と言ふべきものである。

又家の周圍も簡短な見通しの利く板垣を作へたに過ぎず牢屋の樣な塀の内に住まなくてもよい幸福を感謝してゐる。

方向を轉じて歐風住宅の經常費についても考へて見なければならないのであるが日曜祭日共に休みを持たない百貨店奉公をしてゐるために調べて見る餘裕がなくいづれ後日研究し度いと思ふてゐる。

要するに今の所では大體建築の各點に滿足し從つて小川君にも感謝してゐる、只『ヒーテング』の設備に於ては氣分本位の割木を燃す『ファイヤープレース』を作つたので費用多くして能率が擧らない缺陷を認めてゐる。

最後に素人感から一般設計者（小川君にと言ふのではないが蓋し設計者に共通の事と思ふから）に一言して置度い點を述べると先づ建築豫算に付てであるが昔から此豫定ははづれるものと定められてゐる勿論依頼者の方にも途中變更其他の責はあるのであろふが一般に技術家と言ふものは會計感念に薄く豫算と支出の整理がうまく行かない點がありはせんかと思ふ住宅建築などの場合は極めて簡單な會計組織で整理出來るものであるから此點に配慮を願ひ度い様な氣がする。

次は設計者は大體に於て『ブルジョア』氣分が大に有る様に思はれる一般批評者が出來上つたものを經費の點などは考へないで致す結果自然この風習が現れる様ではなかろうかと思ふ今後の住宅建築には其の大小に拘はらず專門家の設計を要す可きものと信ずる故自分としては、今少し殊に一流の設計者に於て平民的であつて欲しい様な感がする更に幾分理想とす可きものではあるが住宅の設計に當つては家庭の經常費中住に關する費用の大體の豫想も入れて欲しい氣がする勿論家族の數にも依るが必要とする女中の人數なども考へてもらひ度いと思ふ。

終に我家建築に際し設計監督者たる小川君は勿論專門家以上の色々のアドバイスを賜ふた江藤君御兄弟に各種の面倒を見てもろふたインスレーションの大家岸田君に請負として責任を盡して下さつた氏家氏に感謝の意を表す。

婦人に持つてほしい
建築の常識

近來建築が大變重要視されて來ましたが、日本の建築は先づ第一に如何いふ事を考へなければならないかと言ひますと、それは氣候であります。世界に於ける文明國中で、日本は一番氣候の變化の甚だしく、夏は暑さ酷しく、冬は寒さ嚴しく、雨量多く、濕氣強く、其の上に地震といふ困りものさへあります。一昨年の大地震で、地震に就ては日本人は除程神經過敏になつて來ましたが、氣候に對しておろそかである、實に困つたものです。

主として東京に就いて言ふならば、家の中に東西南北からよく風の吹き通すやうにしないこと、夏の生活が決して愉快に出來ないのであります、又在來の建築は太陽が冬の間だけは家の中に直射しても、夏は床を直射しないやうに窓を取る事を考へて居ません、冬は日當りがよくて暖かく、夏は光線が入らないで涼しくするといふ爲めには、日本古來の緣側は非常にいゝものであります、さうでなければ、窓に深い軒をつける事であります。

西洋の建築を其まゝ日本に模倣しては到底住む事は出來ないのであります然るに此頃文化住宅が流行つて來て何でもかでも西洋建築の通りに眞似たので、隨分困つて居る人が多いやうであります それから、日本は晝間と夜との溫度の差が割合に激しいから、ガラス一枚の窓や緣側はよくありません、ガラスは非常に溫度を傳へ易いから、若しガラス一枚にするなら、中に厚い完全な防寒用カーテンをとりつけなければなりません、然し此のカーテンは高價でありますから、安くて寒さを防げる日本古來の雨戸がよろしい、

又床下の通風を充分に考へぬと家が濕氣ます。五六寸角の風通しでは何の役にも立ちません、廣く東西南北に取る事を考へたいと思ひます、此頃まだ床下をコンクリートで固めるやうですが、乾燥させるには床下の地盤を庭の地盤より五六寸高くすると雨が床下に入にないで外に流れ出ますから濕氣る事はありません、それから從來の日本家屋は客本位で、客間を廣くい、場所に配置しましたが居間とか書齋とか寢室とか家族の人達が多くの時間必要とする部屋を出來るだけい、向きに位置を取る事が大切です、それには西の方が一番悪い位置だから玄關、納戸、客間等は西方にとるのが最も經濟的な方法だと考へます敷地の選定法に就ては、南北に長いよりは東西に長い方が經濟的に無駄なく、家が建てられるのであります、北若くは西側に道路のある南向きの敷地が最も理想的であります。



都市惡の拒否

別所悌一

大都市は單に美しく磨かれた一個の顔ではない。言ひ得るなら、大都市は二つ乃至四つ、或はそれ以上數知れない極めて醜い淫蕩な顔を有つた、えたいの知れない永劫のお化けである。單なる比喩である以上に、そこには目が七つあつたり腕が九つあつたりする。疑ふまでもなく上流と呼ばれてゐる階級の綺羅びやかな都市、自ら有識中産階級と誇稱してゐる階級の雷同の都市、俺達は無産階級だと無理にも力んで見せる反抗の都市、もう文字通り何んにも有たない者達の暗らいどん底の都市。そしてこれら全ての都市は相重り相抱き合つて動搖し生活し乍ら、そこには相矛盾し合ひ相敵視し合つた數個の騒がしく野卑な都市が、同じ空間と同じ時間とを同時に占めて、お互に各個の勝利を輕卒に主張し宣言し合ひ乍ら、厭くことなく犇めき喘いで自らの深い血腥い痛手には些かも心を配ばらうとはしてゐない。俱に相和いでその血を一にし呼吸を一つにしやうとは決してしてゐない。而も、こられの都市の顔は他の如何なる顔よりも極めて神經質で、我儘で、移り氣で、氣まぐれである。彼女は今日は笑つて明日は怒る。今日は建設への道を歩き乍ら、明日は腹を立てゝ一切の事業を雜作なく投げ出す。今日の流行は明日引つ破き、今日極度に輕侮したものを明日は最上級に賞讃する彼女は天才を雜作なく狂人にし蛆虫を平氣で天才にしあげる。藝術の評價も都市に於いてはその日の天候に依つて容易く左右される。唇では淫蕩と野卑とを激しく接吻し乍ら、瞳は朗らかな貧窮を憧れない神の邦を夢みたりする片目ではやけに哄笑し片目では慘らしく慟哭する。活動寫眞の流行、ジヤズ音樂の流行、野球の流行、所謂社交ダンスの流行、ラヂオの流行、それから人造絹糸と『人肉の市』との流行！すでに生活から冷たく忘れ去られた偉大な藝術家の作品が、例へばダンテやレオナルドやシエクスピアやモツアルトやゲエテ等が、極く珍らしい或る小數者に依つて、時偶まこの都市の激動の中に於いて地味に觀賞され上演される。從つて、都市は全らゆる誘惑と魅力との

母胎である。そこには、善の魅力と悪の魅力とが、同時に、それとは色別し難い薫り高い強烈な香氣を放つ。美と醜とはこゝでは單にものゝ表裏であるに過きない。やうにみえる。救世軍の說教所があやしげな喫茶店の斜向ひにある。都市を惡の巢窟であるとのみ思惟することは。今日に於いては、充分妥當ではないらしく思はれる。都市はソドムであるだけではなく、エルサレムでさへあるらしくみえる。度外れな虛無主義者と極端な基督再臨信者とが、同じ屋根の下に、同じ水と同じ空氣とに依つて生きてゆく。一人は神を信じないことに依つてのみ生き、一人は神を信じることに依つてのみ生きる。都市は神を失ふにもよく、神を拾ふにもよきところである。

まことに、都市は決して動かぬ冷たい建築叢ではなくて永劫に激しく搖れて止まぬ生活の河である。その流れは不斷に搖れ狂ひ乍ら、全らゆる生と死とを呑み愛と憎みとを玩ぶ。こゝでは、都市の貪婪なその獨手に依つて、慘虐にも天才もごみ箱と倶に奔浪の中間に流され、信仰も失意と倶に渦潮の中に浮き沈みする。事實、全らゆる愉樂の假面は都市の入口で希望者に媚び、死は哀しき失意者を都市の坩堝の中で窒息させる。而も、そこには過勞や夢想や失意や貪婪や淫樂などに依つて果敢なく昂奮させられ刺戟させられた多すぎる群衆が、男と言はず女と言はず、四周を混亂した雜色に染めて、唇に人生の夢と愛とを有頂天に語り合ひ乍ら、街路に溢れて、銘々が最後までお互に獨りでしかないことに淋しがらうとはしてゐない。惡は當然こゝにある。惡とは過剩の謂である。憎みは當然こゝにある。憎みとは不滿の謂である。疑ふまでもなく、虛榮と困憊とは都市の別名である。爭鬪と叛逆とは都市の相である。それに加へて、厭くまで不恰好な建物！と建物と建物線と線との殆んど無意義な亂雜な絶望的な交錯、重疊、憶面もなく狹い街路へのしかゝり凭れかゝつて、いくらか思ひあがつて冷淡に聳え建つ百貨店、貸事務所、銀行、倶樂部、圖書館、新聞社、公會堂等、セセッションとロマネルクとの模造品と粗製物とが朗らかな蒼空を汚す銅貨の惡臭と白粉の香とが混つて一種の酢つぽい霧圍氣を釀成してゐるのが大都市の露はな現實の相である。無遠慮にその邊へ唾を吐きかける音が聞えたり、自分の內緣の妻を惡罵する叫びが騷がしかつたりするのが大都市の塲末の赤裸の姿である。而も、誰も彼もが自分こそは決して失敗し失望し蹉跌しないだらうといふ自信と夢とを抱いて、大都市への切符を買ふために停車塲へ急いだのである。そして銘々は自分の狡猾な胸の底に人知れず收めた果敢ない野望に就いてひそかに自己流の考へに耽り乍ら、充分自ら樂しんで、すでに幾度失意と絶望とにうるんだかも知れない目と胸とを厭かずに今日も遠くの空へ投げる。明日があるのだ、と、彼等は自身の今日の滿たされざる胸を都合よく容易に糊塗する術をすでに辨へてゐるのである。かうして、不幸にも彼等は自身の人生にすつかり失望しきつてしまはうとは欲せず、最後にはその周圍に一人でも自身よりは不幸だと思へる者を見付け出しては、自らの虛ろなやり塲のない胸を宥めやうとする。彼等は自分自らの幸福を安全に確立する以前は、その隣人の不幸を辛辣に摘指し數へ擧げては、一種の滿足をそこから得やうといふ慾望を多分に有つてゐるのである。そして、彼等は銘々自分一人の希望と呼ばれるものを胸に抱だき、失

意の陰影を長く背後に曳いて、街路を横ざまに遮つたり、街路樹の下をポケットに片手を突つ込んで悠然とらしく歩いたりする。かうして、一度魂の目が醒めれば必ず幻滅するに決つてゐる現實を目に閉ぢて讃賞し、痺れた悲哀を湧き立たせないやうに輕うじて制え乍ら、彼等は蜥蜴のやうに、快活に、栗鼠のやうに陽氣に、今日も、昂然とらしく人生の十字街を歩いてゐる！ああ。彼等はこんなにまでこの不誠實な都市を愛してゐるのである！生活が都市に於いてのみ生長し得るであらうと思惟した結果である。

事實、近代に於いては、生活とは直ちに都市に於ける生活をのみ意味するらしく見え初めてゐる。奇怪にも、近代の文化は人類の文化である以前に都市の文化であつた。歷史は人類を健やかに生長せしめる以前は都市を無制限に發展せしめた。文化はその唯一の深い根據を都市に置いて、都市のきらびやかな名と豊かな財力とに依つてその生長を速かにし容易にした一切のものゝ否應なしの都市化が當然こゝに行はれた。從つて、人類がその文化を創生すると直ちに、その文化は本來の正鵠なる相を失つて、奇矯なる都市文化となり初め、都市はその日夜に發達伸長する全らゆる科學を以つて文化を育て、ひいては一切のものゝ絶對的なる科學化を提唱し、謬つて全てを物的價値化することに平氣になり初めたのである全らゆる生活相の目標は、今や、殆んど必至的に都市である。都市は今や一切の文化の代辯者であり、一切の社會制度の創生地であるらしくみゆる。全らゆるものは都市に於いてのみ得られ都市に於いて聲高く噂されざる一切は必ず無價値であるらしく思へる。こゝに於いて、一切のものゝ評價は都市に於けるその流行的評價であることを要する。流行は都市の生命であるらしいからである。

何處の誰がボオルを今年度に於いて他のグルウプの誰よりも一個多くうまく打つ飛ばしたか、末流新聞社主催の人氣投票に於いて何某キネマ女優が他の誰よりも一票多くの人氣を得たか、如何なる愚劣な選良と自稱する男が議會に於いて如何なる愚問を發し如何にして他の代議士をなぐつたか、如何なる淺薄な氣障な男が如何なる唾棄すべき愚映畫の監督をしたか、等。これらがその流行なるものゝ正體である。而も、これのら流行の全てはその都市的魅力に依つて單に都市とのみ言はず全らゆる地方に染滲し泥濫し、都市人を馬鹿らしくも狂舞せしめ、地方人を無意義に都市へ走驅せしめる。必要に依る都市の膨脹發展はもとよりよい。惡とは必要以上の貪婪である。現代の都市に於いて、果して、必要以上に雜沓し必要以上に混沌しない都市があり得るであらうか。都市を物的にも美しくし豊かにすることはもとより望ましい。その衞生的設備の發達、生活價値の豊富化等はもとより望まるべきであらう。而も、惡の並外れな魅力に蕩酔して、都市惡を當來の文化であると盲信するのは危い。都市がその名と財力とに依つて學校、圖書館印刷所、工場等を有するはよい。而も、敎師の墮落、藏書の下俗化、出版物の價値低下、所謂資本家と勞働者との品性の下落等は斷じて不可である。現代の都市を愛することが直ちに謬りなくこの人生を愛することであり得るとすれば、現實の相も或はこれで喜ぶべき最上であるかも知れぬ。醫藥、機械工業、鐵道等を拒否した同じ信仰を以つて、マハトマ・ガンデイは現代の都市的生活を勇敢に拒否しつゝある。都市は今や益々惡くなりつ

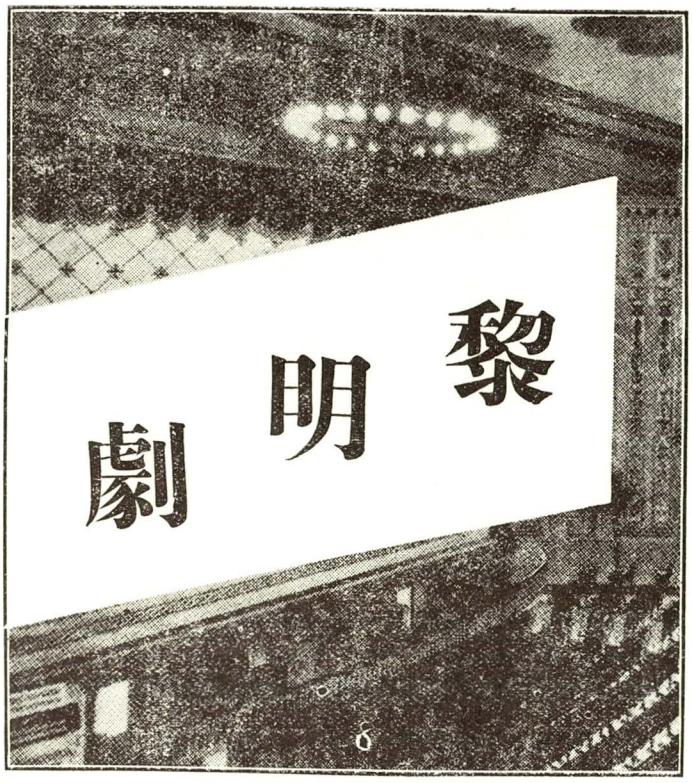
ゝある！

たしかに、現代の都市はその避け得ざる本來の惡を益々激しく益々強く魅力的なものとした以上に、新しき都市の惡を新しく主張し發展させつゝある。惡への激しき飛躍！これが都市のまことの生長力であるか！錯覺混情。でたらめの文化禮讃！

藝術が人性を犧牲にすることの不可はすでにトルストイの極言したところである。都市が生活を痛虐してはならないことはすでに自明の理である。單に近代に於いてのみと言はず、古代のその各自の文化の昂揚を自誇せし都市に於いても、人間的生活がその都市乃至都市文化のために如何に不當なる犧牲を強ゐられしかは、スタントン・コイトも例を古代エヂプト及び古代キリシアの都市にとつて指摘してゐる彼の建築史の巻頭を飾るピラミッドが古代エヂプト文化を誇示する好適なる遺物であることはすでに衆知であるがこは又人類の精神力が如何に物質を支配し又されるかを指示する好實例である。彼に依れば、こはその前に停立する者をして偉大なる古代文化を殆んど茫然として嘆賞せしめつゝも、又當時の社會制度が如何に不完全なりしかを雄辯に暗示するものである。即ち、これらの遺物は一つの偉大なる生活的誤謬の上に建設されたものである。即ち、これらの基礎は不當に強ゐられたる莫大なる犧牲の上に建つものに外ならない。考古學者人類學者等に依れば、これらの大ピラミッドの一つを建立しやうためには、幾十年間の長い息屈な期間を、百萬に餘る哀れむべき奴隷を、事實、長紐を揮つて否應なしに使役したのである。從つて、今やこの全形をば寸斷しやうとする幾多の大鑿隙が見え、その土臺石の哀しき呻吟が聞えつゝある。そこには破壞されたる肉體と無視されたる靈魂とがある。奴隷が背や腕を破られ痛められてその血の切れ出る時感じた血の痛さは、今や、人類すべての痛みとなりつゝある。即ち、ピラミッドの基礎石は血である呻吟である。又古代ギリシアに於いても、その十年間の繁榮は近代に於ける百年の文化に相當するとまで賞揚さるゝその文化が、全て不當なる人命の犧牲の上に基礎づけられたるものであることは事實である。彼のアテネ市の磨かれたる美觀は、同じくその文化には些の關與の權利も有たなかつた幾多の奴隷の汗と血とに依る美觀でしかなかつたのである。ベリクレスはその冷たい都市を熱愛して奴隷の温い血を無視し去つた傳へらるゝところに依れば、かの『不夜城』の住民中自由民は僅か三萬奴隷の數は二十五萬を越したと言はれる。即ち、都市は人類の都市である以前に都市の都市であつたのである。文化は鞭から初まるとの怖るべきアイロニイは實にこゝに初まる。生活がかくも虐げ痛めらるゝところ、こゝには正しき文化の發展はあり得ない。一見救ふべからざる幾多の惡が、かゝる都市に於いて容易く釀成さるべきは當然である。而も、稱さるゝこれらの都市的文化が、かくも過分なる貴き犧牲を當然要求し得る程の高貴な價値を果して有つものであるか否かは、如何に聰明ならざる都市心醉者にも幾分の疑惑の石を投ずるであらう。今や、現代の都市は益々激しくその奴隷を要求しつゝある。その要求するところ犧牲に次ぐに犧牲を以つてし、血に加ふるに血を以つてしつゝある。今にしてこれらの都市惡を拒否しないならば、都市とその文化とは、必ず遠からぬ將來に於いて自滅の外はないであらう。

私といへども、都市が全部の惡、都市の文化が一切の美ならざるものであると極言しやうとは希つてゐない。都市に依つて世界に加へられたる美都市に依つて生長し得べき善をも期待しないと言ふのではない。都市の効果は或は私達がそれを考慮する以上に高貴であつたかも知れぬ。都市は人類に光輝あらしめ、生活を豊富にしたであらう。利便のよさは都市に於いては日夜に增進されつゝある。世界の全らゆる富の發見も日夜に都合よく都市に於いて計畫され實行されつゝあるよき建築が建ち並び、よき都市計畫のなさるゝは勿論喜びである。都市そのものゝ拒否は暴論である。都市生活が將來への人類の必至の狀態であるべきは疑問の餘地はない。都市の發展は今や決して阻止すべからざるものである。而も、この必至の發展が人類の全てをして態よき主我狂者變質病者たらんことを助成する以上の何物でもないならば、この發展は斷じて不可である。都市の惡は都市をその建つべからざる基礎の上に謬り立てたこと、及びその發展をして偏に社會惡の發展とその軌を一つにせしめて益々その望むべからざる犧牲を强要しつゝあることに存する。人間性の本來の美と純眞とを謬れる制度の下に虐げ屈せしめ望むべからざる物的刺戟をのみ求めて眞の敎養と趣味とを下落せしめ、不當なる勞役不當なる重荷をしてその生活を威壓せしめ卒直に生長し伸展し得べき生活力を慘らしくも枯餓せしめ或は斃死せしめつゝあることにある。言ふまでもなく都市は單に騷がしい市場であり工場でのみある筈がなく、又淫蕩と卑俗との度外れな享樂場でもない筈である。相手から强奪し弱き同朋を暗らき坑の底に落し入れて自らをのみ不當に高うすべき修羅の巷でもない筈である。或は單に物質のみに依つて豊富に裝はれたる文化の殘骸の集團でもなく、外面の華美奇矯を競ふ建築場の單なる集群でもある筈がない。都市は人類のものである。都市のよさは人間性のよさであることを要する！先づ求められるべきは、その生活意欲のよさである。從つて都市の發展はその都市自然の健やかなる發展に待つべきであつて、そのために幾多の貴重なる犧牲を要望さるべき種類の不自然さを以つて、輕卒にも歪んで發展させらるべきものではない。失ふべからざるものを愚かしく失つてまで、その末世的なる發展を企畫すべきものではない和やかな協調に依る發展はもとより望ましい。鞭に依る發展は斷じて不可である他人の不幸の上に築かれたる幸福は眞の祝福すべき幸福ではあり得ぬ。都市の發展が一部の專橫者にのみ委ねられてならないのは即ち自明の理である。都市は全市民のものである。正しさは全市民のためのものである。生活は全市民のものである。生活が正しくあらねばならぬと等しく都市の一切もあくまで正しくあることを要する。歪みと惡とは勇敢に拒否していゝ都市の輝きは生活の輝きであることを要する市民の墮落は都市の墮落である。都市文化の下落は人類の下落である。正しき生活と正しき意慾とを先づ建てよ鞭に依つて建てし都市は鞭に依つて覆される。正しきに依つてこそ、當來の都市は建立さるべきである。

× × ×



黎明劇を見た、

池田谷久吉

斯の一編を番匠谷英一兄に捧ぐ。

劇といふ事に對して全く立場の異つた者が見たまゝを書き綴ねて見ることにした、こうしたものが將來君が戯曲を創作するときに何かの參考になれば何よりの幸福と思ふ。

舞臺裝置の必要は劇の上演に際してその補助機關として必要であり劇の效果を增加することによつて意義が生じ價値が認め得るものと信ずる。

故に舞臺裝置によつて其の反對な結果が生れたとすればこれは排斥せなければならぬ問題ではあるまいか。

ところが現今あちこちの劇場を覗いて見るに多くは舞臺裝置の爲めに戯曲の價値を失し俳優の演出を妨害する樣なもの多いことは研究すべき重大問題であり看過すべからざる事である。

寧ろ無駄なものは除いた方が遙かに優越してゐるといふ位のものが多い。

舞臺裝置家なるものは演劇そのものを理解し俳優の演出上に精通しなければならぬものである。

私は最近浪花座で見た黎明に就て少しばかり愚見を書いて見たいと思ふ。

黎明劇は極めて單調なリヅムのものであるがそこには純眞な統一のあることを充分に認め得られる、然してその表現せんとする骨子は母性愛の眞實の高潮であると思はれる。

故に舞臺裝置に於ても劇全體を通じた氣分を直覺せしむるに足るものであつてほしい。

三幕を通じて同一の舞臺面を使つてゐるためにそこには普通に見るところの芝居氣のない平凡な舞臺である、そこに於いて劇の內容を表現することはよほど至難な事である。

普通一般の場合に於ては俗に目先の變つたことが觀客に喜ばれるものであつてこれが芝居のヤマなのである、が黎明に於ては少しのヤマもなければまた科も乏しい點に於て一つの氣分劇であるといつ

てもよい。

それだけに地味であり隠氣である。

こうした劇は浪花座あたりの様な大劇場よりはむしろ、小劇場向のものであると思ふ。

假令へば三階の隅あたりからは少しも科白も聞へずまた俳優の科が殆んど座つたまゝで對話的なものであるために實に變化に乏しい。

豫めこの筋を知るものにはその氣持で見るためにやゝ理解出來るが然らざる場合はこの上演は失敗のものである。

次に舞臺裝置を見るにあの建物では決して禪寺の様な氣持が現はれてゐない、卽ち柱は細々として丁度近頃流行のメリケン松の貸家の様である、殊に木の香の新らしさが現はれてゐて少しも落付のないガサ〳〵したものである、今少し沈靜なものにあつてほしい。

軒の出の淺いことも或は三階邊から見るときの關係もあるかも知れないがまるで都市計畫線にかゝつた軒切を彷彿させる、廻り緣の床高の低いことも町家の様である、また摺桝にしたことも寺としては不似合でありむしろ切目桝にした方が至當のものである、桝側の幅も少し狹い感がする。

しかしあれだけの廣い座敷でありながら床の間を座敷の中央に造り附けたことを極めて不自然であり無意味な事と思はれる、その隣りの火燈窓も餘り禪寺の表現に捉はれて却つてその眞を失ひ虛僞に陷つてゐる、實際にはかくの如きものは不用のものであり、いかにも態とらしい厭味を感せられる。

いかに火燈窓を拵へなくとも上手の袖に大きな切妻屋根の中央の窓が充分に寺としての表象であつてこれは生々と働いてゐる。

それから下手の廊下の奥の突き當りはすぐに表道路に接する様な感じがしていけない。

下手の生垣と道とを隔てた寺らしい建物との間はもう少し廣かるべき筈のものがせゝこましくてこれもどうにかせなければならぬ。

總じてお粗末な舞臺であることは一つには金をかけてゐないことも原因の大なるものである。

然し金をかけたからいゝものとは限らないしまたあのまゝではいくら金をかけても駄目な事だと思はれる。

座敷と次の部屋との間仕切の襖模様なども今少し考へてほしい、あれは出來合せの仕入品を持つて來た様な氣がする、些細なことはともかく大體のコンポジションは纏つてゐる。

照明（ライチング）は總じて明るすぎると思ふ。

これは日本の劇場であることゝ、歌舞伎から來る先入感の生らしむるところであるがこうした其居の場合はプロセニアムを限つてステーヂと客席とを明かに區別した方が遙かに大なる効果を收め得るものと信ずる。

第四場が一等よく出てゐると思ふがあとは何にも頭に殘つてゐない。

俳優の配役に就ては當事者は隨分苦心した事と思はれる、

日本の俳優では先づ勘彌を外に他にあるまい、勘彌の秀夫はまあ成功である。

尤もこの舞臺に出る人物は凡て眞面目な善人のみであるが殊に父とのいさかひや小島との火鉢を挾んでの物語りや、ときに對する心持が充分に現はれてゐる。

喜多村の母はあの優の藝には配り役だが少し腹で仕事を仕すぎたために客席の平場の前の人を除いては丸で冷たいものになつてゐる。

きつい父を持つ兒供を持つ母としての情愛は些か欠けてゐる、然し行き屆いた母として全舞臺に現はれてゐる。

水谷の禮子は戀をしてゐる女としての美しさがあるが娘としての戀に對する心持が馴れ〳〵しすぎる。

誰かゞいつた樣に松井須磨子の惡い型に似かけて來たことは一寸目につく、もう少し自然に演出した方がよいだろう。

然しこの優も周到な優にしてこのまゝ努力すれば須磨子以上になり得る能才（パーレット）を持つてゐると思ふ。

介十郎の父は言葉が鼻にかゝつてゐるせいもあるがこの芝居の破調者である、餘り酷評かも知れないが少しキザなどころが惜しい。

英のときは先づ無難である。

私は第一場の幕切に子守歌を歌はせるあたりはいやにセンチメンタリックなものにしてあゝした技巧はやり方にもよるかも知れないがあのまゝでは新派悲劇的な卑俗な感情をのみそゝらせて大きなものを失つてゐると思ふ。除く必要もないが工夫があつてほしい。

守藏の山水堂は商人らしい表情に欠けてゐるが大した欠點もない樣である。

妄評多謝

（一九二五、三、一八）

最近大火による
火保社の損害額
百七十萬圓程度と發表

日暮里、大井、雜司ヶ谷の大火は火保社にとり、大震火災以來の大損害であつた、試みに二十日正午より協會に集まり

△各社が相互に發表した損害額を示せば左表の通りである（單位百圓）

社名	日暮里	大井	雜司ヶ谷
日本火災	四、五	四四、五	六、五
日本海上	四六、二	五、〇	—
豐國火災	三六、六	—	—
東邦火災	一五、七	一、五	—
東洋海上	一〇、三	一、五	—
東京火災	三、九	七、〇	—
東京海上	八、〇	五、〇	—
東神火災	四九、七	—	—
千代田	一四、〇	三、〇	四、〇
中央火災	五、〇	五、〇	一、〇
大阪海上	一〇四、三	四、〇	—
橫濱火災	一〇、〇	三〇、〇	四、〇
第一火災	三〇、五	—	—
太平火災	二一、九	—	六、四
太平洋	一五、五	—	—
	七、〇	—	三、〇
大福海上	五一、五	—	—
大正海上	一四、〇	二、〇	—
福壽火災	五四、五	—	—
富國火災	二、〇	—	—
神戶海上	二一、五	三〇、五	—
帝國火災	五八、七	九、〇	二、〇
朝日海上	三〇、五	三〇、五	—
共同火災	一四、〇	—	—
明治火災	一三二、五	五九、〇	—
三菱海上	五〇、〇	八、〇	二二、〇
新日本	五〇、〇	—	二、〇
京都火災	一〇、五	五	—
中外海上	一、五	—	三、〇
扶桑海上	三、七	—	—
大北火災	二、五	—	—
合計	一、〇四、八	三二、五	五九、三

これによれば損害を受けてゐない會社は一社もなく、明治大阪海上の如きは十萬圓を突破してゐる、しかし各社とも

△營業政策の上から損害額を過少に發表してゐるらしく思はれる、一般の豫想では二百五十萬圓には上るべしと見られてゐるのに、發表された總額は協會側全部で百三十萬圓程度にすぎず、これに動產會社（三社）の損害總計三十萬圓、協會外の會社（二社）損害額六萬圓を加ふるも百七十萬圓程度である、これだけならば火保社の損害は案外に少かつたといはねばならぬ。

希臘時代の彫刻概論

（4）

古　塚　正　治

既記
□緒論
□第一期時代（起源）（第一頁―第二頁）



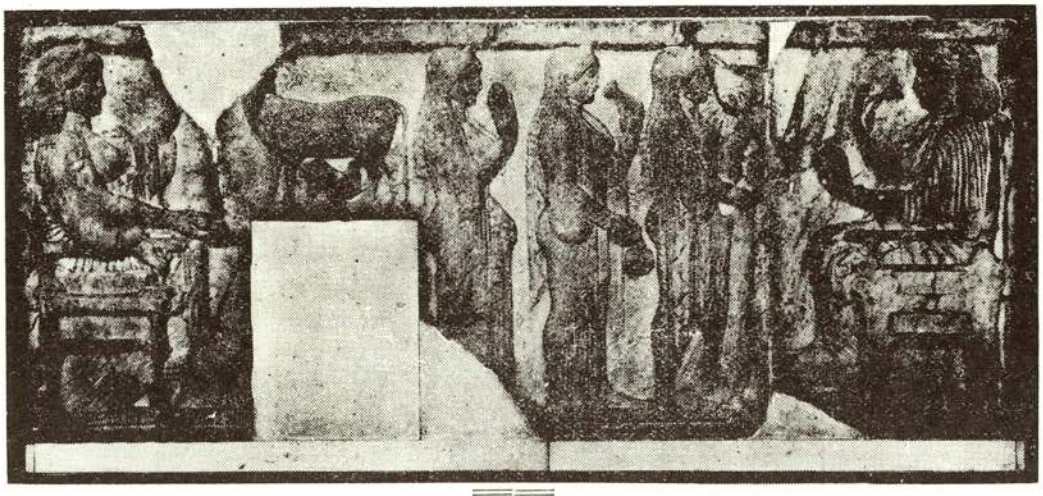
ヨライアテネの女像

既記
□第二期時代――（自紀元約七世紀至約七世紀中頃）
□第三期時代（黎明期）――（自紀元前百五十年至同四百六十年）

ペロポネーズに居住したドリヤン民族の藝術の上にも、アチック藝術に於けると同樣に瑞々の播種が芽生へて來た。壯丁に振武の氣が漲り、敎練は活氣を以て充滿し、その身體その腕は日毎に強められて行つた、恁うした社會思潮から影響を蒙けて破風裝飾彫刻のこれまで屈膝してゐた線の上に、緊張と、活氣とに橫溢した強い描法に變らしめた。當時の遺蹟として多くの英傑の士の墓碑として刻まれたものゝ內には、驚く可き科學的描法の跡を認むることが出來る。肉體美の表現は剛直な姿勢と幾分粗暴な傾とを持つた筋肉と骨格とを正直に表徵して、着衣等には些して考量を拂はないと云つた趣きがある。確に科學的な解剖法によつて眞の肉體美の表徵へ進んでゐるのが了る

華麗を生命とするイオニヤ民族の藝術は、剛直と、幾分粗暴に片寄つたドリヤン藝術の弊を緩和するには充分な準備が備へられた。間もなく孱瑟相和するの觀を呈して相混線の手法を現出したるものである。

英京ブリチッシュ博物館に藏するリーシーのクザントースの紀念碑は斯の期の代表的遺蹟である。



第八圖　リーシーのクザントスの紀念碑、西側面の分

それは土饅頭形の墳墓の上に建てられた四角な墓碑の四圍に故人の事蹟を刻んだものである。その一面は第八圖に示した如うな小娘の幾人かゞ、尊敬すべき死後の葬ひに立つてゐるところである、彼女等は香ばしい匂ひの花を捧げながら亡き人の靈に捧げてゐるところである。その花の馥郁たる香ばせが彼女をも嬉ばせてゐる。ア、！此等の婦女の相貌の上に表徵せられた氣品また腰うち掛けた女神の尊嚴さ！斯の彫刻の上に注がれた手法の精練が此時以降の多くの希臘藝術家の觀照を通じて夫等の人達の試みの上に掬みとられて神技的な完成の境へ近づいて行つたものであつた。その尊嚴なる姿の椅子に倚り懸れる重々しい氣分、その輪廓に云ひ知れない含蓄を持たせてゐる。その技工が如何にも精細に、しかも深刻味に富んでゐるではないだろうか。そこには尙物足りないと云はる可き批難の弱點は持つてゐよう、それは未成品の時代であるから、而してそれが過渡期のものゝ尊ばれる由緣であり、價値に他ならない即ち彼れは希臘彫刻の理想境へ解脫せられる黎明の曙光であつたろう。——彼れは其下に着せる美裝の上になせる一時の

假裝であつた譯である。その下に輕捷な
る嬌姿と、熱と力との總てを被ひ隱して
醇眞善美の階調を組立てゝゐる最中であ
つた。

これと丁度同じ時代のものにアルバニ
ーの墓碑と云ふのが上げられる。

（第九圖參照）

それは一人の母が從者を伴つて死せる
其子に別離の悲しみを與ふる紀念の爲め
の墓碑である。若い母人の嬌姿の上に、
その衣が掩ひ落ちてゐる樣に云ひ知れな
い母の慈愛が籠つて見へる。その面持ち
のうちに展序せられた母愛の嫻なやかさ
が嬉しい。畫面全體からうけ入れられる
醇眞さは何と云ふあでやかさでは無い？
まだ、そこにはわざとらしい人爲的なと
ころがあろう。顏の描寫のうちにも眼と
顏全體との均衡に不備な點が見出されよ
う。その着衣の上にも、より以上をなし
得る程度に止められてゐる。

尙、これと略々同期のものにミレのブ
ランチドと云ふのもある。

之れを要するに、此時代の特徵を概說
すれば、即ち、此時代から表徵の技工上
に他人の模倣し得ざる個性の表徵が藝術
上に顯著となつて來た事である、アルバ
ニーの墓碑は此點から考へて、恐らく其
島が生んだ特異な藝術品であつたゞろう
と考へられる。確に剛軟兩樣の間に生れ
た作品であつたと云ふ譯である。蓋し、
イオニエン樣式の優れた美點によつて、
希臘彫刻藝術が補育せられて其理想境を



第九圖　アルバニーの墓碑

形造るに何んなに大きな力となつたかゞ
想像し得られる。

次に、デルヒに於けるクニヂイアン族
の寶庫、當時の希臘に建築せられた大神
殿の神域に、市民によつて建設せられた
小神殿であつたとも云はれる。——の軒

蛇腹と、アクロポールの古代の土堤から
發掘せられたるコーライ像と稱せられる
若い婦人像とは、亦、最も顯著にして主
要なる二樣式を物語る資料となつてゐる

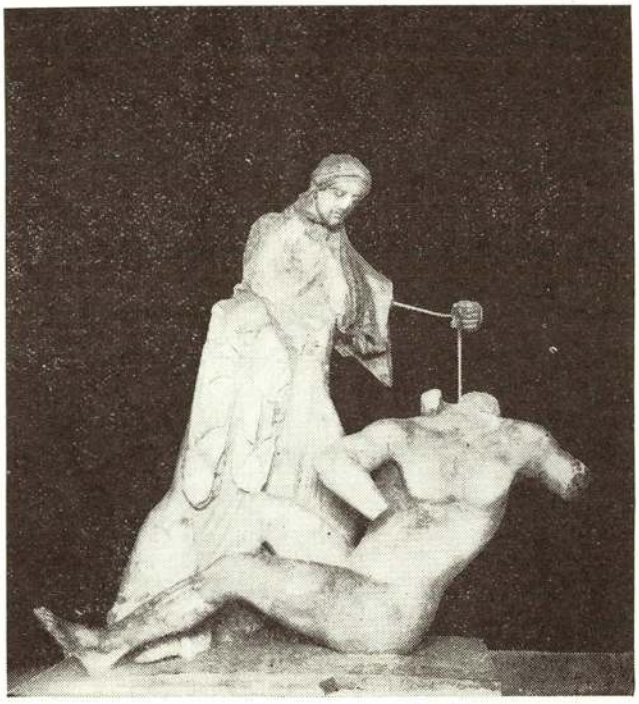
前者は其フリーズの全體に於て、なほ
幾分の幼稚な趣きのあるのは、當時のイ
オニアン樣彫刻に於ては寧しろ當然な結果であつたと云はれよう。

この彫刻が希臘古代彫刻の研究上に非常な有益なる資料であるのは勿論であるが、其多くの破片を合すれば實に二十六米突を下らない大遺蹟である點に於て他に類例の稀有なるものである。題材を希臘神話に求めたるものにして巨人と衆人との戰爭。シイベールにヘテクレス神が從つて巨人の傍に獅子の繫がれたる車に乘る所等の插話が彫まれてゐる。

斯の彫刻を通觀して見る時、その手法の甘味と云つた點が未だ想像も及ばなかつた觀照の正確さ。所作と姿勢との整頓

さ加減。馬車に乘り移ろうとする姿態のシイベール神の戰慄の樣子。其獅子が跳躍せんとするが如く、又喰ひ裂かんとするが如き、其眼光は燃えて火の如くに或は鬣は逆立つてゐると云ふ工合にその何れもが緊張そのものゝ結晶に他ならない。殊に注視すべき點は斯等の彫刻の全體が何れも其個々の破片の上に表象せられた事が何れも鬪爭と關連した事蹟であるとである。それが彼等民族の社會生活と思潮と考想との相累積したる縮圖である事が貴い資料である由緣である。そして其便化上に驚く可き進化の蹟が發見せられよう。或は此彫刻の如きはイオニャン民族の手になされた物では無かつたかも知れない。けれ共、其構圖上の人物が何れも肥滿せる肉付きと、其全體の上から見て、彼等民族の藝術と見るのが至當であろうと考へる。たゞし之は彩色せられてゐた物であつたと云ふことである。(第十圖參照)=(編輯者よりお斷り、此の圖は製版が間に合ひませんなんだから次回に揭げます。)

コライアテネの女像(編頭の插圖參照)もまた極めて精巧なる裝飾彫刻である。これはパルテノン殿室に先んじて建築せられたる舊アテナの神殿に非常に多數に飾られた繪馬の頭の一つであつたろうと云ふ事である。それは彼斯人の造つたものだと考へられてゐる。丁度紀元前四百八十年の頃に恐らく彼斯人でアクロポールの藝術家であつたものが、希臘の地から退くに際して、その殘品を地に捨てゝ行つたものゝ一つであつたらしい。それが西曆千八百八十年にシモンの土壘中から發掘せられたのが即ち此の像であつたのであつた。



第十圖 ヘカトンペトンの圖

圖に見る如うに、此の女像はアテナ女神の相貌を供へてゐない、また贈りもの丶肖像でゞもあるとも考へ得られまい、

それは、唯だの『美しい女像』として信仰の證しに神前に供へた繪馬の類としか考へられ得ない、そして斯種の像の總てがこれと全く同じ姿態であり、總てが同じ所作身振りをもつてゐることである。膝の上まで密着してゐる襞の浮き出た着物を着けぎれも皆同じ着衣と同じ胴着が不思議と繰り返へされてゐる。夫れ等の放逸なるマントー全體に纖細な感であり學者風な髮結ひ、兩眼の緊束して釣り上り氣味な工合と頰骨が突出してゐて微笑を含んだ樣子から云つて、恐らく極東亞細亞系民族の相貌を彷彿せしめるものであると云はれてゐる。即ち彼女は多島海の島岐から來た彫刻家等が亞典市民の歡喜を拍せんが爲めに造りたるものにして彼等特有の藝術味を有したる彫刻であつたと考へるのが至當であるらしい。

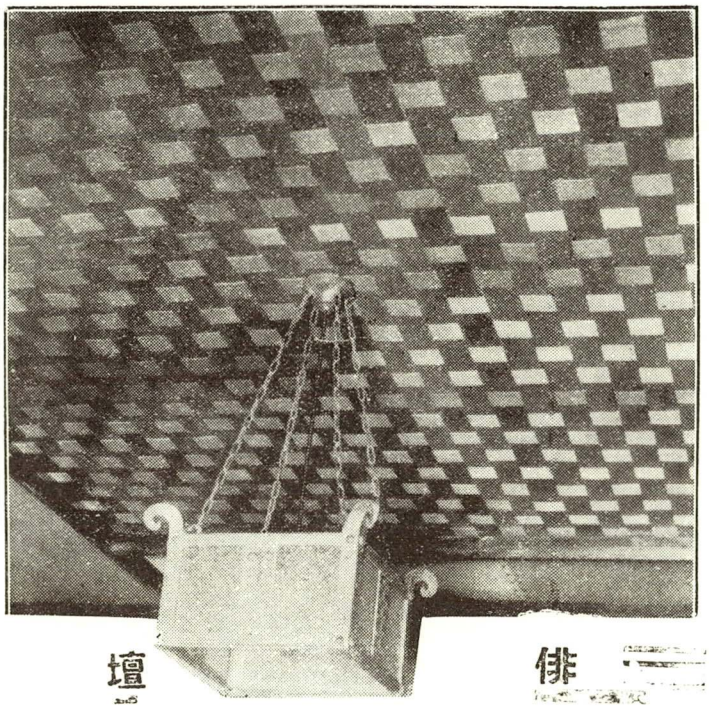
蓋しイオニヤ民族の文化と藝術は亞細亞系とアチック系藝術とに有した特異點の相混様したるものであつた。卽ちアチック藝術が其單純な文化から新來の美しい藝術に影響を蒙けて間もなく新裝して行つたものであつた、彼女は實に斯うした二つの文化の相混じて生れた藝術の結晶である。彼女の上には相異れる二つの長所を掬んで一新境域に轉化したる結晶に他ならぬ。けれ共自己の有するオリジナリチーの總てを捨てゝ新來の藝術の眞底を探究するところもなく、その矯飾の癖に心醉すると云ふことは今日も同樣に危險極る結果を招來したに違ひない。幸ひにしてアチックの民族には斯うした矛盾は踏まれなかつた自家傳承の觀照眼をくらます迄には新藝術の浸潤するところとはならなかつた。けれ共、これを動機として、アチック藝術の轉機を釀成したのは見逃すべからざる事實である。またそれと同時にイオニヤ民族の藝術にも革命を引き起して、純然たるイオニヤ民族の特異性は失はれた。そして兩者相混係して彼等兩民族の融合しきつた絢爛たる藝術の現出すべき時期が綴り合せる事となる。

彼のアテナの舊神殿の破風には時の希臘統領の實施したるヘーカトン、ペードン（第十二圖）の見るからに絶世の美女神アテナが、鎗を把持せる一人の巨人を地上に壓伏し、女神はその劍に倚り懸つてゐる。この彫刻を中心として裝飾せられた殿堂は破壞せられて今はこれを知るには困難である僅かに此破壞せられた彫像に止めた幻影によつて此偉大なる遺蹟をなした藝術家の力と努力の結晶の一部をうかゞひ得られるに過ぎない。

小亞細亞のイオニー島は勿論のこと、彼等イオニヤン民族の居住したサモス、エフエシス。チオ島の島岐に於ても宛も此時期を一轉換期として大成の域に移る可き總ての準備が整へられた。

過渡期としての彼等のとつた經驗と試作とは、眞善美の表象の爲めの深刻なる創造の努力となつて時代は次へ進行を續けた。彼等の辿つた道程の錯誤は贖て認識せられて正しい道へ入る事となつた。亞典博物館に藏するオイシイヂイユスの繪馬と稱せられる若い婦女の像は此種の最も秀逸なる作品の一つである。其他ルーブル博物館にはタソスのニンヒエスの薄肉刻。ファルザルの二人の若い娘の墓碑、亞典博物館のナクソスのアレーノルの墓碑の如きも何れも此時代の代表的著名なる遺蹟である。

名を去る者は憂ひなし



溪舟選

句を募る

◇課題　櫻（春季雜詠各五句まで各題別紙に認むる）

◇期日　四月十五日

◇宛先　北區堂島濱堂ビル三階日本建築協會

野遊、蹈青

野遊やゝ暮れがての山かつら　香坡
蹈青や山遠くみて水入江　不崩
野遊や曳店ならぶ堤の下　山々生
野遊の戻るや街は灯したり　多賀子
山の裾の建廣告や野に遊ぶ　かつら
青き蹈む人眺めけり窓にゐて　
蹈青や病む人はのるうば車　
青き蹈んで嬉渡しにいたりけり　
鳶は輪を大きくかくや野に遊ぶ　
莊園の芝は日午や野に遊ぶ　

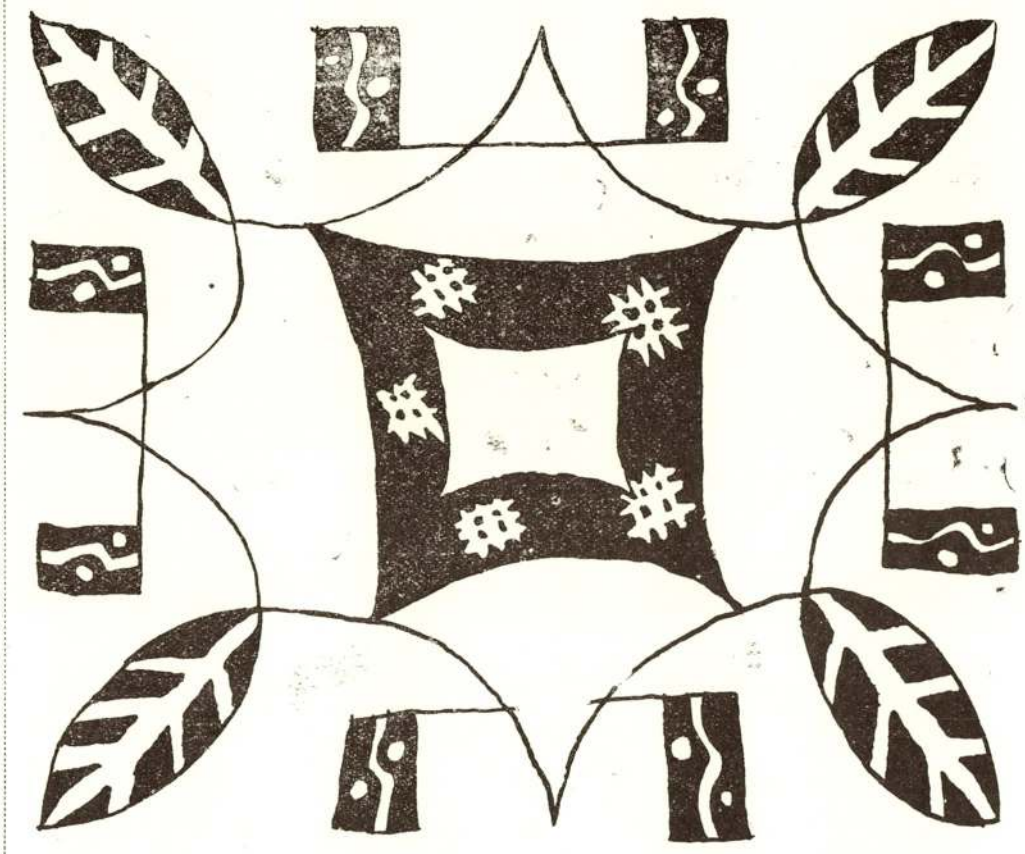
土手にきて辨當ひらきぬ野に遊ぶ　鬼居
濱に一ト丘の晴や青き蹈む　井華
野遊びの野寺にくれば松淋し　萬翠
野遊びの歸り渡しを渡りけり　
芽櫻の堤長しや青き蹈む　子房
松を出て一路ありけり青き蹈む　
野遊や龍田を過ぎて法隆寺　央水
野遊やそしる寺の壁樂むそ　
青き蹈んでさる二人や子丘の徑　案山子
蹈青の憩ひてゐるや寺銀杏　
人の眼に野川の魚や青き蹈む　
野遊のついで詣りぬ鐘供養　
塀添ひの路や門野の青き蹈む　暮村

蹈青や堤つゞきに隣村　まちえ
春寒、餘寒、冴返る
枝にわたす竿の片落ち春寒し　案山子
春寒き朝の火掻きや大竈　
霜ごけの藪負ふ家や春寒し　僧佐
春寒し杉山ゆりて杉畠　
崖土の鍬に脆きや春寒き　柳白
砂地がちの菜畑道や春寒し　友好園
枯芝に春寒き日や臥牛石　黒舟
松すけて白壁みかる春寒し　雪鳥
冴返風垣の山の枯葉かな　
堤つきて草子低し春寒き　不崩
山裾の果樹園や塀の餘寒なる　井人
雪折れてのこる尾花や春寒し　らん子
岸の竹空ろ川の石冴返る　
庭に引く水や餘寒の垣内なる　
春寒し松の中なるはすれ沼　
春寒し莚圍ひの大蘇鐵　
藏の屋根の落葉掃きゐて餘寒哉　蟠太
銀杏落葉日向吹かるゝ春寒し　かをる
壁に乾す繩つり烏賊や春寒き　紫公
枯れ苔に餘り日や庭冴へる　まちえ
馬市の幟はためきて春寒し　
寺園爐裏餘寒の菜粥煎ゆる也　一亭

日ぼてりの足にぬくさや青き蹈む　溪舟
裸木に堵晴るゝ日や野に遊ぶ　
粥すゝんで消すや餘寒の朝灯し　

前號訂正句

春の雨一燈青き書樓かな　香坡
何時か垣に鳥來てゐるや春の雨　なつ子
繪馬堂の繪馬見て廻る暖かき　白水
暖かく廣ごる陽やな湖光る　湍々
スリッパに歩く芝やな暖かき　葎瓦
崖崩れの土肌に日や暖かき　史水
籾溜に雨暖かし茗荷の芽　溪舟



春の夜の話二題

春日野住人

「挿話のついた寫眞」

夜。神戸新開地のある寫眞館の前。

——にこんなのが可愛いゝぢやないの。

——その小さいので結構だよ。

——一人で凝乎としてゐるかしら。

——お母あちやんに抱つこしてもらつて寫せばいゝぢやないか。

久しぶりに、靜かで暗らい郊外から街の雜沓と灯との中へ出て來たので、いつになく昂奮していくらか燥やいで美しくなつた妻と、先刻から子供を抱つこして歩いてゐたので腕がだるくなつてゐる彼とが、丁度今日で滿二才になつた一人子の蓉子を中にして、少時を躊つて顏を見合はせてゐた。

蓉子の誕生日に又去年のやうに寫眞を撮らうといふこと

は、二人で久しぶりに明るい街を散歩しやうといふことを意味してゐたので、十日ばかりも前から、二人にはそれとなく待たれてゐたのであつた。一年前の今日此頃のこと、二年前の春の夜のこと、それから二人がまだ約婚のまゝでゐた日夜の他の、誰彼にはちつとも面白くなくてこの二人にだけ酷く樂しく思へた幾つかの憶ひ出が、この約束された唯一枚の寫眞に依つて容易く二人を樂しませてゐたのである。で、二人は夕食前から今日は街へ出て來た。蓉子には妻が二三日を一生懸命に編んだ新しいセエタアが着せられてゐた。二人は或るストランで夕餐の卓子を圍んだ。互に勸めあつて唇にしたカルピスや、卓子の上のグラスに挿された室咲きの早い葉の花などが、二人を春らしい和やかな昂奮と感傷との中へ追ひやつた。それに、風は未だ少しは冷たくはあつたが、久しぶりに二人で歩く街の雜沓の中には、二人にはそれとなく感じられる春が搖れてゐた。で、その明るい氣輕るな雜沓の中を二人はお饒舌りしたり微笑したりし乍らあちこち歩いた後、蓉子が眠つてしまはないうちにと氣づいて、この明るい電灯の下に立ち止つたのである。

（お寫しの方はどうぞご遠慮なく下駄ばきのまゝ二階へお上り下さい。）

ふと妻へ向いて點頭いて見せて、彼はさきに立つて狹い階段をさつさとあがつた。五六足のスリッパと大きな姿見と青い垂布とがそこにあるだけであつた。明るい電灯が派手に下つてゐた。垂布の陰から若い男が聲をかけた。その垂布の後方が狹い簡單な撮影室になつてゐた。

彼はその男に近づいて微聲で寫眞の大きさを告げだ。男は慣れた簡單な世辭をし乍ら、何の感激もない風に、今まで暗らかつたその部室に電灯を點けたりカメラを覗いたりした。その短い一寸したひまに、妻はすでに姿見の前に伸びて、自分の髪の恰好を直したり、彼女の癖で濡らせた指先で眉を撫でつけたりしてゐた。

——はいどうぞ。——と男は言つた。——お嬢ちやんはお抱きになりますな。

——一寸お待ちよ。——と彼は動かうとする妻をおし止どめて、子供の帽子を直して、目もとまで垂れ下つた髪を指先きでらんぼうに分けた。

——そんなに帽子を歪めちや。——と妻が微笑んだ。

簡單な撮影がすむと、彼は妻の手から蓉子を受けとつて、も一枚寫してもらひますからと聲をかけて、同じやうに子供を抱いてカメラの前に立つた。

——明日の晩、丁度今頃には必ずお渡し致します。——と男は言つた。

二人は金を拂つて外へ出た。

街路には益々人のゆきゝが激しくなつてゐた。

——蓉子が動いて又去年のやうに變に寫つてはしないかしら。

——少々動いてぼやけてゐる方が子供らしく可愛いゝね。それから、二人は寫眞がうまく寫つてればいゝと話したり子供のある方が樂しいかない方がいゝかと話したり、蓉子がすでにものを曳つぱつて遊ぶ時期に來てゐるからと言ふので、木製の赤い自動車の玩具を買つたり、春になつたからと言つて妻の半

襟を買つたり、それから、又饒舌つたり微笑つたりして、もう眠つてしまつて重くなつた蓉子を代り番に抱き乍ら、終列車の出る直ぐ前まで街を歩いてゐた。

その翌日の夜。神戸から大阪への汽車の中。彼は片足をスチイムにあげて心持ち窓の方に寄りかゝり乍ら、暗らくはあつたがわりに混んではゐない車中に安心して、さて、とんびのポケットから巻煙草のやうに細く巻かれた紙片をとり出して注意深くそれを擴げ判めた。

昨夜の寫眞は、勿論、今朝から二人には氣にかゝつてゐた で、彼は夕食後一人で丁度約束の時間に昨夜の寫眞館の前に立つた。そして、まだ充分乾いてゐませんからと火鉢であぶつてゐるらしい數分間を待たされたうえ、二葉の小さい寫眞を急いで受けとつて來たのである。

勿論、彼は寫眞館を出ると直ぐ、歩き乍ら、街の灯でそれを素早くあらためたのではあるが、思つたよりも正直に寫つてゐるらしいので、込みあげてくる可笑さに、慌てゝもとの通りに巻きつけて、ポケットへ右手と一緒に突つ込んだのである。

寫眞は四枚續きが七十錢といふ安物の電氣寫眞だつたので勿論、臺紙には貼りつけてはなく、四枚續きのを二枚重ねてフィルムのやうに細く巻いたうえ、オブラアトのやうな薄つぺらな紙で包んであつた。

妻が抱いて寫した方は、彼女が少々若く寫り過ぎたと言ふ外大して惡くはなく、蓉子も去年のよりは數等可愛いく寫つてゐた。彼の頬には微かな笑ひが自ら來た。もう一枚の方、彼が自分の髪を掻きつけるでもなく突差に寫した方は、蓉子は同じやうに可愛いく寫つてゐたにしても、彼自身の寫りは何と言つても上等ではなかつた。髪が自分の頭のではないやうに變に亂れてゐたし、別にそんな氣持ちがあつたのではないのに妙に氣どつた安つぽい男に寫つてゐた。顎が確に本物よりは尖つてゐたし、眼鏡が妙な具合に白つぽく光つてゐた彼の頬には苦笑ともつかず微苦笑ともつかない笑ひが動いて來た。(安物だからなあ)といふ輕い自嘲が頭に來た。(それにしても蓉子はどちらも可愛いく寫つてゐるな。)と彼は二枚を厭かずに見比べたうえ、滿足らしく微笑んだ。そして、女分樂しんだうえ、彼はそれを今度は無雜作にポケットへしまひこんだ。

——お見せなさい。——と不意に前の席にゐた男が彼の方へ手を出した。

彼は少々驚いたが、妻と蓉子との方を默つてその男に渡した。男はそれを一寸見ると直ぐ左手にもち代えて、再び右手を差し出した。

——お見せなさい。も一つ。

彼は男のこの露骨な無遠慮さに微かな反感を覺えた。此奴酔つてるんぢやないか。)などいふ氣持ちになつた。見ると、その席の横には脫いだソフトを置いてゐて、頭は丸刈りのやうでもあるが、短い髪を貯へた四十恰好の一寸はものでも話せさうな男である。別段酔つてゐるらしい樣子もなくふざけてゐるのでもないらしい。『此奴少々どうかしてゐるな。)と彼は男の顔を默つて瞶めた。

——お見せなさい。も一つい丶のを。——と男は再び手を伸ばした。腕には黒い毛があつた。

彼は默つて冷たく微笑んだ。

——お見せなさい。さあ、どうです。——男は笑ひもしなかつた。

——いやです。——と彼は突差の氣持ちから冷たく應じた男の亂暴な失敬な口吻に少々腹が立つて來てゐた。

——まあ、お見せなさい。い丶ぢやありませんか。そつちのい丶のをお見せなさい。

——いやです。それと同じやうなのです。

——まあ、い丶でせう。そつちのい丶のをお出しなさい。

——いやです。こんなものを見せたくはありません。それと同じやうな寫眞です。あなたに見せる程のものぢやありません。

わからな人だな。い丶ぢやありませんか。どうもしやしません。

——あなたこそわからない人でせう。私がいやだと言つたら、そのうえ強ゐて見たがる要はありますまい。昨夜神戸で寫して來た寫眞で、未だ誰にも見せてをりません。どうもあなたに見せる氣がしません。

彼は自分が相手の要求を冷たく拒むことに一種の愉快を感じ初めてゐた。未だこれを見たがつて自家で待つてゐる妻に見せないものを、どうしてこんな失敬な男に見せるものかとの輕い憤りと見せてしまつた後で、これはあなたですな、この膝の子供はあなたのですか、引いては、こつちはあなたの奥樣ですな、お若いのに子供さんがあるんですな、何故三人で一緒に寫さんのです、へ丶、子供さんはお幾つですか、三つですつて、うゝむ、……などと、この見ず知らずの變な男に色んなことを言はれるのがいやだと言ふ嫌惡の情もあつたし、自分の顏が妙に安つぽく寫つてゐるのをこの不遠慮な男にじろじろ眺められたり探ぐられたりしては堪らないといふ羞恥もあつた。で、彼はこの寫眞が何等特別のものでもなく子供の誕生日の心ばかりの紀念に昨夜寫して來たものだと言つてしまへばい丶だらうとは氣がついてはゐたが、そんなことを今更ら言ふのも嫌やでもあつたし、面倒でもあつた。

二人は少時を同じやうなことを言つて尙も慾かしくあらそつた。

——まあ、い丶ぢやありませんか。まあ、私にもお見せなさい。——と男は相變らず執拗であつた。——私をそんなに嫌つたものでもありませんよ。

——いやと言つたらいやなんです。——と彼も動かなかつた。——強ゐられるのは愉快なものではありません。私はどうあつてもあなたに見せる氣がしません。見せないつもりです。

——私はどうあつても見せて貰ふつもりです。さあ。……私は少々片意地な方でしてな。

——お止しなさい。私はいやだと言つたらどこまでもいやなんです。そちらのをお返し下さい。

——いや、そちらのを見せて頂くまでお預りしてをきます。

——冗談言つては困ります。私は直ぐそこで下りるのです。

——どこであなたは下りるのです。

——蘆屋です。

——蘆屋でですか。——と男は顔を寄せて來た。——心配しなさんな。私は誰にも言はうとは思つてゐません。あなたがそんなものを車中で見てゐたことは誰にも言ひはしませんあなたは若いといふ缺點を有つてゐます。

——あなたは！——と彼は思はず聲を高くした。——なんか誤解してゐらつしやるやうですな。私をどんな男のやうにお考へなんです。

——あなたこそ、私を誤解してゐるんですな！——と男も負けなかつた。——人の顔を見ると、直ぐ相手を刑事かなんかのやうに思ひ込むのはよくありません。

——冗談でせう。——と彼はふき出した。——あなたは私が何か人に隱さなければならぬやうな妙な寫眞でも見てゐたとお考へなんですな。

——さうですとも！と男は怒つたやうに言つた。——ちやありませんか。あなたは私を刑事か何かのやうに誤解して、怖れて隱してゐるのです。

——は、は、は！——と彼は思はず聲をあげた。——ちやお見せしませう。そんなに下らないことを考へとは察しませんでした見ますな！さ、これです。昨夜神戸で寫して來た私の子供の寫眞ぢやありませんか！　生日の紀念寫眞ぢやありませんか！子供を抱つこしてゐるのはこの私です。

——いや！——と男は不意に顔色を變へてそり返つた。もう見ますまい。見る要もありません。誤解したりされたりすることは愉快なことではありませんな！誤解した方がわるいんです。された方はわるくありません。いや、失禮しました初めからさうおつしやればいゝのです。いや、どうも、失禮しましたな。

男は不意に顔一杯にてれて、彼が氣の毒に思つた程狼狽し慌てゝ彼にさきの寫眞を突き返し、袂から敷島を一本抜き出すと、ふと、火を借りにゆくやうな風をして、その場に立ちあがつた。

——いや、失禮しましたな。——と男は再び言つて、頭を一寸下げて、急いで、彼の後方の方へ歩いて行つた。

——いや、私こそ。——と彼も顎を下げた。

彼は拭はれたやうな明るい氣分で、窓の外をグラス越しに眺めた。仄明い春の野の闇を、汽車はひた走りに走つてゐた（春の夜だからだ！）と彼はふと考へて、心の底から快さうに微笑した。

これから約七八分、彼の下りる蘆屋までは間があつたが、前の男は鼠色のソフトをその席へをいたまゝ、自身の席へは戻つて來なかつた。やりばのない氣まり惡るさを便所へでも持つてはいつたらしく、その邊には姿もなかつた。その素直な敗北が彼には氣の毒にも思へた。

（破る要はない。立派な挿話のついた寫眞だ。破る要はないこのまゝアルバムへ大切に貼つてをかう。）

停車場を出ると、彼は何だかいゝことをしたやうに樂しくなり乍ら、とつとゝ急いで、自家へ歸り初めた。

「月の夜の村火事」

電灯は低く明るく下つてゐた。

晩餐後間もない頃なので、皆は温まつて賑やかに饒舌つてゐた。妻は姪の鶴子を相手にして毛糸を卷いてゐた。鶴子が

ついこの間親戚から貰つて來たアメリカ製の眠り人形に、服と靴下とを編まうといふのであつた。洋子は足を投げ出してその邊のものを引つくり返してゐた。

ふと誰かゞ遠くから呼びかけるやうな聲を彼は聞いたと思つた。

——誰かゞ呼んでやしないか。——と彼は夕刊から目をあげて誰にともなく言つた。

聲がずうつと裏の方で確にしてゐた。微かであつた。

——それ、お隣の奥様ぢやないかな。

——どこに?——と妻と鶴子とは聞きそこなつて目を見合はせた。微かな緊があつた。

だしぬけに思ひついて、

——火事ぢやないかな。——と彼は言つてみた。

遠くで、風の中を唸るやうな鐘の音が搖れてゐた。

——あれはお寺の鐘の音ですよ。——と妻は落ち着いて答へた。

——でも、戸外が騒がしいぢやないか。

——あらつ、——と妻は目を見はつた。——一寸待つてゝ下さい。私見て來ます。

彼女は毛糸を投げ置いて直ぐ戸外へ出て行つた。鶴子も驅け出した。戸外でも、近所の女達の聲がやかましかつた。

——あ、酷いこと。——と誰かが言つた。

——あ、眞岡ぢやないか!——と又誰かゞ聲をあげてゐた彼もふと立ちあがらうとした。妻が不意にゐなくなつたのですでに顔を歪めてゐた洋子が、驚いて小さい兩手を顔にあてた。

彼は自分の輕卒に一寸面喰ひ乍ら、あ、よしよしと洋子を抱きあげて急いで同じやうに戸外へ出た。街道まで出てみた風が搖れてゐた。酷いことになるなといふ感じがした。

丁度隣村眞岡の方で、まつかな火の手があがつてゐた。白い煙が長く紆つて、ゆるやかに遠くまで流れてゐた。村と木立とが低くかたまつて、薄ぼんやりと見えてゐた。

——けいけ(奇麗々々)ねえ。——と洋子が饒舌つた。

彼は殆んど無意識で洋子の髪をしきりに撫でつけた。

——かあいぢやうちやんね。——と洋子が再び言つた。いつも母親に髪を梳かれる時、洋子は自分のことを可愛いゝ嬢ちやんねえと言ふ癖だつたのである。

彼はしつかり洋子を抱いてゐる自分の本能を感じた。どんな變事があつても子供だけは離したくはないといふ心の餘裕が、彼を樂しませてゐた。妻や姪の姿はその邊には見えなかつたが、そのことが少しも氣にならなかつた。騒がない心だつた。

人々が集つて來た。すぐ街道を叫び乍ら驅け出す男もあつた。村の青年團の小さなポンプか、二十人ばかりの群衆に押されて、ふざけたやうに騒ぎ乍ら街道を驅けて行つた。火の勢ひは加はつた。空が華やかに美しくなつた。

妻と鶴子とが彼を探しに來た。

——大變だね。——と彼はのんびりした氣分で言つた。

——學校の近所だわ。——と鶴子が言つた。

——あ、あなた、こんな時こそお見舞ひにゆかなければならないんでせう。——と妻が言つた。

——校長の宅はどこだい?——と彼は訊いた。火事場へ行

つてみることに少々の興味を感じ初めた。

——ゆけば直ぐわかりますよ。——と妻は彼から洋子を受けとり乍ら彼を急がせた。

で、彼は帽も冠らず足袋も穿かないそのまゝの姿で、街道を驅け出すことにした。隣村の騒ぎが手にとるやうに聞えてゐた。焔が搖れてゐた。

街道は白く乾いてゐた。下駄の音が高く鳴つた。横の畔道から不意に二人の男が驅け出した。一人は若く一人は年とつてゐた。百姓らしかつた。

——見てみろや！——と若い方が言つた。——月と星とが一緒くちやに重なつとらあ！よい記號ぢやねえ！あんなことがあると、よく嫉なことがあるのよ！

——さうぢやのう。——とも一人が答へた。

氣づいてみると、青白い月が、白いちぎれ雲に美しく映えて、野は火事の夜にふさはしくなく明るかつた。遠くの木立や村が浮いて見えたのもこの月のためであつたし、道がはつきりわかるのも月の光のためであつた。吹く風も春先きには似ないで冷たくはなかつた。

——三人は一緒になつて驅けつた。

——えらいこつてすのう。——と年とつた方が言つた。

——ちよつと風もありますしなあ。——彼が答へた。

——氣の毒なこつたあ！

——ほんとにさうですなあ！

三人はとつとゝ驅けつた。

彼は何だか愉快になつて來た。

ほんとに氣の毒だとは言ひ乍ら、その實、彼はぴつたりとその氣もちに自分がなつてないことを感じてゐた他人の不幸を前にしてこれは少々あさまし過ぎはしないかといふ反省が來は來たが、目前で華々しく燃えあがつてゐる赤い焔を見ては、何だか輕く樂しい氣分にならないではをれなかつた。それに、明るい春の夜の野道は何の屈託もなく走るには丁度よかつたし、街道の白い上の上には三人の黒い影が激しく愉快に踊つてゐた。尚その上、その隣村には誰といつて彼の是非行かねばならぬ大切な友人もゐなかつたことが、彼を充分落ち着かせてゐた。學生時代以來、何年かの間走るといふことを忘れてゐたのが、今初めて、他の二人と倶に走るといふ期會を與へられたことが、彼を若々しく愉快にしてゐた。彼の頰には邪氣のない學生時代の微笑が動いてゐた。

若い方がふと躓んだ。草履の鼻緒が切れたのらしい。年とつたのと彼とは尚も走つた。やがて、年とつた方も疲れたと見えて歩調を弛めた。で、彼は今は一人になつて大空の下を兩手を振つて走つた。が、やがて、走ることが少々馬鹿らしくもなつたので彼もぶらぶら歩き初めた。その時、さきの若い男が今度は彼を追ひ抜いて、一人で、大騒ぎで火の方へ驅けて行つてしまつた。彼は幾らかの疲れを覺えた。

——大變なことでございますねえ。……と言ひ乍ら、一つの影が彼に近寄つて來た。

——はあ、ほんとうに！——と應じて彼も近づいて行つた見知りこしの近所の奥樣であつた。洋子位の子供を負んぶしてゐた。二人は兎も角も並んで歩いた。私すつかり驚いてしまひまして、來るとはなしにこゝまで來てしまひました。

——と奥樣は言つた。

――はあ。――と彼は答へた。

二人は當然の事だが火事の話をした。火は益々燃え昂つた月は益々白かつた。一軒や二軒ではすむまいと奥樣は言つた面白いことになりさうだと、彼は腹の中で火事があつ氣なく消えてしまはないことを希つてゐた。

――あの、校長のお宅をご存じぢやないでせうか。――と彼は訊いてみた。こんなことには元來冷淡な方で、自分と些の關係もない校長などを強ゐて訪ねたいとは希はなかつたのだが、妻の言葉もあつたからである。

――はあ存じてをります。――と奥樣は答へた。――私もこゝまで來ましたついでに、校長樣のお宅と三輪先生のお宅とをお見舞して來ませうと思つてゐるのでございます。何でしたらご一緒に參りませうか。

――はあ、どうぞ。――と彼は答へた。

そこで、一寸殘り借いことには思つたが、彼は奥樣について火事の見ない小路を曲つて初めて來た村へはいつた。

校長の家は小學校の直ぐ附近だと言ひ乍ら、直ぐには見出せなかつた。夜道は歩いたことがありませんのでと辯解し乍ら、奥樣は二三度もその邊の人に尋ねた。彼には火事場のことが氣になつてゐた。

やうやう家を探し當てると、校長は豫期の通り留守で、その妻君だといふ痩せた女が近所の二三人の女と倶に門口に立つてゐた。上品な女ではなかつた。

奥樣は直ぐお見舞をのべた。妻君はわからない風で初めは唯はあはあとだけ受けた。奥樣は子供の名を言つて、常々お世話になつてゐる生徒の親ですと言つた。妻君はそれはそれはと頭を下げた。彼はこの二人の挨拶を聞き乍ら、何だか淋しくなつた。が、彼も同じやうに鶴子の名を言つて頭を下げた。妻君はわからないまゝにはあはあと氣のない返辭をした彼はこんなわかり切つた無駄をやらねばならぬ自分に腹が立つて來た。

奥樣はそれから又三輪氏の門をたゝいた。こゝででも平凡な田舍者であるに過ぎない妻君か挨拶を受けた。ちつとも面白い氣がしなかつた。早く火事場へ行つてみたくなつた。

二人がその要らない二軒の家から出た時は、火事はすでに下火になつたといふことを耳にした。彼は少々殘念だといふ氣持になつた。

――まあま大車にならなくてようございましたわね。やつと、いつもの氣持をとり返しました。――と奥樣が微笑つた。

――えゝ。まあ、風も一寸治りまつたやうですね。――と彼も同意はしたが、實は、それはすつかり下火にらつてしまはないうちに早く火事場へ行つてみたかつた。苛々して來たさきの街道まで來ると、奥樣はもうそのまゝ自家の方へ歩り初めやうとした。彼は慌てゝ立ち止つた。

――あの、私、せつかくこゝまで來たものですから一寸向ふまで行つてみます。――と彼は言ひ出した。

――は、さうでございますか。では、こゝで失禮致しませう。――と奥樣は些の躊ひもなく答へた。そしてそのまゝ去つて行つた。

彼はそのするだけの要をすればそれでいゝといふ風の、思ひきりのいゝ奥樣の態度には感心した。あくまで他人の不幸を樂しみにゆかうとする自分はがゆくなつた。彼はそのまゝ

走つた。

火はすでに見えなかつた。長い煙がその邊をのろのろと卷いてゐた。附近の村々から驅けつけた潰れかけたポンプの幾つかゞ、大勢の青年達に依つて、よいさあ、よいさあ、と動かされてゐた。小さな火事には多すぎる群衆が、笑つて好氣嫌で色んな噂をし合つてゐた。近寄れないので、彼は裏の畑の畔へ出てみた。雜多な家具類がその邊に壞れ物のやうに投げ出されてあつた。或る物は酷たらしく横倒しになつて下駄の跡さへついてゐた。麥畑が滅茶々々に踏み荒されてあつた細い溝にはすでに水がなかつた。青年達はまるでふざけて大聲をあげ乍らその邊をうろうろしてゐた。

やがて、喇叭が鳴つた。明るい調子を有つてゐた。火事は終つたのである。白い煙と水蒸氣とがいつまでもその邊に立ち罩めてゐた。空が美しかつた。だしぬけに、溝の中へ汚い水がどつと流れ込んで來た。ずうつと奥の池の樋を抜いたのが、やうやう今になつて流れて來たのである。

——一軒ですんだのでせうか。——と彼は群衆の一人に訊いてみた。あつけないといふ氣がしてゐたのである。

——えゝ。——とその男は答へた。——たつた一軒ですみましたがなあ。えゝ、まあよかつたと言はんなりまへん。なあに、小つぽけな家だす。へえ、古道具屋はんで。

——子供さんなんかゝあつた樣子ですか。——と再び彼は訊ねてみた。

——なあに、爺さん婆さんの家で、息子の家は外におまんので。——と男は答へた。

もつとどんどん燒けなかつたのがつまらないと言ふ口吻をその男はもらした。彼も實はさういふもの足りない氣持ちになつてゐた。群衆の誰も彼もが同じやうな氣持ちらしかつた集り過ぎた青年達やポンプは確に充分の役にはたつてゐなかつた。

彼は月の明るい街道を懷手でぶらぶら歸つて來た。もう洋子も鶴子も眠つてしまつた枕もとで、唯單念に人形の服を編んでゐる妻の、その屈託もなささうな明るい微笑を見ると、彼は急に妻が可愛いくなつて來た。

その翌日。彼は聞くともなしにその火事の詳報を妻から聞いた。燒けたのは一軒、小さな藁葺きの家、貧しい古道具屋で、老人夫婦のかけがえのない棲家であつた。爺さんの方は脚がわるく、婆さんは先日からの感冒で床に就いてゐた。その夜、二人は早くから寢床にゐたのださうである。で、家が半分まで燒けて來るまで知らなかつた彼等は、それと氣づくなり、婆さんは起き上るなり爺さん滅茶々々に曳つぱり乍ら殆んど死に乍ら逃げ出した。他の人々に依つてもち出された二人の家具は、實に輕うじて形を止めた蒲團が唯一枚きりであつた。火は戸外に積まれた藁からであるらしく、今朝から町の警察へ呼ばれたこの二人の申し立てが少しも要領を得ないので、未だに歸宅が許されないと言ふのであつた。老人達の心が深く思ひやられた。

——可愛さうですわ。ほんとに氣の毒ですわ。——と妻が暗らい顏をした。

ほんとうにね。——と彼も心の底からの同感をもつて言つた。——ほんとうに氣の毒だ、年をとつてからそんな目にあふなんて。全くたまらないだらうね。

そして、今はほんとうに、それ不幸な老人夫婦が氣の毒になつて來たのであつた。

初心の人に

溪　航

×

◎私はかなり長い間俳句を見たり作つたりしてゐますが――尤も他の俳人達のやうにそれに專一に携はり通してはゐませんが――やはりいつまで經つても初心でであります　これは私自身として皮肉を云ふのでもなければ、スネてゐるのでありません、何うもいつまで經つても初心者のやうな心持であります。

◎すべて斯ういふ道　文藝などゝいふものは、習つて出來るものではありません、大ていまづ自發的のものであり、創作的のものでありますから、いつまで經つてもどこまでいつても、どんな大家でも小家でも、初心者同樣といふ事ができます、文藝、創作などは、これを作るには斯うあるべきもの、それはさうあるべきものと云つたやうに、ちやんと理屈がきまつてゐるものではありません、だから、新しいものを生み出す、作りだすといふ時になると、その作者は皆な誰でも初心者であります。

◎もしか　文藝、創作に、その組立の道がちやんときまつてあるものなら、それは文藝でも創作でもありません、いろはにほへとゝ、を習つて、いろはにほへとときくやうなものです。これならば初心者と黑人の區別があつて、初心者の方は字を間違へたり忘れたりするが、黑人の方はそんな憂ひがなくて、うまくきゝ得るものでせう。

◎俳句もそれと同樣です、梅を咏むには斯う〳〵、雛を咏むには斯う〳〵と道具立がかねて心持や極つてゐるものならば、それは初心者と黑人の區別がキチンと立ちます、心持や道具立を甘く使ひこなした方が黑人、甘くない方が初心者となる譯ですが、それでは眞當の文藝ではありません、俳句ではありません、何しろ俳句も人事天象、あらゆる自然と人間の生活を相手にしてゐるのですから、さうはゆきません。

◎だから、俳句を作るといふ場合になると、如何なる大家でも小家でも、皆な新しい試みにブツかると同樣で、初心者であります、また初心者の心持にならなければ、創作が生れません。

◎けれども、こゝに初心者といひますのは、俳句といふものゝ形式も、季題の事も知らない不案內者のことをいふのです、不案內者には案內者が要ります。

◎それで私は、前號に於て『課題について』と題して、俳句の題の解釋をしました、これなどは不案內者に對する案內であります。

◎ですから、作句については、初心者だらうが、經驗の多いものだらうが、云はゞ一しよであります、唯だ初心者は形式も不案內季節の事も不案內、心持丈けはあつても用語に乏しい、といふはけで俳句として作り出すのに甚だ不便であるが、經驗者の方は何も彼も心得てゐて便利である、けれども新しく產み出すといふことについては双方同樣に初心であります。

◎私はこの初心者の人の爲に、もう少し俳句といふものゝ心持を分つて貰いたいと思ふのであります。

◎俳句を作るといふ事、俳句といふ事を以てヒマ人の仕事か、意氣地なしのザレ事か、骨董的遊戲のやうに考へてゐる人が少くないやうでありますが、俳句は左樣なものではありません、眞當の俳句の趣致といふものは生活と自然の咏嘆でありまして、その蔭には眞當の人生と自然があるのです、眞當の人生と自然ですから、そこに活潑な生命をやどしてゐることは勿論です　そんな弱い貧しいザレ事ではないのです。

◎運動競技をやる、ダンスをやる、武技を講じる、文化村に住む、裏長屋にゐる、何んなハイカラアな場合でも、またバンカラな場合でも俳句はアテはまる、文化的なハイカラア生活に俳句はをかしからうと考へるのは、非常な大間違であります、如何なるハイカラアな生活も、自然と人事をヨソにする譯にはゆきません

◎私は、殊にハイカラアな、寧ろ物質的生活をしてゐる文化人にその俳句を作つて頂きたいと思ふ一人であります。

◎俳句を作る利益はいろ〳〵ありますが　ウヰスキイを飲みながら、ビフテキを食べながらでも、自動車を飛しながらでも眞當の人生に親しむ、しみ〴〵とした、また澁澤とした精氣に觸れて、心に大なる餘裕を認めることができることです、ハイカラアな生活をしてゐる人が俳句を知ることの必要な一層適切だと私は思ひます。

◎そして私は、その中でもまづ女性の人が、試みにこれに指を染めてみて下さる事を望むのです。

時事

◎增し行く鐵筋校舍

大阪市のかうした學校建築の革命は一昨年出來た臨時小學校設備委員會の方針として、第一は耐震、耐火式を原則とし第二には木造の場合にも標準規格を定めようといふのであつて委員には各方面の權威を網羅し其方針の下に今なほ各方面の研究調査中であるがそのうち衛生上の方面は市立衛生試驗所が引受け近くその調査を完成することゝなつてゐる。これは藤原博士が主査となり荻原技師が專ら調査しつゝあるものだが、木造ト鐵筋と兩方を兼ねた難波新川小學校で去る一月廿八日まづ教室の溫度について試驗して見たところ、鐵筋の方は授業開始のとき華氏四十四度六であつたのが、授業の終るときまでは僅一度八しか溫度はあがつてゐないが、これが木造教室だと授業開始前四十四度六であつたのが終る時には五度四も昇つてゐた。それは木造よりも鐵筋の方が兒童の身體の熱を多く、かつ早く吸集する證據で、衛生上餘り面白くないから鐵筋はどうしても暖房裝置をせねばならぬが、現在その裝置のあるのは僅船場のスチーム、淵美育英女子の電氣ストーブだけであるさらに暖房裝置のある教室と、ない教室と比較したのによると二月廿三日スチームのある船場小學校では授業前五十六度であつたのが終るまでに三度方上昇し、同日暖房裝置のない久寶小學校では授業開始前四十四六度であつたのが終るときまでには一度四しか上昇してゐなかつた。また普通木造室でも授業を終る頃には衛生上耐えない程度室内の空氣が濁るのに鐵筋コンクリートは木造よりも空氣が換りにくいから一層空氣は濁り今後のかうした建築には換氣裝置も必要との事である。なほこれ等鐵筋コンクリートの校舍も市の中央部を除いた大多數の學區では負擔力が乏しいため資金借入れに坪二百圓といふ低い目安を立てゝゐるので折角の校舍も墨に黝裂が入つたり、いろ〳〵な不行儀を見せてをり、これにつき技術家側ではたゞへ實害はないとしても今時坪二百圓ではトテも駄目だ、セメて二百五十圓程度でなければ一寸した鐵筋作りは望まれないし衛生上の施設なども寧ろ失敗だといつてゐる位で、姿は新しく化粧つけられても建物そのものは餘り評判がよくない、しかし一方教育方面の調査を聞くと、木造建築よりもすべてが明るい感じがするので兒童の心を爽かにするし木造建築の教室では教師がかなり大きな聲を出す事に努めればならぬが、鐵筋の方では反響が大きいため普通の聲で教授する事が出來て大變樂だとの事である。かうした各方面からの調査がぞく〳〵集まりつゝあつて市永年の計畫だつた小學校建築上の規格を統一すべき標準は近く完成しようとしてゐる

◎白日園の文化村

大阪市外濱寺船尾に白日園といふ新文化村が生れた、其特色ある建築物の青い瓦赤い甍か松林を越して電車から人目を惹いてゐる、この建物は府立西野田職工學校の模範職工園が同校教諭松本儀八氏の設計及び指揮の下に全く營利の念を離れて如何にすれば家主側の欲する贅澤を越さぬ程度の設備が出來ると云ふ試驗的に建てた安上りの家で、一方居住者の思ふ簡易生活にも相應はしい無駄と不自由のない家である施主は堺の山田種三郎氏で大正十一年七月來次々に獨創的な試みが大々に發揮され全部九軒が先月下旬に落成した何れも外觀の整つた、內容に健實味を充たせた和洋折衷の眞に日本人向の新しい嗜好が施されてゐる、其一例を擧げると階上九坪、階下十九坪餘の同建築物に二千圓の建築費の相違を見せて造られた五千五百圓の家に安樂椅子、ストーブ其他文化的設備遺憾なく整ひ又臺所に家庭的能率增進の工夫を凝らし食堂、浴場との便利を計る等新機軸の點が多い而して該九軒の總坪は二百五十坪餘、坡工費四萬八千百九十圓備品を加へ坪當り百九十圓(建築費百四十圓)で全く玄人を驚かせる結果を呈した

◎構物造震動の新研究

三月十二日を以て帝國學士院より恩賜賞を受けた內務省技師工學博士物部長穗氏の研究は構造物の震動に關し約七百ページにわたる大論文であるが從前の理論に從へば地震の際六階位の大建築の震動は

一階が一番多く打撃を被るはずだのに事實は三階四階などの中央部が最も多く打撃をうける、これが如何なる理論によるか不可解のものとせられたのである、氏の苦心研究の結果、力學上の彈性理論を其礎として數理的の解決を與へられた、これによつて從來の耐震法は根本からくつがへされ地震に對する建築物に何如なる設備を施すべきかにつき明確な數理上の指針を與ふることゝなり今や本建築の許可されんとする帝都復興の建築界に一大革命を與へ得る程の研究である、氏を麻布六本木六七の自邸に訪へば「あんな論文が恩賜賞をうけるとは存じませんでした」とて語る「土木課では河川改修の仕事を本業として居ますので充分の勉强も出來ず公務の餘暇土曜日曜を利用してやつてみました、丁度大正六年佐賀の關に出來た久原鑛業の東洋一の大煙突の震動につき研究した結果を見ると高さに應じた規則的な數字が現はれてゐるのを知りましたのでどんな構造物をも數學的な數字が與へられはしまいかと考へこれがヒントとなりコツ〳〵と初めました、丁度油が乘つた處十二年の大地震にあひ從來の耐震法が全然間違つてゐた事を知つたのです、高い八階等の建築物が一番低いところよりも四階位の所がひどくやられてゐるのはその結果と判明した、力學上の解釋を與へたわけです」と氏は明治四十四年帝大土木科卒業後內務省に入り當年とつて三十八の研究盛り、音樂、文藝、詩歌なんでもあるいふ熱心家、もと子夫人との間にみほ子長與みつ子みえ子等の可愛いお子樣方がある

◎安價に手にはいる見本家屋

衣食住のいづれを見ても近年その道の新しい試みは殆ど枚擧に遑がない位で次から次へと新案の試みが發表されて行くが住宅に關するものゝみを一瞥しても可なりの數に上つてゐる、そして其中でも燃えない塗料とか錆ない金具などの如き發明もあるが家居全體としては時代と趣味とを度外視しない範圍での家屋の單純化が歐米殊に米國の傾向のやうである、例へば米國には小家屋供給事務所と稱するものがあつて出來るだけ安價で住宅を供給して呉れるところがある、そして思ふまゝの住宅を設計し建築して呉れるから便利である、こゝには三室乃至六室位の見本家屋が二百種類以上もあつて新に住宅を持ちたいと思ふ人々はこの見本に從つて隨分自由な選擇が出來るのである、日本でもチヨイ〳〵建築の團體等が見本家屋を作つてこれを希望者に賣り付けてゐるがトテモ二百種の種類はない、又こゝでは住宅に關する小雜誌なども出版して廣く一般に家庭に關する智識を與へてゐる、米國建築協會のロバートテーラー、ジョン氏の如きは簡易に住宅を持ちたい人々の爲に建築貯金の仕方を四十通りから擧げてゐる、そして見本家屋の價格も二千弗三千弗位の程度で自分の物になるから安いものである、その中でも最もこの人々に喜ばれてゐる、オランダ式家屋は建築費から內部の家具裝飾品迄すつかり入れて六千弗から一萬の間で出來るといはれてゐる、一萬弗といへば如何にも高いやうにも思はれるが金の價値がちがふ米國の事であるから決して高ともいはあるまい、次に建築する就て一般の人々が先づ心得なければならぬ事柄は家屋全體の比例、窓、ドア、臺所、階級、浴室などの位置を研究する事である、その中でもとりわけ浴室と居間と寢室とは最も意を用ゐなければならないといふ譯は何れも日常生活上特に緊密な關係にあるからである、その次は階級の位置で二階へ上る階級地下室へ降りる階級は餘程愼重に考へて拵らぬと後から取り替へるのは却々むつかしいものであるといふ譯は極めて簡單でどんな家でも階段の位置には大抵頭を惱ましてゐるのであつて總體にコレは便利に出來てゐると思ふ家は少いからである。尙ほこの他に一旦デザインを決定したら後で彼れ此れと變更したり取付家具の位置を變更したりしない事と押入れに對する考慮を忘れない事である

市に新編入の土地價格

大大阪の實現も愈々四月一日からで目捷の間に迫つて來た　然し乍ら大正九年の春以來釀成された不景氣風は地を拂つて昨冬來やゝ好況を見せて來た傾向はあつても春につて一向冴えず沈靜を續けてゐた　それが近く市が膨脹すると云ふので不振勝であつた不動產の價格も弗々買人氣が現れて來たのみか最早最低の氣配相場もすでに過ぎ去り徐々に價格を向上せんとする傾向が見えて來た、今試みに市に編入さるべき換續町村の內、最高と見らるべき場所で一坪育りの大凡の價格を揭げて見ると次のやうである

△三百五十圓內外

天王寺阿部野橋南入邊、中道本通西部

△三百圓內外

今宮飛田遊廓附近、天神橋筋六丁目の北橋筋

△二百五十圓內外

中道本通り同東部、海老江新國道筋

△二百圓內外

大仁新道筋　阿部野南海線交叉點の北

天王寺公園南口通、中本、本庄の通り下三番六齋橋の北、十三本町通り、今福市場邊

△百五十圓內外

浦江堺天前通り、稗島國道筋、天王寺吉野通、同常盤通、住吉神社前電車通木野東小橋通、海老江東西の通、今宮萩の茶屋通

△百圓以上

傳法北通、猪飼野通、鴫野朝日橋通、大今里片江停留場附近、淀河二、運河傳法南通、安立町通、玉出町通、

主要建築材料値段

◎耐火リノリウム　市内施工　大阪耐火リノリーウム會社

チョコレート色	四分仕上坪	八、五〇	円
褐色	同	八、五〇	
赤色	同	九、〇〇	
青色	同	三、〇〇	
マグネシアセメント市内倉庫渡し		九、五〇	
ドロマイトプラスター	同	八、〇〇	
一號品	一タル四切半	七、〇〇	
三號品	同	八、六五	
ストロブロック（模造天然石）工事		市中	
寒水石大理石類	尺坪	八、五	
花崗石類	同	一二、〇	
防水劑ボースイ		一、五〇	
三封度入		二、五〇	
五封度入		三、〇〇	
四〇封度入			

◎リノリューム　英國チーアン製　奥村重兵衛商店

巾六呎	長九〇呎（十五坪巻）	
X	一、九ミリ　一坪ニ付	七、八〇〇
E	二、二同　同	八、六五〇
B	三、〇同　同	三、四〇〇

◎ウオールボード　英國ゼームス純製

一坪		四、二〇〇
寸法	巾三呎　巾四呎	
	長六呎　三呎巾　巾四呎	
	長九呎　長八呎	

◎メタルラス（和製）

廿六番	巾二呎長六呎	一枚	〇、四八〇
廿四番	巾六呎長六呎	同	〇、五五〇
廿番	巾三呎六六呎	同	三、〇〇〇
十八番	巾三呎長六呎	同	三、八〇〇
十三番	巾五呎長六呎	同	四、八〇〇

◎壁紙　英國製

巾一尺七寸	長三十六尺（張上約一坪五合）	一巻	一、〇〇〇以上各種
米國製	巾一尺五寸	長五十三尺（張上約二坪）	一巻	一、二〇〇以上各種
張手間			一坪	一圓四十錢以上

◎金屬天井

材料	蛇腹	逃板付	一坪 三、〇〇以上
同	逃板ナシ	同	一、〇〇同
張工賃		同	二、〇〇同

◎日の出印便利瓦　日本建築紙工　大阪出張所

半號	巾三尺二寸	附屬品及	四、五〇〇
	長七十二尺	ペイント添	
一號	一巻	同	七、五〇〇
二號	一巻	同	三、五〇〇
三號	一巻	同	三、五〇〇

◎鶴印便利瓦

半號	一巻	巾三尺二寸	附屬品及
		長七十二尺	ペイント添
一號	同	同	三、五〇〇
二號	同	同	二、五〇〇
三號	同	同	二、五〇〇

◎日の出印砂付便利瓦

半號	一巻	巾三尺二寸	附屬品及
		長七十二尺	ペイント添
一號	同	同	六、〇〇〇
二號	同	同	三、〇〇〇
三號	同	同	二、〇〇〇

◎日の出印建築用紙　ビルヂングペーパー

一號	一巻	巾三尺二寸	三、〇〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、二〇〇
三號	同	同	五、三〇〇

◎日の出印パーマネントルーフ井ング

一號巾三尺長三十六尺　三十六坪
二號巾三尺長三十六尺　坪ニ付三十六
三號以下一巻トス　平方尺一七、〇〇

◎日の出印衛生疊下用紙

一號	一巻	巾三尺二寸	三、〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、四〇〇

◎日の出印瀝靑（モスパーピール）

一號	一枚	巾二尺八寸	一、二五
		長三尺二寸	
二號	一枚	同	一、〇〇
三號	同	同	〇、五〇

◎日の出印アスファルトフエルト

一號	一巻	巾三尺二寸	三、一〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、二〇〇
三號	同	同	五、五〇〇

◎スレート　淺野スレート販賣株式會社

◎淺野波形板

長六尺	巾二尺二寸	一枚	三、三〇〇
長七尺	巾二尺二寸	同	三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本			〇、三五
長六尺	巾三尺厚一分五ノ一枚		二、八〇
長六尺	巾三尺厚二分一枚		三、三〇〇
附屬銅鋲	一本ニ付		〇、〇六
同亞鉛寸釘	同		〇、〇六
同	銅釘	同	〇、〇三

◎石綿スレート　石綿スレート株式會社大阪支店　淺野スレート販賣株式會社　野澤幸三郎商店

天白色	十六吋	角	一枚	〇、三三〇
淡黒色	十二吋	同	同	〇、二四〇
	八吋	同	同	〇、一五五
灰黒色	十六吋	同	同	〇、二四〇
	十二吋	同	同	〇、一六六
	八吋	同	同	〇、一〇〇
菫色	十六吋	同	同	〇、二四五
	八二吋	同	同	〇、一九一
赤色	十六吋	同	同	〇、二五〇
	十二吋	同	同	〇、一九五
	八吋	同	同	〇、一三五
綠色	十六吋	同	同	〇、三一〇
	十二吋	同	同	〇、二〇三
	八吋	同	同	〇、一五八

◎葺上標準値段　（一號アスファルトフエルト下葺）（銅鋲、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共）

◎菱形葺（網目葺）十六吋角使用

重ね	灰白淡黒	黒	菫	赤	綠
三吋	七、五〇	八、一〇	八、三〇	八、七〇	一〇、一〇
二吋半	八、〇〇	八、六〇	八、七〇	九、二〇	一〇、七〇

◉同　上　十二吋角使用
二　吋　九、一五　九、八五　一〇、二五　一〇、六五　一二、四〇
二吋半　九、九〇　一〇、七〇　一〇、九五　一一、五〇　一三、五〇
◉同　上　八吋角使用
二　吋　一〇、五〇　一一、一〇　一一、三〇　一一、九〇　一三、八〇
◉一文字葺（額飾共）一六吋角二切使用
葺足寸法　灰白　淡黒　黒　萱　赤　綠
五寸五分　一一、四〇　一二、三〇　一二、八〇　一三、五〇　一六、〇〇
五　寸　一二、五〇　一三、五〇　一三、八〇　一四、五〇　一七、五〇

◎石綿盤葺上標準値段

（一面坪單價）
野澤幸三郎商店
網目葺（菱形）ノエルト一號品敷込材料間儀共

色合	寸法	十六吋	十二吋	八吋
灰白色	十六吋半二吋	七、三〇	七、八〇	八、八〇
淡黒色	十二吋重二吋	八、四〇	九、五五	九、八〇
黒色	八吋重二吋	九、五〇	一〇、三〇	一〇、五〇
萱色	十六吋重三角二	八、一〇	八、五〇	一〇、五〇
赤色	十二吋重三角二	八、五〇	九、〇〇	一〇、五〇
綠色	八吋重三角二	一〇、〇〇	一〇、五〇	一一、一〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段

（阪神間ニテ）
平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先及蟻羽棟伏等道具瓦完備
灰白色、黒色、萱色、赤色共フェルト敷込

	一面坪ニツキ	棟甍斗二段半圓形伏	一間	同　箱歷振伏　同	甍　斗一段積　同
綠色ハ三割高	八、五〇	三、七〇	五、八〇	七五	

◎亞鉛引平鐵板

月星印30	（米一）	一、三四	品切	七代	七〇匁	壹、〇〇
タヒ印30	（米一）	品切	六代	六〇匁	四、〇〇	七、〇〇
犬　印30	（米一）	一、三一	五代	五〇匁	八、一〇	八、一〇〇
三星印30	（米一）	一、三三	四代	四〇匁	二六、〇〇	九、〇〇〇
太陽印30	（米一）	一、三三	三代	三〇匁	三一、〇〇	一〇五、〇〇
エビ印30	（米二）	品切	二代	二〇匁	六四、〇〇	一三七、〇
船　印30	（米二）	一、九				
月星錨印30	（米二）	一、三〇				
山星印30	（米二）	一、三〇				
五寸切レ	（米板）	〇、九四				
蝶　印30	（英一）	品切				
ラクダ印30	（英一）	一、九				
地球印30	（英一）	品切				
赤丸一印30	（英一）	一、九				
桃　印30	（英二）	品切				
首　印30	（英二）	一、七				

#28	一級品	一、四		
#26	一級品	一、四五		
#24	一級品	一、三〇		
#22	一級品	一、七		

◎同浪板

同　吉田定七商店　百斤ニ付

#30	六尺	〇、九八		
#30	七尺	一、一六		
#30	八尺	一、一九		

各參錢上り

#28	六尺	一、三二		
#28	七尺	一、二〇		
#28	八尺	一、三七		
#28	各尺百斤ニ付	一七、〇〇		
#2426		六、三〇		

◎鋼瓦板

巾一尺　長一尺二寸　井筒政藏商店（大阪）

名稱	一枚目付	薄增値	單價和百斤ニ付
自拾二代至八代	一二〇匁八〇匁	建値	壹、〇〇

七代	七〇匁	二、〇〇	壹、〇〇	
六代	六〇匁	四、〇〇	七、〇〇	
五代	五〇匁	八、一〇	八、一〇〇	
四代	四〇匁	二六、〇〇	九、〇〇〇	
三代	三〇匁	三一、〇〇	一〇五、〇〇	
二代	二〇匁	六四、〇〇	一三七、〇	

◎銅瓦板

吉田定七商店
定尺巾一尺長一尺二寸（一枚目付和百斤ニ付）

八代增値	一二〇匁建	壹、〇〇	
八〇匁値			
七代	七〇匁	壹、〇〇	
六代	六〇匁	七、〇〇	
五代	五〇匁	八、一〇〇	
三代	三〇匁	一〇二、〇〇	

◎パイプ

金剛商會大阪支店

內經	厚	長	價格
二吋	四分ノ一吋	六呎	一、三〇
二時半	同	同	一、七〇
三吋	十六分ノ五吋	同	二、〇〇
三吋半	同	同	二、三〇
四吋	八分ノ三吋	同	三、五〇
五吋	同	同	四、五〇
六吋	二分ノ一吋	同	七、〇〇

◎金剛板

巾三尺　長六尺　一枚ニ付

厚サ	重量	円
二分	五貫二五	三、二〇〇
三分	七貫五〇	五、二三〇
四分	一〇貫五〇	七、五五〇
五分	一二貫七五	九、七五〇
	一五貫〇〇	二、三五〇

◎金剛ストレート（葺上値段）

色・合　十六吋菱形　八吋菱形

灰白色	円七、〇〇〇	円一〇、〇〇〇

黒　色	七五〇	一〇、八〇	
スミレ色	八、〇〇	一一、五〇〇	
赤　色	八、五〇〇	一二、五〇〇	

◎塗料

大阪及東京渡値段
◎アラバスチン會社製品
田中源太郎商店

性質	品名	種類	單價
水性、壁、塗料	アラバスチン	白	三、三〇
容器	五封度入		
同	同	各色	三、八〇
同	同（樽入）	白	三、三〇
同	三五〇封度入	格安	一、二〇
同（樽入）	一〇〇封度入	白	一、〇〇
シミ止	アラバスチンコーター	格安	一、二〇
小瓶入			一、〇六
パテ材料	アラバスチンパテ		二、三五
小袋入			一、〇六
型紙	アラバスチンステンシル		四〇ヨリ一、五〇迄

性質	品名	種類	單價
インヒリアルバニス及エンタアプライズペイント會社製品			
艶消ペンキ	サテン艶消ペンキ	赤三角又ハ紅葉印	各色 一、五〇〇
容器			一ガロン入 一、五〇〇
同			同　二、四〇〇
八分ノ一ガロン入			外部用
ジンクペンワンダー			白
代用ホワイト			

同　一ガロン入　一〇、八〇
紅葉印コーパルバニシ　一ガロン入　六、五〇
同　ワンダーホワイト　艶消白　一ガロン入　一〇、八〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、七五
エナメル代用　ワンダーホワイト　エナメル白　一ガロン入　一一、二〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、八五
自動車塗料　オートフィニシュ　各色　八分ノ一ガロン入　三、三〇
コンクリート塗料　コンクレライト　各色　五ガロン入　四九、八〇

◎ルーカス塗料會社製品

性質　品名　種類　汽車屋根塗料　ルーカスルーフセメント　黒色　容器　一ガロン入　單價　四、七五
シエツドウオータープロダクト會社製品

性質　品名　種類　リノリユーム　ホワイトリノリ防水塗料　ユームバニシュ　容器　四分ノ一ガロン入　單價　三、八五

日本ペイント製造株式會社

白亜ペイントA印　一二瓩半　一〇、六五（円）
白鉛ペイント　同　同　四、一〇〇
錆色ペイント　同　同　一、二〇〇
赤色ペイント　同　同　一、二〇〇
塗料ボイルド油　同　一六瓩　一五、三〇〇
光明丹　同　一二瓩半　八、八〇〇
繪具粉末水性ペイント（メロニア）一磅　二五
スパーワニス　六、〇五〇
コンクリートペイント　五瓩　三、八五〇
曝房塗料　一立　三、五〇〇
パテ　白斧印七〇磅罐　四、九五〇

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト　一〇ポンド入　五、五〇〇
同　七〇ポンド入　三五、〇〇〇
ウヰツクウオタイト　一〇ポンド入　六、〇〇〇
同　六〇ポンド入三〇、〇〇〇

油脂化工社

マノール　一〇ポンド入　五、一〇〇
同　四〇ポンド入二〇、〇〇〇
急結マノール　一〇ポンド入三、六〇〇
同　五〇ポンド入一七、五〇〇
エキストラ　一ガロン入　四、一〇〇
エキストラ　四ガロン入　一六、〇〇〇

◎木材其他

田村商會（神戸）

◎金屬天井

平板　一坪ニ付　九、〇〇以上
蛇腹　長サ六尺物　一、〇〇以上
鉦飾　同　六〇以上
中眞飾　同　三、五〇〇以上

◎建築用壁紙

パブコボード　一尺平方　一、五〇
アイボリボード　同　一、五〇

◎メタルサイデング

平　飯石　一坪ニ付　八、五〇〇
角

◎メタルラス（引伸金網）

舶來品#26　一坪　二、八五〇
舶來品#24　一坪　三、二〇〇
和製品#26　同　一、五〇〇
同　#24　同　一、六〇〇

◎米松角材（木場渡し）

大角材　一八吋角上　長　二四呎以上　一、〇〇以上
中角材　一二吋角上　長　二四呎以上　九五〇以上
小角材　取合　四吋角　一〇呎　八五〇以上
四吋四分ノ一長　一三呎　九〇〇以上
四吋四分ノ三　二〇呎　九五〇以上
平材No.8　厚六吋巾一二吋上長二〇呎　一、四五〇

◎米　角材

大角材　一〇吋角上　長二四呎上
小角材　取合　四吋角　一〇呎　八五〇以上
四吋四分ノ一角　長一三呎　九〇〇以上
四吋四分ノ三角　二〇呎　九五〇以上

◎米　杉（尺〆一本ニ付）

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五、五〇〇
丸太ノ二クリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇〇以上
同　末口一八吋上　長一二呎上　一〇、五〇〇以上
米松床板（神戸同店渡し一延呎ニ付）
巾六吋マーチヤンタブル級　〇、四五〇以上
巾六吋板目無節　〇、六〇以上
巾六吋柾目無節　〇、七八以上
上巾四吋板目無節　〇、四五〇以上
巾四吋柾目無節　〇、五〇以上
同　二等級　同　三、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎檜、榧、赤樺、白樺、櫻、栓、

（建築家具用）

新田ベニヤ製造所

三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ（十六分三）　二、三〇
巾二尺一寸以上ハ厚サ二分（四分一）　二、五〇
何れも一平方尺ニ付キ

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一、一五　六、四寸　二、三〇　二、三〇
同　二、三五　二、三〇
一、三五　同　六、〇〇　二、六〇
一、六五　六、四　三、四〇
二、〇〇　四、〇〇　三、〇
二、〇〇　五、〇〇　三、八〇
二、〇〇　六、〇〇　二九〇
二、五〇　五、〇〇　三、〇〇
二、五〇　六、〇〇　三、一〇
三、〇〇　六、〇〇　三、三〇
四、〇〇　八、〇〇　六、〇

◎二　等　品（家具用）

厚一分五ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）

巾　長　片面　代價（一平方尺）
二枚合　六尺　表三枚又四枚剝混合　二、三〇
同　同　二、三五
二尺　三、〇　同　同　二、三五

◎天　井　用（一坪ニ付）

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一、一五　六、四　二、七〇
一、三五　同　一〇、四〇〇　三、三〇
一、六五　同　一、一〇〇　三、三〇
以上一分五——厚　六尺四寸　三、一〇〇　三、七〇
同　六尺四寸　四、八〇〇　五、七〇〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉本　一坪　一〇、〇〇〇以上
神代杉　同　二〇、〇〇〇以上
屋久杉　同　三五、〇〇〇以上
以上二分厚

◎格天井用（厚一分五厘）

楢樺櫻しな栓黄檗　代價
寸法　樹種
二尺角　青二ッ星　一〇、四〇〇
同　青一ッ星　三、六〇
楓　二尺角　青二ッ星　三、三〇
同　同　青一ッ星　六、九〇

◎同　厚　二分

楢樺櫻しな栓黄檗
二尺五寸角　青二ッ星　一五、六四〇
同　青一ッ星　一四、二六〇
楢樺櫻しな栃黄檗
三尺角　青二ッ星　一五、四八〇
同　青一ッ星　一九、四四〇

栓　三尺角　しな栓黄檗　一五、一一〇
楢樺櫻　三尺五寸角　青二ッ星　一九、七七〇
楓　三尺五寸角　青二ッ星　二四、七八〇

◎腰羽目用（一枚二付）（一分五厘）

厚　楢樺櫻　なし黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇四〇　一、三三〇
楓一尺三寸五分　三尺二寸　一、二六〇　一、七二〇
楢樺櫻栓黄檗
一尺六寸　五分　三尺二寸　一、三九〇　一、八〇〇
楓一尺六寸五分　三尺二寸七、一〇　二、一三〇
楢樺櫻栓しな黄檗
二尺　三尺　一、七四〇　二、二八〇
楓三尺　二尺　二、三三〇　二、八二〇

◎同　二分厚

楢樺櫻栓しな黄檗
二尺五寸　三尺　二、三三〇　三、〇一〇
二尺五寸　三尺　二、八五〇　三、七五〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合　兩面　一枚二付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺五　二尺五　一、〇四〇
一尺二五　二尺三　九〇〇　一、一八〇
一尺〇五　三尺一　八七〇　一、二三〇
一尺一五　三尺一　一、三三〇　一、五二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

楢樺櫻
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　六尺四寸　八、九〇〇　九、七〇〇
同　樹種
二尺五寸　六尺四寸　九、九〇〇　三、八〇〇
三尺二寸　六尺四寸　一二、〇〇〇　一四、九二〇

◎舞良戸及帶戸用（二分厚）

三枚合　片面及兩面
楢樺櫻しな栓黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺三　六尺　片　三、九〇〇　五、一〇〇
兩　五、三〇〇　七、〇一〇
楓　二尺三　六尺　片　四、九〇〇　六、五〇〇
兩　六、七四〇　八、七二〇
楢樺櫻しな栓黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
三尺五分　六尺　片　五、九四〇　七、七四〇
兩　八、〇三〇　一〇、四三〇
楓　片　七、六五〇　九、七一〇
三尺五分　六尺　兩　一〇、三二〇　一三、一三〇

◎楓

三枚合　一分五厘厚三枚合
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　四尺　一、三七〇　一、七九〇

二尺　五尺　一、三七〇　一、四七〇
二尺　六尺　一、三七〇　一、四七〇

同品　二分厚三枚合片面
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺五　五尺　一、三七〇　一、五〇〇
二尺五　六尺　一、四三〇　一、五八〇
三尺　六尺　一、五〇〇　一、六五〇
三尺五　七尺　一、六二〇　一、七三〇
八尺　一、七三〇　一、九〇〇
八尺　一、八三〇　二、〇一〇

◎杢物楓栓（一分五厘厚）

三枚合片面（一平方尺）
寸法　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
一尺五角　一、四〇　一、〇〇　一、五〇〇
二尺角　一、八〇　一、一〇〇　一、六五〇
同品　二分厚　三枚合片面
二尺五角　一、七〇　一、二五〇　一、七三〇
三尺角　二、一〇　一、五〇〇　二、一八〇
三尺五角　二、四五〇　一、七五〇　二、五二〇
四尺角　二、八〇　二、〇〇〇　二、九二〇

◎杢物楓、（一分五厘厚）

巾　長　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
二尺　四尺　一、八〇　一、一〇〇　一、六五〇
二尺　五尺　二、〇五〇　一、二五〇　一、八三〇
二尺　六尺　二、三〇　一、四〇〇　二、〇五〇
同品　二分厚
二尺五　五尺　二、〇五〇　一、二五〇　一、七三〇
二尺五　六尺　二、三〇　一、四〇〇　二、〇五〇
三尺　六尺　二、五五〇　一、五五〇　二、二八〇
三尺五　七尺　二、八〇　一、七〇〇　二、五三〇
三尺五　八尺　三、〇五〇　一、八五〇　二、七〇〇
四尺　八尺　三、四〇　二、〇七〇　三、〇八〇

◎楢柾目（一分五厘又八二分）

三枚合　片面　一平方尺二付
巾　長
二尺　六尺　二、六〇　三、〇〇　三、九〇
二尺五　同　三、二〇　三、七〇　四、七〇
三尺　同　三、八〇　四、四〇　五、八〇

◎製圖版櫃

七分厚　三尺巾　四尺長一枚　一三、〇〇
同　二尺五寸　三尺五　同　一一、〇〇

◎丸鐵

山本東作商店

| 徑 | 長サ | | |

| | | |

一寸二分	同	四三五	三寸	同	四七〇
一寸一四分	同	四〇〇	二寸	同	四七〇
一寸六分	同	四〇〇	一寸五分	同	四七〇
二寸	同	四〇〇	一寸四分	同	四七〇
三寸	同	四〇一	一寸三分	同	四七〇
三寸半	同	四〇一	一寸二分	同	四七〇
四寸	同	四〇一	一寸一分	同	四七〇
四寸半	同	四〇一	一寸	同	四七〇
五寸	同	四〇一	九分	同	四七〇
五寸半	同	四〇一	八分	同	四七〇
六寸	同	四〇一	七分	同	四七〇
六寸半	同	四〇一	六分	同	四七〇
七寸	同	四〇一	五分	同	四七〇
七寸半	同	四〇一	四分	同	四七〇
八寸	同	四〇一	三分	十二尺位	四七〇
八寸半	同	四〇一	二分	同	四七〇
九寸	同	四〇一	一分	同	四七〇
九寸半	同	四〇一	五厘	同	四七〇
十寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
十寸半	同	四〇一	三厘	同	四七〇
十一寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
十一寸半	同	四〇一	一厘	同	四七〇
十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
四十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
四十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
四十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
四十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
四十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
四十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
四十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
四十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
四十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
四十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
五十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
五十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
五十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
五十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
五十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
五十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
五十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
五十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
五十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
五十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
六十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
六十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
六十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
六十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
六十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
六十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
六十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
六十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
六十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
六十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
七十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
七十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
七十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
七十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
七十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
七十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
七十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
七十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
七十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
七十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
八十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
八十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
八十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
八十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
八十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
八十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
八十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
八十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
八十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
八十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
九十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
九十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
九十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
九十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
九十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
九十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
九十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
九十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
九十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
九十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百二十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百二十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百二十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百二十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百二十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百二十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百二十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百二十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百二十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百二十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百三十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百三十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百三十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百三十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百三十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百三十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百三十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百三十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百三十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百三十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百四十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百四十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百四十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百四十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百四十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百四十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百四十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百四十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百四十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百四十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百五十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百五十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百五十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百五十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百五十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百五十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百五十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百五十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百五十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百五十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百六十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百六十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百六十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百六十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百六十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百六十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百六十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百六十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百六十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百六十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百七十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百七十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百七十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百七十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百七十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百七十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百七十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百七十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百七十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百七十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百八十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百八十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百八十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百八十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百八十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百八十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百八十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百八十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百八十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百八十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百九十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百九十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百九十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百九十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百九十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
一百九十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
一百九十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
一百九十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
一百九十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
一百九十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百二十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百二十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百二十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百二十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百二十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百二十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百二十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百二十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百二十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百二十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百三十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百三十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百三十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百三十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百三十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百三十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百三十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百三十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百三十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百三十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百四十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百四十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百四十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百四十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百四十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百四十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百四十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百四十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百四十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百四十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百五十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百五十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百五十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百五十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百五十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百五十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百五十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百五十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百五十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百五十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百六十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百六十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百六十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百六十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百六十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百六十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百六十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百六十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百六十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百六十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百七十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百七十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百七十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百七十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百七十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百七十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百七十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百七十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百七十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百七十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百八十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百八十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百八十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百八十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百八十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百八十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百八十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百八十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百八十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百八十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百九十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百九十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百九十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百九十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百九十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
二百九十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
二百九十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
二百九十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
二百九十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
二百九十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百二十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百二十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百二十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百二十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百二十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百二十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百二十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百二十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百二十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百二十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百三十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百三十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百三十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百三十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百三十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百三十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百三十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百三十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百三十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百三十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百四十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百四十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百四十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百四十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百四十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百四十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百四十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百四十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百四十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百四十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百五十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百五十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百五十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百五十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百五十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百五十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百五十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百五十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百五十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百五十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百六十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百六十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百六十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百六十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百六十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百六十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百六十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百六十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百六十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百六十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百七十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百七十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百七十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百七十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百七十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百七十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百七十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百七十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百七十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百七十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百八十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百八十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百八十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百八十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百八十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百八十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百八十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百八十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百八十八寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百八十九寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百九十寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百九十一寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百九十二寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百九十三寸	同	四〇一	四厘	同	四七〇
三百九十四寸	同	四〇一	三厘	同	四七〇
三百九十五寸	同	四〇一	二厘	同	四七〇
三百九十六寸	同	四〇一	一厘	同	四七〇
三百九十七寸	同	四〇一	五厘	同	四七〇
三百九十八寸	同	四〇一

●第八集　第四号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
井上幸三郎商店
飾磨化学工業
大野正営業所
大塚鉄工所
ロック、アスファルト工業
浅野スレート販売
政正
石綿スレート大阪支店
二和商会
南満鉱業
日本セメント防水剤製造所
日本アスベスト大阪支店
浅野物産
ベニア商会
木下商店
丸三セメント工業所
田村商会
大阪ビトロライト工事
日本メタルラス製造所
HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所

大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
駒崎化学建材研究所
湯浅蓄電池製造
共益社
奥村重兵衛商店
日本建築紙工大阪出張所
今崎製作所
中村グラニット商会
小野田セメント製造
原田商会
浅野スレート販売大阪出張所
中尾窯業商会
日米工務所
野沢幸三郎商店
東洋コルク工業
金剛商会
高木鉄工所
カール・ツアイス
開運スレート商会
山口リノタイト商会

桐田商会
建築金物商会
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
東亜ペイント製造
大東塗料
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所

柳下建築事務所
増田清建築事務所
前田松本建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店

正木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大理石工業
須賀商会
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
米山製作所
高島屋呉服店
城口研究所

サカイブン建築鉄工所
浅海商店
浜口商店
ベニス工房
関西大理石工業所
セール、フレザー
星製薬
河村青写真調製所
阿部鉄工所
東京建鉄
日本工剤
内外土木建築材料
山中商会
日本耐火スレート
金属建材工作所
裳華房
大阪耐火リノリウム工業
日米板硝子
日本木材工芸
長田商店